

令和7年度
全国役員会・春季総会・研究協議会

資 料

—— 令和7年5月 ——



全国商業高等学校長協会

目 次

【報告事項】

理事長報告	1
令和6年度卒業生成績優秀者表彰 表彰者数集計表	3
令和6年度三種目以上1級合格者表彰（種目別集計表）	4
令和6年度第32回全国高等学校生徒商業研究発表大会 成績表	5
令和6年度卒業生進路調査（令和7年3月卒業生）	6
令和6年度大学陳情結果報告	19
令和7年度大学特別推薦大学一覧（令和8年度入学）	21
令和6年度学校表彰受賞校一覧	23
令和6年度総合優勝表彰受賞一覧	25
令和6年度海外研修事業報告書	26
令和7年度海外研修事業	55

【協議事項】

令和6年度事業報告書	58
令和6年度会計収支計算書	60
令和6年度監査報告書	61
令和7年度役員名簿	62
令和7年度会務分掌	64
令和7年度各種委員会名簿	65
令和7年度事業計画	66
令和7年度会計収支予算書	67
令和8年度全国商業高等学校英語スピーチコンテスト実施日の変更	68
年度別各種行事開催地一覧	69

【参考資料】

令和7年度第73回全国商業教育研究大会	70
全国商業教育研究大会指定発表ブロック割当一覧	71
秋季総会・研究協議会について（ご案内）	73
総会・研究協議会ブロック分担表（令和7年度～令和13年度）	75
公益財団法人全国商業高等学校協会諸連絡	76
令和6年度公益財団法人全国商業高等学校協会事業報告	78
令和7年度公益財団法人全国商業高等学校協会事業計画	83
令和7年度 各種検定試験受験料一覧	84
令和9年度以降英語検定試験実施日の変更について	85
令和7年度商業教育講習会一覧	86
施設・事業活動賠償責任保険、傷害保険、動産総合保険、サイバー保険	87
主要行事予定(公益財団法人 産業教育振興中央会)	91
全国産業教育フェア参加県ローテーション	92
全国産業教育フェア福島大会リーフレット	93

※令和6年度秋季全国役員会／総会以降

1 理事長職務執行

第3回本部役員会（11/9）

議案なし（報告事項のみ）

第4回本部役員会（1/11）

第1号議案 第5回本部役員会の延期

第5回本部役員会（3/15）

第1号議案 令和7年度春季全国役員会・総会・研究協議会

第2号議案 令和7年度事業計画

第3号議案 令和7年度校長協会会計収支予算

第6回本部役員会（4/5）

第1号議案 令和7年度会務分掌

第2号議案 令和7年度各種委員会名簿

第7回本部役員会（4/26）

第1号議案 令和6年度事業報告

第2号議案 令和6年度会計収支計算書

第3号議案 監査報告

第4号議案 令和7年度会務分掌及び役員名簿

第5号議案 令和7年度春季全国役員会・総会・研究協議会

第6号議案 令和8年度全国商業高等学校英語スピーチコンテスト実施日の変更

2 会議等出席（公益財団事業除く）

＜全商関係＞

- ・ 10/20 全国産フェア催し物検討委員会
- ・ 11/8 第2回就職問題連絡協議会
- ・ 11/9 本部役員会／総務委員会／商業教育対策委員会
都道府県連絡理事連絡協議会
- ・ 11/16 令和6年度海外研修事業第2回事前研修（オンライン研修）
- ・ 11/20・21 第32回全国高等学校生徒商業研究発表大会
（北海道・コーチャンフォー釧路文化ホール）
- ・ 12/16 令和6年度海外研修事業前日研修（千葉・ホテル日航成田）
- ・ 12/17～21 令和6年度海外研修事業（マレーシア）
- ・ 1/11 本部役員会／総務委員会／大学入試対策委員会／就職対策委員会
商業教育対策委員会
- ・ 3/15 本部役員会／総務委員会
- ・ 4/5 本部役員会／就職対策委員会／学校表彰委員会／商業教育対策委員会
大学入試対策委員会／全国商業教育指導者研修会実践報告審査会
- ・ 4/26 本部役員会／総務委員会／校長会会計内部監査

3 全国競技大会関係

第 32 回全国高等学校生徒商業研究発表大会 (11/20～21)

最優秀賞	岐阜県立大垣商業高等学校
優秀賞	群馬県立高崎商業高等学校
	愛知県立愛知商業高等学校
	広島県立広島商業高等学校

4 表彰等

(1) 学校表彰 ※都道府県順

北海道函館商業高等学校	栃木県立宇都宮商業高等学校
石川県立小松商業高等学校	高知市立高知商業高等学校
佐賀県立佐賀商業高等学校	

(2) 指導者研修 ※都道府県順

兵庫県立神戸商業高等学校	小寺 幸恵
高知県立宿毛高等学校	北川 紫陽
長崎県立佐世保商業高等学校	前田 玲子

※春季総会発表

(3) 総合優勝表彰

総合優勝	愛知県
準優勝	岐阜県
第三位	広島県
第三位	福岡県

令和6年度卒業生成績優秀者表彰 表彰者数集計表

都道府県	表彰者数	会員校数	都道府県	表彰者数	会員校数
北海道	82	106	滋賀県	9	9
青森県	17	20	京都府	9	15
岩手県	19	20	大阪府	16	23
宮城県	22	27	兵庫県	38	42
秋田県	29	28	奈良県	6	6
山形県	15	16	和歌山県	17	21
福島県	18	33	鳥取県	15	18
茨城県	29	36	島根県	8	15
栃木県	23	21	岡山県	22	29
群馬県	25	25	広島県	19	21
埼玉県	50	58	山口県	28	34
千葉県	32	34	香川県	12	17
山梨県	10	10	徳島県	12	12
東京都	26	32	愛媛県	39	37
神奈川県	17	21	高知県	15	18
新潟県	23	32	福岡県	41	47
富山県	9	12	佐賀県	17	15
石川県	16	23	長崎県	32	33
福井県	8	8	熊本県	24	23
長野県	22	21	大分県	24	24
静岡県	35	43	宮崎県	23	22
愛知県	47	56	鹿児島県	40	41
岐阜県	26	24	沖縄県	16	17
三重県	23	31	合 計	1,105	1,276
			前年度合計	1,151	1,316

令和6年度 三種目以上1級合格者表彰 種目別集計表

令和7年3月4日時点

No.	都道府県	校数	三種目	四種目	五種目	六種目	七種目	八種目	九種目	計
1	北海道	33	287	165	101	58	30	8	4	653
2	青森県	6	45	25	22	11	8	2	2	115
3	岩手県	13	83	36	11	1	0	0	0	131
4	宮城県	9	113	54	34	16	3	1	0	221
5	秋田県	7	18	15	3	2	0	0	1	39
6	山形県	8	70	56	14	4	0	0	0	144
7	福島県	14	101	50	29	16	5	3	0	204
8	茨城県	12	143	120	109	57	16	7	2	454
9	栃木県	17	134	103	116	70	53	40	19	535
10	群馬県	12	186	145	98	60	19	7	1	516
11	埼玉県	20	164	113	51	23	7	4	0	362
12	千葉県	11	107	36	23	9	4	4	2	185
13	山梨県	6	25	18	15	8	4	1	0	71
14	東京都	11	46	18	4	2	1	1	0	72
15	神奈川県	9	59	18	5	3	0	1	0	86
16	新潟県	9	138	72	57	13	1	1	0	282
17	富山県	9	104	47	50	18	2	2	0	223
18	石川県	9	52	29	27	15	7	4	1	135
19	福井県	7	106	86	48	16	8	4	0	268
20	長野県	9	34	14	6	4	1	1	0	60
21	静岡県	17	153	104	57	27	17	8	3	369
22	愛知県	35	291	157	38	17	10	4	2	519
23	岐阜県	18	258	181	90	35	11	4	0	579
24	三重県	8	88	71	32	15	4	1	2	213
25	滋賀県	4	45	30	11	15	8	4	0	113
26	京都府	6	15	5	4	2	2	0	0	28
27	大阪府	11	57	19	12	4	2	2	1	97
28	兵庫県	24	162	78	41	28	20	10	8	347
29	奈良県	4	49	65	34	16	16	3	1	184
30	和歌山県	7	36	13	7	1	1	1	0	59
31	鳥取県	4	33	19	5	1	0	0	0	58
32	島根県	6	68	28	12	5	1	0	0	114
33	岡山県	14	249	163	84	26	7	3	1	533
34	広島県	9	29	6	8	5	0	0	0	48
35	山口県	15	106	54	31	9	6	0	1	207
36	香川県	10	66	49	42	13	3	1	0	174
37	徳島県	7	20	12	8	7	6	3	1	57
38	愛媛県	21	144	122	67	57	31	6	7	434
39	高知県	4	41	22	11	3	0	0	0	77
40	福岡県	17	145	66	41	19	2	2	2	277
41	佐賀県	11	98	56	35	19	5	1	2	216
42	長崎県	18	91	75	48	20	12	2	2	250
43	熊本県	18	103	62	42	11	3	1	0	222
44	大分県	13	78	54	20	11	1	1	0	165
45	宮崎県	13	74	33	21	10	7	6	3	154
46	鹿児島県	30	121	98	73	41	34	18	9	394
47	沖縄県	6	27	16	8	1	1	1	0	54
合計		581	4,662	2,878	1,705	824	379	173	77	10,698
前年度		622	5,410	3,253	1,853	787	404	182	77	11,966

商業教育140周年記念 令和6年度第32回全国高等学校生徒商業研究発表大会 成績表

令和6年11月21日(木)

賞	ブロック	都道府県	学 校 名	事前審査 300点満点	当日審査 200点満点	減点	総合得点	備 考
最優秀賞	東海	岐阜県	岐阜県立大垣商業高等学校	276	174	0	450	文部科学大臣賞 産業教育振興中央会賞
優秀賞	関東	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	233	177	0	410	
優秀賞	東海	愛知県	愛知県立愛知商業高等学校	224	180	0	404	
優秀賞	中国	広島県	広島県立広島商業高等学校	233	169	-5	397	
優良賞	中国	岡山県	岡山県立岡山南高等学校	219	177	0	396	
優良賞	四国	高知県	高知商業高等学校	217	178	0	395	
優良賞	関東	山梨県	山梨県立青洲高等学校	212	180	0	392	
優良賞	関東	千葉県	千葉県立東金商業高等学校	218	167	0	385	
優良賞	東北	山形県	山形市立商業高等学校	213	172	0	385	
奨励賞	九州	長崎県	長崎市立長崎商業高等学校					
奨励賞	北海道	北海道	北海道札幌東商業高等学校					
奨励賞	北海道	北海道	北海道千歳高等学校					
奨励賞	九州	熊本県	熊本県立球磨中央高等学校					
奨励賞	九州	鹿児島県	鹿児島県立屋久島高等学校					
奨励賞	近畿	大阪府	岸和田市立産業高等学校					
奨励賞	北信越	新潟県	新潟県立新発田商業高等学校					
奨励賞	北信越	福井県	福井県立福井商業高等学校					
奨励賞	東北	山形県	山形県立米沢商業高等学校					
奨励賞	近畿	奈良県	奈良県立商業高等学校					
奨励賞	北海道	北海道	北海道札幌国際情報高等学校					
奨励賞	四国	香川県	香川県立坂出商業高等学校					

成績表の奨励賞は大会での発表順です。

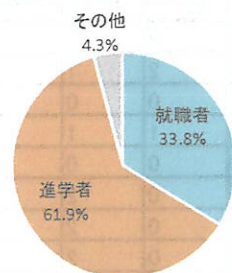
令和6年度 卒業生進路調査

(令和7年3月卒業生のうち、会員校で商業関係科目を履修し卒業した生徒対象)

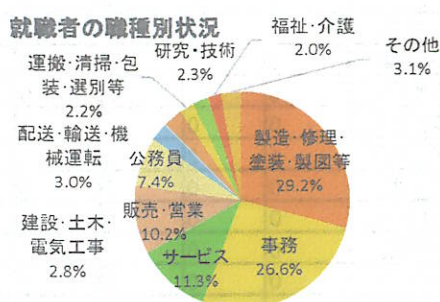
就職者

	男子	女子	計	割合
管理的職業従事者	23	39	62	0.2%
研究・技術の職業従事者	362	229	591	2.3%
法務・経営・文化芸術等の専門的職業従事者	19	58	77	0.3%
医療・看護・保健の職業従事者	14	166	180	0.7%
保育・教育の職業従事者	4	43	47	0.2%
事務的職業従事者	942	5,817	6,759	26.6%
販売・営業の職業従事者	876	1,714	2,590	10.2%
福祉・介護の職業従事者	153	351	504	2.0%
サービスの職業従事者	878	1,987	2,865	11.3%
警備・保安の職業従事者	162	101	263	1.0%
農林漁業の職業従事者	110	43	153	0.6%
製造・修理・塗装・製図等の職業従事者	4,408	3,021	7,429	29.2%
配送・輸送・機械運転の職業従事者	563	193	756	3.0%
建設・土木・電気工事の職業従事者	635	68	703	2.8%
運搬・清掃・包装・選別等の職業従事者	330	235	565	2.2%
民間就職者合計	9,479	14,065	23,544	92.6%
国家公務員	429	231	660	2.6%
地方公務員	584	569	1,153	4.5%
その他公務員	40	27	67	0.3%
就職者合計	10,532	14,892	25,424	100.0%
家業・家事手伝い従事者	223	310	533	
長期アルバイト・フリーター	309	568	877	
就職未決定者	227	270	497	
就職希望者合計	11,291	16,040	27,331	

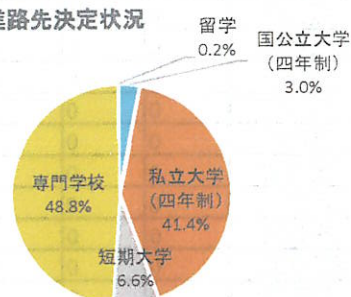
令和6年度3月卒業生の進路状況



就職者の職種別状況



進学者の進路先決定状況



進学者

	男子			女子			計			
	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計
4年制大学										
国公立	96	142	401	54	175	538	150	317	939	1,406
私立	744	3,284	6,430	519	2,697	5,602	1,263	5,981	12,032	19,276
合計	840	3,426	6,831	573	2,872	6,140	1,413	6,298	12,971	20,682
短期大学										
国公立	19	15	55	13	62	118	32	77	173	282
私立	32	126	194	69	875	1,488	101	1,001	1,682	2,784
合計	51	141	249	82	937	1,606	133	1,078	1,855	3,066
専門学校進学者	8,400			14,301			22,701			
留学決定者	36			69			105			
進学者合計	19,974			26,580			46,554			
未定者(浪人・予備校等)	311			194			505			
進学希望者合計	20,285			26,774			47,059			
進路未定者	359			434			793			
総合計	31,935			43,248			75,183			

令和6年度 卒業生進路調査

(令和7年3月卒業生のうち、会員校で商業関係科目を履修し卒業した生徒対象)

No.	都道府県名	管理的職業従事者			研究・技術の職業従事者			法務・経営・文化芸術等の専門的職業従事者			医療・看護・保健の職業従事者		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1	北海道	2	2	4	11	6	17	0	2	2	0	13	13
2	青森県	2	1	3	22	9	31	0	0	0	0	0	0
3	岩手県	0	0	0	6	4	10	0	2	2	0	2	2
4	宮城県	1	1	2	10	2	12	0	0	0	1	4	5
5	秋田県	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0
6	山形県	0	2	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0
7	福島県	0	2	2	9	7	16	1	4	5	1	1	2
8	茨城県	0	2	2	9	12	21	0	1	1	1	2	3
9	栃木県	1	2	3	4	9	13	0	0	0	0	4	4
10	群馬県	1	0	1	5	6	11	3	1	4	0	1	1
11	埼玉県	0	2	2	20	9	29	1	1	2	0	7	7
12	千葉県	1	1	2	15	2	17	1	2	3	0	1	1
13	山梨県	0	2	2	0	2	2	0	0	0	1	0	1
14	東京都	0	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0
15	神奈川県	1	2	3	2	0	2	0	1	1	0	1	1
16	新潟県	0	0	0	3	5	8	1	1	2	0	1	1
17	富山県	0	0	0	6	3	9	0	0	0	0	1	1
18	石川県	0	0	0	4	11	15	0	1	1	0	1	1
19	福井県	0	0	0	2	1	3	1	0	1	0	1	1
20	長野県	0	0	0	5	2	7	0	0	0	0	0	0
21	静岡県	2	5	7	17	16	33	0	4	4	1	9	10
22	愛知県	0	0	0	22	34	56	2	14	16	1	13	14
23	岐阜県	0	0	0	14	10	24	0	1	1	0	4	4
24	三重県	0	0	0	4	2	6	3	1	4	0	1	1
25	滋賀県	0	0	0	5	7	12	0	0	0	0	5	5
26	京都府	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0
27	大阪府	0	0	0	3	2	5	0	0	0	0	2	2
28	兵庫県	0	0	0	23	9	32	0	0	0	1	10	11
29	奈良県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	和歌山県	0	0	0	13	3	16	0	0	0	0	1	1
31	鳥取県	0	3	3	5	1	6	0	0	0	1	2	3
32	島根県	0	0	0	17	4	21	0	1	1	0	0	0
33	岡山県	2	0	2	1	2	3	0	0	0	0	4	4
34	広島県	1	1	2	8	4	12	0	1	1	0	2	2
35	山口県	0	0	0	2	2	4	0	0	0	3	11	14
36	香川県	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	2	2
37	徳島県	0	1	1	4	2	6	1	1	2	0	0	0
38	愛媛県	0	0	0	3	2	5	1	0	1	0	0	0
39	高知県	0	0	0	3	3	6	0	0	0	0	1	1
40	福岡県	0	3	3	9	4	13	0	4	4	0	20	20
41	佐賀県	0	0	0	19	4	23	0	0	0	2	12	14
42	長崎県	1	0	1	13	2	15	2	6	8	0	11	11
43	熊本県	6	3	9	1	6	7	1	1	2	0	4	4
44	大分県	0	0	0	2	4	6	0	3	3	0	1	1
45	宮崎県	1	4	5	7	6	13	1	2	3	0	2	2
46	鹿児島県	0	0	0	9	5	14	0	1	1	1	7	8
47	沖縄県	1	0	1	6	2	8	0	2	2	0	2	2
	合計	23	39	62	362	229	591	19	58	77	14	166	180

No.	都道府県名	保育・教育の職業従事者			事務的職業従事者			販売・営業の職業従事者			福祉・介護の職業従事者		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1	北海道	0	2	2	76	353	429	71	158	229	10	27	37
2	青森県	0	1	1	14	82	96	24	48	72	4	12	16
3	岩手県	0	0	0	18	123	141	15	22	37	5	4	9
4	宮城県	0	0	0	18	106	124	34	55	89	1	14	15
5	秋田県	0	0	0	7	30	37	10	10	20	2	2	4
6	山形県	0	0	0	7	80	87	13	16	29	2	5	7
7	福島県	1	1	2	24	165	189	17	38	55	0	1	1
8	茨城県	0	2	2	42	167	209	24	43	67	5	25	30
9	栃木県	0	1	1	30	171	201	19	30	49	0	4	4
10	群馬県	0	0	0	33	120	153	26	32	58	4	13	17
11	埼玉県	0	4	4	43	224	267	44	72	116	5	10	15
12	千葉県	0	4	4	29	95	124	12	15	27	2	2	4
13	山梨県	0	0	0	6	52	58	3	14	17	1	0	1
14	東京都	0	0	0	40	126	166	17	24	41	2	5	7
15	神奈川県	0	0	0	22	85	107	20	18	38	2	0	2
16	新潟県	0	0	0	15	55	70	0	4	4	0	2	2
17	富山県	0	0	0	8	59	67	7	10	17	0	3	3
18	石川県	0	0	0	6	86	92	0	13	13	1	1	2
19	福井県	1	0	1	6	71	77	5	8	13	0	1	1
20	長野県	0	0	0	12	62	74	13	16	29	1	0	1
21	静岡県	0	6	6	60	300	360	58	103	161	5	22	27
22	愛知県	0	3	3	54	602	656	28	134	162	8	32	40
23	岐阜県	0	0	0	36	189	225	17	29	46	2	4	6
24	三重県	1	1	2	14	195	209	17	46	63	11	15	26
25	滋賀県	0	1	1	5	55	60	5	29	34	0	1	1
26	京都府	0	0	0	1	18	19	2	8	10	0	0	0
27	大阪府	0	0	0	18	128	146	20	35	55	6	6	12
28	兵庫県	0	0	0	26	164	190	35	75	110	8	20	28
29	奈良県	0	0	0	9	34	43	2	2	4	0	0	0
30	和歌山県	0	0	0	11	74	85	8	30	38	2	7	9
31	鳥取県	0	0	0	13	52	65	22	28	50	3	4	7
32	島根県	0	0	0	7	38	45	16	18	34	4	5	9
33	岡山県	0	0	0	16	139	155	29	43	72	2	6	8
34	広島県	0	1	1	15	121	136	29	58	87	6	12	18
35	山口県	0	1	1	21	185	206	12	35	47	5	12	17
36	香川県	0	0	0	0	29	29	4	4	8	0	1	1
37	徳島県	0	0	0	6	34	40	11	8	19	1	0	1
38	愛媛県	0	1	1	4	54	58	4	10	14	0	3	3
39	高知県	0	0	0	3	24	27	7	5	12	2	0	2
40	福岡県	0	4	4	37	236	273	43	77	120	7	18	25
41	佐賀県	0	0	0	21	133	154	10	14	24	4	2	6
42	長崎県	0	3	3	24	150	174	21	48	69	3	7	10
43	熊本県	0	0	0	19	125	144	22	63	85	3	4	7
44	大分県	0	0	0	5	91	96	10	40	50	5	11	16
45	宮崎県	1	1	2	12	114	126	11	21	32	2	8	10
46	鹿児島県	0	1	1	32	160	192	40	74	114	7	13	20
47	沖縄県	0	5	5	17	61	78	19	31	50	10	7	17
	合計	4	43	47	942	5,817	6,759	876	1,714	2,590	153	351	504

No.	都道府県名	サービスの職業従事者			警備・保安の職業従事者			農林漁業の職業従事者			製造・修理・塗装・製図等の職業従事者		
		男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	計
1	北海道	96	143	239	15	11	26	19	6	25	119	51	170
2	青森県	26	38	64	6	4	10	3	2	5	35	26	61
3	岩手県	28	37	65	4	4	8	1	0	1	97	66	163
4	宮城県	24	70	94	7	2	9	4	1	5	109	75	184
5	秋田県	10	22	32	2	0	2	0	1	1	32	14	46
6	山形県	23	25	48	0	0	0	0	0	0	45	54	99
7	福島県	12	46	58	5	0	5	0	0	0	93	88	181
8	茨城県	19	51	70	4	3	7	2	0	2	236	126	362
9	栃木県	14	32	46	4	2	6	2	0	2	193	124	317
10	群馬県	16	28	44	2	1	3	0	1	1	172	61	233
11	埼玉県	15	35	50	5	2	7	0	0	0	122	81	203
12	千葉県	28	29	57	8	2	10	2	0	2	67	11	78
13	山梨県	7	18	25	0	0	0	1	0	1	18	30	48
14	東京都	11	22	33	1	0	1	0	0	0	3	7	10
15	神奈川県	15	21	36	0	3	3	3	0	3	52	27	79
16	新潟県	2	8	10	0	1	1	0	0	0	25	15	40
17	富山県	6	10	16	0	0	0	2	0	2	58	27	85
18	石川県	1	9	10	0	0	0	0	1	1	22	40	62
19	福井県	2	8	10	0	1	1	1	0	1	29	38	67
20	長野県	15	18	33	1	2	3	3	0	3	107	61	168
21	静岡県	60	133	193	15	5	20	11	3	14	395	297	692
22	愛知県	35	157	192	1	1	2	1	0	1	281	437	718
23	岐阜県	18	24	42	4	2	6	2	0	2	204	77	281
24	三重県	18	56	74	1	0	1	6	2	8	291	183	474
25	滋賀県	11	28	39	0	0	0	0	1	1	76	76	152
26	京都府	2	6	8	0	0	0	0	0	0	24	7	31
27	大阪府	11	19	30	12	0	12	0	0	0	44	23	67
28	兵庫県	30	69	99	4	0	4	0	0	0	156	109	265
29	奈良県	6	8	14	0	0	0	0	0	0	19	9	28
30	和歌山県	26	45	71	3	4	7	1	1	2	67	34	101
31	鳥取県	29	47	76	7	4	11	5	0	5	63	33	96
32	島根県	7	19	26	1	0	1	0	0	0	58	27	85
33	岡山県	17	33	50	1	0	1	2	1	3	129	55	184
34	広島県	11	39	50	6	1	7	1	10	11	89	42	131
35	山口県	14	46	60	2	2	4	0	1	1	112	81	193
36	香川県	1	8	9	1	0	1	0	0	0	9	6	15
37	徳島県	9	10	19	2	0	2	2	1	3	75	37	112
38	愛媛県	4	10	14	0	0	0	0	0	0	22	18	40
39	高知県	14	25	39	1	0	1	2	0	2	20	18	38
40	福岡県	39	70	109	3	6	9	14	0	14	211	113	324
41	佐賀県	13	75	88	2	1	3	1	0	1	72	68	140
42	長崎県	25	108	133	2	4	6	3	1	4	60	40	100
43	熊本県	7	30	37	5	2	7	0	1	1	69	48	117
44	大分県	15	54	69	2	5	7	0	1	1	52	37	89
45	宮崎県	20	64	84	1	1	2	2	1	3	83	42	125
46	鹿児島県	38	77	115	7	7	14	13	7	20	83	74	157
47	沖縄県	28	57	85	15	18	33	1	0	1	10	8	18
	合計	878	1,987	2,865	162	101	263	110	43	153	4,408	3,021	7,429

No.	都道府県名	配送・輸送・機械運転の職業従事者			建設・土木・電気工事の職業従事者			運搬・清掃・包装・選別等の職業従事者			民間就職者合計		
		男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
1	北海道	34	6	40	108	2	110	20	6	26	581	788	1,369
2	青森県	7	3	10	13	0	13	1	2	3	157	228	385
3	岩手県	11	4	15	13	0	13	7	3	10	205	271	476
4	宮城県	15	4	19	11	4	15	19	5	24	254	343	597
5	秋田県	4	0	4	3	1	4	1	1	2	78	81	159
6	山形県	4	0	4	7	2	9	6	5	11	109	190	299
7	福島県	5	5	10	3	0	3	3	7	10	174	365	539
8	茨城県	24	2	26	29	8	37	13	8	21	408	452	860
9	栃木県	7	3	10	14	0	14	9	7	16	297	389	686
10	群馬県	10	5	15	12	3	15	6	7	13	290	279	569
11	埼玉県	14	2	16	15	2	17	10	11	21	294	462	756
12	千葉県	9	5	14	12	0	12	2	3	5	188	172	360
13	山梨県	1	1	2	1	0	1	1	2	3	40	121	161
14	東京都	10	1	11	7	1	8	15	1	16	109	188	297
15	神奈川県	15	2	17	3	2	5	10	5	15	145	167	312
16	新潟県	1	3	4	3	0	3	4	8	12	54	103	157
17	富山県	5	1	6	7	0	7	0	1	1	99	115	214
18	石川県	3	1	4	0	0	0	0	2	2	37	166	203
19	福井県	5	2	7	1	0	1	1	1	2	54	132	186
20	長野県	4	6	10	9	1	10	4	2	6	174	170	344
21	静岡県	40	10	50	47	7	54	18	11	29	729	931	1,660
22	愛知県	27	16	43	15	5	20	9	31	40	484	1,479	1,963
23	岐阜県	17	2	19	16	1	17	7	2	9	337	345	682
24	三重県	18	6	24	16	0	16	15	16	31	415	524	939
25	滋賀県	5	1	6	2	0	2	0	4	4	109	208	317
26	京都府	3	1	4	0	0	0	0	0	0	37	40	77
27	大阪府	16	3	19	8	2	10	7	3	10	145	223	368
28	兵庫県	21	14	35	22	2	24	9	9	18	335	481	816
29	奈良県	4	2	6	3	0	3	0	0	0	43	55	98
30	和歌山県	17	3	20	21	0	21	6	0	6	175	202	377
31	鳥取県	12	1	13	24	0	24	6	3	9	190	178	368
32	島根県	8	1	9	16	0	16	2	2	4	136	115	251
33	岡山県	29	16	45	10	1	11	1	2	3	239	302	541
34	広島県	16	5	21	8	0	8	14	6	20	204	303	507
35	山口県	13	10	23	25	1	26	8	9	17	217	396	613
36	香川県	0	2	2	4	1	5	1	0	1	22	54	76
37	徳島県	3	1	4	3	1	4	8	6	14	125	102	227
38	愛媛県	3	2	5	1	0	1	3	2	5	45	102	147
39	高知県	4	4	8	11	2	13	3	0	3	70	82	152
40	福岡県	31	14	45	32	4	36	27	18	45	453	591	1,044
41	佐賀県	7	0	7	6	0	6	9	6	15	166	315	481
42	長崎県	25	8	33	11	3	14	5	2	7	195	393	588
43	熊本県	7	1	8	4	2	6	4	3	7	148	293	441
44	大分県	11	3	14	14	1	15	7	2	9	123	253	376
45	宮崎県	4	6	10	8	4	12	6	2	8	159	278	437
46	鹿児島県	23	4	27	24	3	27	15	4	19	292	437	729
47	沖縄県	11	1	12	13	2	15	8	5	13	139	201	340
	合計	563	193	756	635	68	703	330	235	565	9,479	14,065	23,544

No.	都道府県名	国家公務員			地方公務員			その他公務員			就職者合計		
		男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
1	北海道	93	29	122	96	76	172	0	5	5	770	898	1,668
2	青森県	18	4	22	13	15	28	4	0	4	192	247	439
3	岩手県	4	2	6	12	7	19	0	1	1	221	281	502
4	宮城県	18	11	29	12	11	23	0	0	0	284	365	649
5	秋田県	3	4	7	12	13	25	0	0	0	93	98	191
6	山形県	4	2	6	8	11	19	2	1	3	123	204	327
7	福島県	2	0	2	13	15	28	1	1	2	190	381	571
8	茨城県	6	5	11	25	12	37	1	1	2	440	470	910
9	栃木県	3	1	4	3	3	6	0	0	0	303	393	696
10	群馬県	13	7	20	15	6	21	0	1	1	318	293	611
11	埼玉県	9	11	20	16	14	30	0	0	0	319	487	806
12	千葉県	5	1	6	23	14	37	2	0	2	218	187	405
13	山梨県	2	0	2	2	2	4	1	0	1	45	123	168
14	東京都	5	4	9	1	4	5	1	0	1	116	196	312
15	神奈川県	12	4	16	12	9	21	0	0	0	169	180	349
16	新潟県	1	4	5	7	8	15	0	0	0	62	115	177
17	富山県	4	0	4	6	6	12	0	0	0	109	121	230
18	石川県	0	2	2	5	3	8	0	0	0	42	171	213
19	福井県	2	8	10	9	9	18	0	0	0	65	149	214
20	長野県	2	2	4	9	11	20	0	0	0	185	183	368
21	静岡県	22	8	30	31	29	60	1	0	1	783	968	1,751
22	愛知県	5	14	19	5	80	85	0	1	1	494	1,574	2,068
23	岐阜県	8	4	12	30	15	45	0	0	0	375	364	739
24	三重県	5	1	6	14	16	30	0	0	0	434	541	975
25	滋賀県	2	2	4	1	7	8	0	0	0	112	217	329
26	京都府	0	0	0	1	0	1	1	0	1	39	40	79
27	大阪府	3	0	3	5	2	7	0	0	0	153	225	378
28	兵庫県	9	10	19	12	17	29	1	0	1	357	508	865
29	奈良県	1	0	1	4	0	4	0	0	0	48	55	103
30	和歌山県	3	2	5	9	10	19	0	0	0	187	214	401
31	鳥取県	16	1	17	10	5	15	0	0	0	216	184	400
32	島根県	8	2	10	15	8	23	0	0	0	159	125	284
33	岡山県	9	2	11	14	9	23	0	1	1	262	314	576
34	広島県	5	4	9	2	3	5	1	0	1	212	310	522
35	山口県	7	4	11	14	15	29	1	3	4	239	418	657
36	香川県	0	1	1	0	2	2	0	0	0	22	57	79
37	徳島県	3	1	4	4	1	5	1	0	1	133	104	237
38	愛媛県	5	1	6	11	7	18	0	0	0	61	110	171
39	高知県	2	3	5	14	14	28	2	1	3	88	100	188
40	福岡県	17	18	35	17	14	31	4	1	5	491	624	1,115
41	佐賀県	8	1	9	4	3	7	1	1	2	179	320	499
42	長崎県	11	13	24	20	15	35	2	1	3	228	422	650
43	熊本県	8	9	17	11	18	29	0	0	0	167	320	487
44	大分県	10	3	13	12	8	20	0	0	0	145	264	409
45	宮崎県	25	9	34	9	12	21	1	0	1	194	299	493
46	鹿児島県	23	11	34	15	9	24	5	2	7	335	459	794
47	沖縄県	8	6	14	1	1	2	7	6	13	155	214	369
	合計	429	231	660	584	569	1,153	40	27	67	10,532	14,892	25,424

No.	都道府県名	家業・家事手伝い従事者			長期アルバイト・フリーター			就職未決定者			就職希望者合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
1	北海道	10	16	26	10	15	25	16	31	47	806	960	1,766
2	青森県	3	6	9	2	3	5	7	3	10	204	259	463
3	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	2	2	221	283	504
4	宮城県	2	6	8	8	19	27	3	5	8	297	395	692
5	秋田県	0	0	0	0	2	2	3	1	4	96	101	197
6	山形県	1	1	2	2	6	8	0	2	2	126	213	339
7	福島県	12	8	20	1	4	5	0	0	0	203	393	596
8	茨城県	13	7	20	8	11	19	11	12	23	472	500	972
9	栃木県	11	7	18	3	12	15	3	1	4	320	413	733
10	群馬県	4	4	8	4	2	6	7	3	10	333	302	635
11	埼玉県	6	7	13	6	16	22	6	1	7	337	511	848
12	千葉県	2	4	6	4	7	11	4	3	7	228	201	429
13	山梨県	1	1	2	2	7	9	1	1	2	49	132	181
14	東京都	13	17	30	19	28	47	2	1	3	150	242	392
15	神奈川県	2	1	3	6	7	13	9	6	15	186	194	380
16	新潟県	1	0	1	0	1	1	0	0	0	63	116	179
17	富山県	0	1	1	2	4	6	0	0	0	111	126	237
18	石川県	0	1	1	0	2	2	1	4	5	43	178	221
19	福井県	0	3	3	2	3	5	0	0	0	67	155	222
20	長野県	3	5	8	2	7	9	14	6	20	204	201	405
21	静岡県	13	15	28	15	24	39	31	40	71	842	1,047	1,889
22	愛知県	17	39	56	34	80	114	2	9	11	547	1,702	2,249
23	岐阜県	3	3	6	3	7	10	2	1	3	383	375	758
24	三重県	4	19	23	23	38	61	8	5	13	469	603	1,072
25	滋賀県	2	1	3	1	3	4	0	2	2	115	223	338
26	京都府	0	1	1	3	2	5	1	0	1	43	43	86
27	大阪府	10	4	14	15	5	20	1	1	2	179	235	414
28	兵庫県	11	26	37	34	72	106	7	9	16	409	615	1,024
29	奈良県	2	1	3	0	5	5	0	0	0	50	61	111
30	和歌山県	1	5	6	9	13	22	5	13	18	202	245	447
31	鳥取県	2	1	3	4	11	15	8	6	14	230	202	432
32	島根県	2	0	2	2	0	2	3	7	10	166	132	298
33	岡山県	2	2	4	2	13	15	1	1	2	267	330	597
34	広島県	6	7	13	24	28	52	1	8	9	243	353	596
35	山口県	3	9	12	2	10	12	5	5	10	249	442	691
36	香川県	0	2	2	1	0	1	0	0	0	23	59	82
37	徳島県	8	7	15	1	2	3	0	2	2	142	115	257
38	愛媛県	1	2	3	0	1	1	0	1	1	62	114	176
39	高知県	0	1	1	0	3	3	2	2	4	90	106	196
40	福岡県	13	25	38	23	50	73	28	24	52	555	723	1,278
41	佐賀県	11	13	24	3	2	5	5	3	8	198	338	536
42	長崎県	11	8	19	1	2	3	3	13	16	243	445	688
43	熊本県	2	8	10	4	15	19	2	1	3	175	344	519
44	大分県	6	4	10	4	2	6	0	1	1	155	271	426
45	宮崎県	3	3	6	1	6	7	1	4	5	199	312	511
46	鹿児島県	5	6	11	7	5	12	4	8	12	351	478	829
47	沖縄県	1	3	4	12	13	25	20	22	42	188	252	440
	合計	223	310	533	309	568	877	227	270	497	11,291	16,040	27,331

No.	都道府県名	国公立大学										私立大学									
		男子			女子			計				男子			女子			計			
		一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計
1	北海道	29	15	35	13	20	23	42	35	58	135	113	185	370	70	156	328	183	341	698	1,222
2	青森県	4	6	9	2	5	16	6	11	25	42	9	36	65	3	25	64	12	61	129	202
3	岩手県	0	6	13	0	7	5	0	13	18	31	6	27	36	5	20	29	11	47	65	123
4	宮城県	14	0	12	6	3	9	20	3	21	44	33	78	147	14	42	99	47	120	246	413
5	秋田県	0	1	5	0	4	6	0	5	11	16	0	12	61	0	5	26	0	17	87	104
6	山形県	0	0	3	1	0	1	1	0	4	5	29	23	80	9	20	76	38	43	156	237
7	福島県	1	1	10	0	0	5	1	1	15	17	3	20	125	1	14	66	4	34	191	229
8	茨城県	0	0	1	0	0	2	0	0	3	3	7	103	192	7	78	124	14	181	316	511
9	栃木県	0	0	0	1	0	4	1	0	4	5	13	41	200	10	32	179	23	73	379	475
10	群馬県	0	0	13	0	1	8	0	1	21	22	3	58	289	2	23	167	5	81	456	542
11	埼玉県	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	12	120	238	4	57	167	16	177	405	598
12	千葉県	0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	16	191	306	5	79	146	21	270	452	743
13	山梨県	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	1	18	47	0	11	35	1	29	82	112
14	東京都	0	0	3	0	0	0	0	0	3	3	23	157	192	21	177	203	44	334	395	773
15	神奈川県	0	0	2	0	0	2	0	0	4	4	38	117	218	19	112	182	57	229	400	686
16	新潟県	0	1	10	1	0	3	1	1	13	15	5	34	114	1	21	70	6	55	184	245
17	富山県	1	0	11	0	1	16	1	1	27	29	0	37	106	1	24	68	1	61	174	236
18	石川県	0	0	2	0	0	9	0	0	11	11	0	10	37	0	9	42	0	19	79	98
19	福井県	0	0	6	0	3	21	0	3	27	30	2	22	68	0	34	81	2	56	149	207
20	長野県	0	0	3	0	1	6	0	1	9	10	8	67	98	5	49	108	13	116	206	335
21	静岡県	1	7	7	1	5	7	2	12	14	28	32	165	239	27	125	158	59	290	397	746
22	愛知県	2	1	3	1	2	5	3	3	8	14	17	142	312	20	180	592	37	322	904	1,263
23	岐阜県	0	10	11	0	6	16	0	16	27	43	6	126	402	3	61	288	9	187	690	886
24	三重県	0	2	2	0	2	2	0	4	4	8	2	57	104	0	56	137	2	113	241	356
25	滋賀県	0	6	0	0	0	2	0	6	2	8	2	39	30	3	36	18	5	75	48	128
26	京都府	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3	18	66	1	25	41	4	43	107	154
27	大阪府	1	0	5	0	0	4	1	0	9	10	5	110	183	1	35	111	6	145	294	445
28	兵庫県	2	14	43	1	9	47	3	23	90	116	77	154	325	47	203	434	124	357	759	1,240
29	奈良県	2	9	8	0	2	3	2	11	11	24	2	47	88	0	41	60	2	88	148	238
30	和歌山県	1	0	6	0	0	2	1	0	8	9	3	47	118	2	25	109	5	72	227	304
31	鳥取県	7	10	9	2	8	5	9	18	14	41	12	65	67	4	38	37	16	103	104	223
32	島根県	2	5	14	1	14	12	3	19	26	48	2	38	63	4	21	39	6	59	102	167
33	岡山県	0	6	25	0	3	40	0	9	65	74	3	130	204	5	119	131	8	249	335	592
34	広島県	0	0	7	1	2	6	1	2	13	16	16	80	192	9	69	147	25	149	339	513
35	山口県	1	2	28	0	2	40	1	4	68	73	6	25	92	8	14	79	14	39	171	224
36	香川県	10	0	0	17	0	0	27	0	0	27	101	0	0	108	0	0	209	0	0	209
37	徳島県	0	4	2	0	1	4	0	5	6	11	1	44	32	2	53	33	3	97	65	165
38	愛媛県	2	7	16	1	12	20	3	19	36	58	34	81	71	20	74	66	54	155	137	346
39	高知県	4	7	11	1	11	26	5	18	37	60	4	38	51	9	37	47	13	75	98	186
40	福岡県	8	5	20	1	12	46	9	17	66	92	46	112	199	39	169	239	85	281	438	804
41	佐賀県	0	1	10	0	2	9	0	3	19	22	4	50	62	3	19	60	7	69	122	198
42	長崎県	0	0	10	0	5	29	0	5	39	44	8	22	54	0	30	112	8	52	166	226
43	熊本県	0	2	3	0	10	7	0	12	10	22	4	34	83	2	41	89	6	75	172	253
44	大分県	1	3	2	1	9	5	2	12	7	21	13	17	76	6	13	71	19	30	147	196
45	宮崎県	0	1	9	0	1	33	0	2	42	44	4	57	137	3	18	108	7	75	245	327
46	鹿児島県	3	0	9	1	6	21	4	6	30	40	5	78	108	6	44	72	11	122	180	313
47	沖縄県	0	9	2	1	6	7	1	15	9	25	11	152	83	10	163	64	21	315	147	483
	合計	96	142	401	54	175	538	150	317	939	1,406	744	3,284	6,430	519	2,697	5,602	1,263	5,981	12,032	19,276

No.	都道府県名	4年制大学進学者合計											
		男子				女子				合計			
		一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計
1	北海道	142	200	405	747	83	176	351	610	225	376	756	1,357
2	青森県	13	42	74	129	5	30	80	115	18	72	154	244
3	岩手県	6	33	49	88	5	27	34	66	11	60	83	154
4	宮城県	47	78	159	284	20	45	108	173	67	123	267	457
5	秋田県	0	13	66	79	0	9	32	41	0	22	98	120
6	山形県	29	23	83	135	10	20	77	107	39	43	160	242
7	福島県	4	21	135	160	1	14	71	86	5	35	206	246
8	茨城県	7	103	193	303	7	78	126	211	14	181	319	514
9	栃木県	13	41	200	254	11	32	183	226	24	73	383	480
10	群馬県	3	58	302	363	2	24	175	201	5	82	477	564
11	埼玉県	12	120	238	370	4	57	168	229	16	177	406	599
12	千葉県	16	192	306	514	5	79	147	231	21	271	453	745
13	山梨県	1	18	47	66	0	11	37	48	1	29	84	114
14	東京都	23	157	195	375	21	177	203	401	44	334	398	776
15	神奈川県	38	117	220	375	19	112	184	315	57	229	404	690
16	新潟県	5	35	124	164	2	21	73	96	7	56	197	260
17	富山県	1	37	117	155	1	25	84	110	2	62	201	265
18	石川県	0	10	39	49	0	9	51	60	0	19	90	109
19	福井県	2	22	74	98	0	37	102	139	2	59	176	237
20	長野県	8	67	101	176	5	50	114	169	13	117	215	345
21	静岡県	33	172	246	451	28	130	165	323	61	302	411	774
22	愛知県	19	143	315	477	21	182	597	800	40	325	912	1277
23	岐阜県	6	136	413	555	3	67	304	374	9	203	717	929
24	三重県	2	59	106	167	0	58	139	197	2	117	245	364
25	滋賀県	2	45	30	77	3	36	20	59	5	81	50	136
26	京都府	3	18	67	88	1	25	41	67	4	43	108	155
27	大阪府	6	110	188	304	1	35	115	151	7	145	303	455
28	兵庫県	79	168	368	615	48	212	481	741	127	380	849	1356
29	奈良県	4	56	96	156	0	43	63	106	4	99	159	262
30	和歌山県	4	47	124	175	2	25	111	138	6	72	235	313
31	鳥取県	19	75	76	170	6	46	42	94	25	121	118	264
32	島根県	4	43	77	124	5	35	51	91	9	78	128	215
33	岡山県	3	136	229	368	5	122	171	298	8	258	400	666
34	広島県	16	80	199	295	10	71	153	234	26	151	352	529
35	山口県	7	27	120	154	8	16	119	143	15	43	239	297
36	香川県	111	0	0	111	125	0	0	125	236	0	0	236
37	徳島県	1	48	34	83	2	54	37	93	3	102	71	176
38	愛媛県	36	88	87	211	21	86	86	193	57	174	173	404
39	高知県	8	45	62	115	10	48	73	131	18	93	135	246
40	福岡県	54	117	219	390	40	181	285	506	94	298	504	896
41	佐賀県	4	51	72	127	3	21	69	93	7	72	141	220
42	長崎県	8	22	64	94	0	35	141	176	8	57	205	270
43	熊本県	4	36	86	126	2	51	96	149	6	87	182	275
44	大分県	14	20	78	112	7	22	76	105	21	42	154	217
45	宮崎県	4	58	146	208	3	19	141	163	7	77	287	371
46	鹿児島県	8	78	117	203	7	50	93	150	15	128	210	353
47	沖縄県	11	161	85	257	11	169	71	251	22	330	156	508
	合計	840	3,426	6,831	11,097	573	2,872	6,140	9,585	1,413	6,298	12,971	20,682

No.	都道府県名	国公立短期大学										私立短期大学									
		男子			女子			計				男子			女子			計			
		一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計
1	北海道	0	1	1	0	7	2	0	8	3	11	2	6	11	3	35	104	5	41	115	161
2	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	11	19	1	13	24	38
3	岩手県	2	0	12	4	1	9	6	1	21	28	1	0	2	1	3	8	2	3	10	15
4	宮城県	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	18	7	2	48	27	2	66	34	102
5	秋田県	2	2	0	0	1	1	2	3	1	6	0	1	1	0	3	18	0	4	19	23
6	山形県	0	2	1	0	3	3	0	5	4	9	2	2	1	1	5	11	3	7	12	22
7	福島県	0	0	5	0	1	7	0	1	12	13	0	0	2	0	11	30	0	11	32	43
8	茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	15	15	1	16	16	33
9	栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	4	66	0	5	71	76
10	群馬県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	7	1	10	46	2	14	53	69
11	埼玉県	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2	3	1	14	41	1	16	44	61
12	千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	21	16	0	22	20	42
13	山梨県	0	0	0	0	2	8	0	2	8	10	0	1	0	0	2	17	0	3	17	20
14	東京都	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0	2	21	25	2	26	25	53
15	神奈川県	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2	1	1	0	15	24	2	16	25	43
16	新潟県	1	0	1	0	2	1	1	2	2	5	0	0	5	1	5	20	1	5	25	31
17	富山県	0	1	2	1	0	1	1	1	3	5	0	1	8	1	16	43	1	17	51	69
18	石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	21	0	4	21	25
19	福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	21	0	10	22	32
20	長野県	1	0	2	0	1	2	1	1	4	6	0	7	21	3	39	56	3	46	77	126
21	静岡県	3	0	7	0	5	11	3	5	18	26	3	4	2	1	39	22	4	43	24	71
22	愛知県	1	0	2	1	1	1	2	1	3	6	0	4	5	3	68	123	3	72	128	203
23	岐阜県	0	0	0	0	3	2	0	3	2	5	0	3	9	0	28	41	0	31	50	81
24	三重県	0	2	5	2	2	11	2	4	16	22	0	4	3	1	23	48	1	27	51	79
25	滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	12	4	0	14	4	18
26	京都府	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9	1	3	16	1	5	25	31
27	大阪府	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	1	6	0	11	23	2	12	29	43
28	兵庫県	1	0	1	0	3	1	1	3	2	6	3	2	7	4	63	31	7	65	38	110
29	奈良県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	5	10	0	7	12	19
30	和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	38	1	14	38	53
31	鳥取県	0	0	2	0	1	0	0	1	2	3	2	6	8	0	29	25	2	35	33	70
32	島根県	0	0	3	1	3	10	1	3	13	17	1	3	2	0	11	11	1	14	13	28
33	岡山県	0	0	0	0	2	3	0	2	3	5	2	4	3	0	32	20	2	36	23	61
34	広島県	3	1	2	0	2	1	3	3	3	9	0	1	6	3	19	25	3	20	31	54
35	山口県	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	7	3	14	35	4	15	42	61
36	香川県	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	2	0	0	24	0	0	26	0	0	26
37	徳島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	22	1	0	27	2	29
38	愛媛県	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	4	1	1	0	10	7	4	11	8	23
39	高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	2	14	14	2	15	19	36
40	福岡県	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	4	9	20	3	40	100	7	49	120	176
41	佐賀県	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	7	25	0	7	27	34
42	長崎県	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	5	61	0	6	62	68
43	熊本県	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	5	10	0	6	10	16
44	大分県	1	3	3	0	16	15	1	19	18	38	0	0	5	2	4	34	2	4	39	45
45	宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	1	21	60	1	27	62	90
46	鹿児島県	3	0	2	2	3	25	5	3	27	35	0	7	1	1	44	67	1	51	68	120
47	沖縄県	0	0	3	0	0	0	0	0	3	3	0	3	2	1	40	9	1	43	11	55
	合計	19	15	55	13	62	118	32	77	173	282	32	126	194	69	875	1,488	101	1,001	1,682	2,784

No.	都道府県名	短期大学進学者合計											
		男子				女子				合計			
		一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計	一般	総合型選抜	学校推薦型選抜	合計
1	北海道	2	7	12	21	3	42	106	151	5	49	118	172
2	青森県	0	2	5	7	1	11	19	31	1	13	24	38
3	岩手県	3	0	14	17	5	4	17	26	8	4	31	43
4	宮城県	0	18	7	25	3	48	27	78	3	66	34	103
5	秋田県	2	3	1	6	0	4	19	23	2	7	20	29
6	山形県	2	4	2	8	1	8	14	23	3	12	16	31
7	福島県	0	0	7	7	0	12	37	49	0	12	44	56
8	茨城県	0	1	1	2	1	15	15	31	1	16	16	33
9	栃木県	0	1	5	6	0	4	66	70	0	5	71	76
10	群馬県	1	4	7	12	1	10	46	57	2	14	53	69
11	埼玉県	0	2	3	5	1	15	41	57	1	17	44	62
12	千葉県	0	1	4	5	0	21	16	37	0	22	20	42
13	山梨県	0	1	0	1	0	4	25	29	0	5	25	30
14	東京都	0	5	0	5	2	22	25	49	2	27	25	54
15	神奈川県	2	2	2	6	0	15	24	39	2	17	26	45
16	新潟県	1	0	6	7	1	7	21	29	2	7	27	36
17	富山県	0	2	10	12	2	16	44	62	2	18	54	74
18	石川県	0	0	0	0	0	4	21	25	0	4	21	25
19	福井県	0	0	1	1	0	10	21	31	0	10	22	32
20	長野県	1	7	23	31	3	40	58	101	4	47	81	132
21	静岡県	6	4	9	19	1	44	33	78	7	48	42	97
22	愛知県	1	4	7	12	4	69	124	197	5	73	131	209
23	岐阜県	0	3	9	12	0	31	43	74	0	34	52	86
24	三重県	0	6	8	14	3	25	59	87	3	31	67	101
25	滋賀県	0	2	0	2	0	12	4	16	0	14	4	18
26	京都府	0	2	9	11	1	3	16	20	1	5	25	31
27	大阪府	2	1	6	9	0	11	24	35	2	12	30	44
28	兵庫県	4	2	8	14	4	66	32	102	8	68	40	116
29	奈良県	0	2	2	4	0	5	10	15	0	7	12	19
30	和歌山県	0	0	0	0	1	14	38	53	1	14	38	53
31	鳥取県	2	6	10	18	0	30	25	55	2	36	35	73
32	島根県	1	3	5	9	1	14	21	36	2	17	26	45
33	岡山県	2	4	3	9	0	34	23	57	2	38	26	66
34	広島県	3	2	8	13	3	21	26	50	6	23	34	63
35	山口県	1	2	7	10	3	14	35	52	4	16	42	62
36	香川県	2	0	0	2	25	0	0	25	27	0	0	27
37	徳島県	0	5	1	6	0	22	1	23	0	27	2	29
38	愛媛県	4	1	1	6	0	11	7	18	4	12	8	24
39	高知県	0	1	5	6	2	14	14	30	2	15	19	36
40	福岡県	4	9	20	33	3	40	102	145	7	49	122	178
41	佐賀県	1	0	2	3	0	7	25	32	1	7	27	35
42	長崎県	0	1	1	2	0	5	62	67	0	6	63	69
43	熊本県	0	2	0	2	0	5	10	15	0	7	10	17
44	大分県	1	3	8	12	2	20	49	71	3	23	57	83
45	宮崎県	0	6	2	8	1	21	60	82	1	27	62	90
46	鹿児島県	3	7	3	13	3	47	92	142	6	54	95	155
47	沖縄県	0	3	5	8	1	40	9	50	1	43	14	58
	合計	51	141	249	441	82	937	1,606	2,625	133	1,078	1,855	3,066

No.	都道府県名	専門学校進学者			留学決定者			進学者合計			未定者(浪人・予備校入学等)		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
1	北海道	664	1,164	1,828	5	8	13	1,437	1,933	3,370	35	16	51
2	青森県	106	217	323	0	0	0	242	363	605	3	1	4
3	岩手県	122	186	308	1	0	1	228	278	506	0	0	0
4	宮城県	228	304	532	0	0	0	537	555	1,092	19	2	21
5	秋田県	48	101	149	0	0	0	133	165	298	1	0	1
6	山形県	102	166	268	2	0	2	247	296	543	1	1	2
7	福島県	167	270	437	0	2	2	334	407	741	4	0	4
8	茨城県	224	337	561	3	0	3	532	579	1,111	4	5	9
9	栃木県	196	317	513	0	1	1	456	614	1,070	4	5	9
10	群馬県	255	338	593	0	0	0	630	596	1,226	5	2	7
11	埼玉県	317	428	745	0	0	0	692	714	1,406	9	11	20
12	千葉県	240	226	466	0	0	0	759	494	1,253	10	7	17
13	山梨県	70	145	215	1	0	1	138	222	360	0	0	0
14	東京都	195	325	520	0	0	0	575	775	1,350	22	27	49
15	神奈川県	243	313	556	1	3	4	625	670	1,295	21	13	34
16	新潟県	98	206	304	0	0	0	269	331	600	4	0	4
17	富山県	75	143	218	0	0	0	242	315	557	0	1	1
18	石川県	13	76	89	0	0	0	62	161	223	0	0	0
19	福井県	42	128	170	0	0	0	141	298	439	1	1	2
20	長野県	154	245	399	0	0	0	361	515	876	3	2	5
21	静岡県	493	645	1,138	0	2	2	963	1,048	2,011	6	15	21
22	愛知県	367	1,179	1,546	0	0	0	856	2,176	3,032	12	13	25
23	岐阜県	181	338	519	2	2	4	750	788	1,538	6	2	8
24	三重県	174	355	529	1	0	1	356	639	995	11	1	12
25	滋賀県	93	126	219	0	2	2	172	203	375	0	1	1
26	京都府	37	42	79	0	0	0	136	129	265	1	0	1
27	大阪府	144	173	317	0	1	1	457	360	817	6	5	11
28	兵庫県	270	604	874	2	2	4	901	1,449	2,350	27	14	41
29	奈良県	68	113	181	0	0	0	228	234	462	4	0	4
30	和歌山県	130	243	373	0	0	0	305	434	739	5	4	9
31	鳥取県	125	190	315	0	0	0	313	339	652	1	2	3
32	島根県	123	170	293	0	0	0	256	297	553	3	1	4
33	岡山県	172	364	536	0	0	0	549	719	1,268	0	1	1
34	広島県	192	325	517	0	1	1	500	610	1,110	2	5	7
35	山口県	152	263	415	1	0	1	317	458	775	7	4	11
36	香川県	41	71	112	0	1	1	154	222	376	2	0	2
37	徳島県	43	92	135	0	0	0	132	208	340	0	0	0
38	愛媛県	53	137	190	1	1	2	271	349	620	1	0	1
39	高知県	96	130	226	0	1	1	217	292	509	1	3	4
40	福岡県	504	841	1,345	0	4	4	927	1,496	2,423	19	12	31
41	佐賀県	152	192	344	8	8	16	290	325	615	2	2	4
42	長崎県	174	390	564	1	6	7	271	639	910	1	3	4
43	熊本県	155	237	392	2	7	9	285	408	693	4	1	5
44	大分県	151	248	399	1	1	2	276	425	701	5	0	5
45	宮崎県	168	267	435	2	2	4	386	514	900	1	1	2
46	鹿児島県	287	456	743	0	0	0	503	748	1,251	10	1	11
47	沖縄県	296	475	771	2	14	16	563	790	1,353	28	9	37
	合計	8,400	14,301	22,701	36	69	105	19,974	26,580	46,554	311	194	505

No.	都道府県名	進学希望者合計			進路未定者			総合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1	北海道	1,472	1,949	3,421	13	12	25	2,291	2,921	5,212
2	青森県	245	364	609	5	4	9	454	627	1,081
3	岩手県	228	278	506	2	1	3	451	562	1,013
4	宮城県	556	557	1,113	0	1	1	853	953	1,806
5	秋田県	134	165	299	2	0	2	232	266	498
6	山形県	248	297	545	2	3	5	376	513	889
7	福島県	338	407	745	1	0	1	542	800	1,342
8	茨城県	536	584	1,120	11	20	31	1,019	1,104	2,123
9	栃木県	460	619	1,079	2	4	6	782	1,036	1,818
10	群馬県	635	598	1,233	15	10	25	983	910	1,893
11	埼玉県	701	725	1,426	3	11	14	1,041	1,247	2,288
12	千葉県	769	501	1,270	9	6	15	1,006	708	1,714
13	山梨県	138	222	360	0	0	0	187	354	541
14	東京都	597	802	1,399	16	14	30	763	1,058	1,821
15	神奈川県	646	683	1,329	10	5	15	842	882	1,724
16	新潟県	273	331	604	0	1	1	336	448	784
17	富山県	242	316	558	6	2	8	359	444	803
18	石川県	62	161	223	0	1	1	105	340	445
19	福井県	142	299	441	0	0	0	209	454	663
20	長野県	364	517	881	1	2	3	569	720	1,289
21	静岡県	969	1,063	2,032	12	15	27	1,823	2,125	3,948
22	愛知県	868	2,189	3,057	13	29	42	1,428	3,920	5,348
23	岐阜県	756	790	1,546	2	5	7	1,141	1,170	2,311
24	三重県	367	640	1,007	6	4	10	842	1,247	2,089
25	滋賀県	172	204	376	7	3	10	294	430	724
26	京都府	137	129	266	1	1	2	181	173	354
27	大阪府	463	365	828	11	7	18	653	607	1,260
28	兵庫県	928	1,463	2,391	9	17	26	1,346	2,095	3,441
29	奈良県	232	234	466	1	8	9	283	303	586
30	和歌山県	310	438	748	3	4	7	515	687	1,202
31	鳥取県	314	341	655	8	6	14	552	549	1,101
32	島根県	259	298	557	24	26	50	449	456	905
33	岡山県	549	720	1,269	6	13	19	822	1,063	1,885
34	広島県	502	615	1,117	22	25	47	767	993	1,760
35	山口県	324	462	786	19	16	35	592	920	1,512
36	香川県	156	222	378	4	3	7	183	284	467
37	徳島県	132	208	340	0	2	2	274	325	599
38	愛媛県	272	349	621	0	1	1	334	464	798
39	高知県	218	295	513	2	5	7	310	406	716
40	福岡県	946	1,508	2,454	29	31	60	1,530	2,262	3,792
41	佐賀県	292	327	619	2	1	3	492	666	1,158
42	長崎県	272	642	914	1	0	1	516	1,087	1,603
43	熊本県	289	409	698	1	1	2	465	754	1,219
44	大分県	281	425	706	0	2	2	436	698	1,134
45	宮崎県	387	515	902	2	6	8	588	833	1,421
46	鹿児島県	513	749	1,262	7	13	20	871	1,240	2,111
47	沖縄県	591	799	1,390	69	93	162	848	1,144	1,992
	合計	20,285	26,774	47,059	359	434	793	31,935	43,248	75,183

令和6年度大学陳情結果報告

全国商業高等学校長協会大学入試対策委員会

私立大学陳情結果報告

大学名	面会者(役職)	商業高校生に対する推薦入学制・特別推薦制等の要望事項に対する反応 推薦入学・特別推薦制、資格重視・商業科目の導入・拡大等
神奈川大学	みなとみらいキャンパス 入試センター入試事務部 部長・次長	商業高校出身者は商業科目にかかわる基礎的な知識が身につけており、優秀な学生が多い。 商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等について、2026年度入試から全商特別推薦の導入を考えたい。全商主催の競技会等の結果を追加する方向で検討したい。 学力試験における入試科目としての商業科目の扱いについて、25年度共通テストについては「情報Ⅰ」を導入し、点数化を行う。総合型選抜について、志願者の業績(検定・ビジネスコンクール表彰等)について点数化を検討していく。 商業からの入学者に対しての入学後の対応等について、商業高校出身者には履修なくとも会計学の単位認定を行っている。
神田外語大学	アドミッション&コミュニケーション部 アドミッションチーム チーフ	商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等について、指定校推薦、公募制推薦、全商特別推薦を実施している。 全商特別推薦で入学した学生はビジネスキャリア専攻に所属し、簿記を必須として学ぶ。 ビジネスキャリア専攻の所属に変更予定はない。
関東学院大学	学長 アドミッションズセンター センター 課長・課長補佐	商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等について、指定校推薦、全商特別推薦での入学者については優秀な学生が多い。前向きな学生が多い。商業科目にかかわる基礎的な知識が身につけている。 出願要件の変更を検討したい(評定平均値を本学から出している指定校の平均値に近づけたい。ハードルを低くする)。今後、出願要件に商業科教員を目指す人など追加を検討。 また、全商主催の競技会等の結果を追加する方向で検討したい。 25年度共通テストについては「情報Ⅰ」を導入し、点数化を行う。 総合型選抜について、志願者の業績(検定・ビジネスコンクール表彰等)について点数化を検討していく。
國學院大學	総合企画部・入学課 課長・主任	全商特別推薦の生徒は、モチベーションが高く、学力的にも問題はない。また、探究学習にも意欲的で、目的意識の高い生徒が多く、教授からの評価も高い。 総合型選抜入試(AO入試)の出願者数[R4:900名、R6:1800名]は、近年、特に増加の傾向がある。 指定校推薦は、商業関係高校も含め、これまでの実績によりお願いしているが、目的意識の低い生徒が受験するケースがある。 全商特別推薦は、継続(現状維持)の予定である。 総合型選抜入試(AO入試)は、出願者増加に伴い、募集定員数の増加も含め検討している。 商業科目(簿記等)は設定したい思いはあるが、労力がかかるため入試科目としておらず、今後も変更予定はない。 全商特別推薦枠について、募集人数(6名)の増員を要望した。 「観光まちづくり学部・観光まちづくり学科」への推薦枠の新設を要望した。なお、商業教育との関連性等も踏まえ、教授会へ提言していただくことの理解を得た。 Bグループ(英語検定試験2級以上合格)の推薦条件は、必須である。
駒澤大学	入学センター入試課 課長補佐	全商特別推薦、商業高校の指定校推薦による入学者の入学後の成績は概ね良好である。 GPA数値は高く、留年する学生の比率も低い。 高校生の時に検定取得に取り組んだ成果が試験を受ける準備や姿勢がしっかりとできている。 商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等については、現状維持の予定である。
専修大学	商学部・教務部 次長	全商特別推薦からの入学者は、入学後の成績はおおむね良好である。これまで同様に継続を考えている。 入試時期が例年より1週間遅れて実施する予定である。 近年、入学を希望する生徒は関東地区の生徒である。関西や九州地方の生徒も本学に関心を持ってもらえるとよい。

大学名	面会者(役職)	商業高校生に対する推薦入学制・特別推薦制等の要望事項に対する反応 推薦入学・特別推薦制、資格重視・商業科目の導入・拡大等
千葉商科大学	入試センターオフィス 入試セクション課長	学部改変に伴い、全学部にも全商特別推薦を導入した。入学後の学生の成績を確認して、人数の変更の可能性はあるが、全学部導入の現状を変える予定はない。 指定校推薦、公募制推薦における資格ポイント制。特別推薦として全商推薦。共通テストでは簿記を入れていた。個別試験では、商業科目の試験はない。今後変更の予定はない。 ※2025年度に現行の5学部7学科の編成を4学部6学科に変更する。 【現行】 商経学部(商学科・経済学科・経営学科)、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部 【2025年度】 商経学部(商学科・経営学科)、総合政策学部(経済学科・政策情報学科)、サービス創造学部、人間社会学部
中央大学	商学部事務室 副課長2名	指定校推薦、全商特別推薦での入学者については優秀な学生が多い。前向きな学生が多い。商業科目にかかわる基礎的な知識が身についている。 今後も英語力を担保とした形態は維持していくが、Bグループに固執してはいない。できれば、Aグループで対応したいと考えている。そのために、出願条件として全商英語検定ではなく、ステップ英検2級を条件でも検討したい。 25年度共通テストについては「情報Ⅰ」を導入し、点数化を行う。総合型選抜について、志願者の業績(検定・ビジネスコンクール表彰等)について点数化を検討していく。 商業科教職課程は今後も維持していく。
東京経済大学	総合企画部 入試課長 入試委員長	商業からの入学者は、真面目な生徒が多い。 全商特別推薦は、A・Bで設定している。商業高校出身の生徒は真面目なので今の状況を維持していきたい。 入試科目として、日商2級を持っていれば合格できるような仕組みを作っている。 Bについてはやはり英語が大事である。少子化の影響もあるので将来的に検討していく必要性を感じている。 経営学部での教員免許状は今後取ることができない。
獨協大学	入試部入試課 課長	全商特別推薦の生徒は大変優秀で学業にも意欲的であり、今後も期待している。 全商特別推薦として経済学部にも8枠設けている。全商特別推薦の条件として英語検定は外せない。 指定校として全国に600校程度を指定している。 総合型選抜(自己推薦)で5～6名程度合格している。 【出願基準】 日商簿記2級以上またはITパスポート、基本情報技術者、全商簿記・情報処理・英語・商業経済各1級のうち3種類以上取得。 【選考方法】 英語の筆記試験(英込コミⅠ・Ⅱ・Ⅲ)と日本語による面接。 学力試験における入試科目としての商業科目の扱いについて、大学入学共通テストに簿記と情報関係基礎が無くなり、商業系の生徒にとって厳しい状況であることは理解しているが、変更予定はない。 商業からの入学者に対しての入学後の対応等については、昨年同様に、経営学科で必修の「簿記原理」等の履修は免除。英語の授業はTOEICの点数で5ランクに分けて授業を実施。英語サポートルームの設置、英語の自学自習用ネットコンテンツの提供を行っている。 全学部対象に公認会計士養成講座(受講料¥44,000)も開講している。
日本大学	教務課入試担当 商学部准教授	商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜や学力試験における入試科目としての商業科目の扱いについては、すでに要望書等は受け取っており、全商協会から要望について承知しているが、特に変更の予定はない。 全商特別推薦で入学している生徒に特段の課題などは把握していない。
法政大学	入学センター入試課 課長代理、主任	商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等について、推薦枠いっぱいに応募していただいております。特に変更等の予定はない。 全商特別推薦で入学している生徒に特段の課題などは把握していない。
武蔵大学	アドミッションセンター部長 担当者	全商特別推薦で入学した学生は、主体的に学ぶ意識が高いうえ礼儀正しい。また、教職員からの評価が高く、大学としても期待が大きい。 R7年度入試から各学科1名増やした。(各学科2名の募集) 学力試験における入試科目としての商業科目の扱いについて、令和7年度以降「総合的な探究の時間」科目の位置づけを含め新教育課程に準じた扱いとなる予定。
明治学院大学	入試インフォメーション科 担当者	(全商側)商業科の教員になるための講座は引き続き擁してある。 商業関係高校生に対する推薦入学制・特別選抜等について、希望している生徒が多いため、学校ごとに出している指定校枠でいつも余っているようであれば全商の方の枠にも回してほしいとの要望を伝えた。 (今後の対応)大学側は3月までに話し合い、次年度の入試の形を決めていくため、3月に電話をし、確認する。

1/2ページ Aグループ

令和7年度 全商協会大学特別推薦大学一覧 (令和7年度入学)

大学入試対策委員会

全商への書類提出期限: 令和7年8月22日(金)

選 考 日: 令和7年8月29日(金)

Aグループ (出願要件に全商英語検定を指定しない大学)

推薦書 大学コード	要項No.	大学名	学部・学科			募集人数
1	A-1	駒澤大学	経済学部	経済学科	3 名	
2				商学科	3 名	
3				現代応用経済学科	2 名	
4			経営学部	経営学科	10 名	
5				市場戦略学科	6 名	
6	A-2①	立正大学①	経済学部	経済学科 金融コース	5 名	
7	A-2②・別紙		経営学部		20 名	
8	A-3	大阪商業大学	経済学部	経済学科	20 名	
9			総合経営学部	経営学科	20 名	
10				商学科		
11			公共学部	公共学科	10 名	
12	A-4①	別表 神田外語大学	外国語学部	国際コミュニケーション学科	国際ビジネスキャリア専攻	2 名
13	A-4②			国際コミュニケーション専攻	1 名	
14				英米語学科	1 名	
15	A-5	東京経済大学①	経済学部		5 名	
16			経営学部		15 名	
17	A-6	千葉商科大学	商経学部	商学科	10 名	
18				経営学科	4 名	
19			総合政策学部	経済学科	2 名	
20				政策情報学科	2 名	
21			サービス創造学部	サービス創造学科	2 名	
22			人間社会学部	人間社会学科	3 名	
23	A-7	帝京大学	経済学部	経済学科	3 名	
24				経営学科	3 名	
25				地域経済学科	5 名	
26	A-8	国際医療福祉大学	医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	10 名	
27			赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科	10 名		
28	A-9	帝塚山大学	経済経営学部	経済経営学科	10 名	
29	A-10	関東学院大学	経済学部	経済学科	5 名	
30			経営学部	経営学科	5 名	
31	A-11①	拓殖大学	商学部	経営学科	15 名	
32				国際ビジネス学科		
33				会計学科		
34	A-11②		政経学部	法律政治学科	10 名	
35				経済学科		
36				社会安全学科		
37	A-11③		国際学部	国際学科	10 名	
38	A-12	金沢学院大学	経済学部	経済学科	5 名	
39				経営学科	5 名	
40	A-13	日本経済大学	経済学部	商学科〔福岡キャンパス〕	3キャンパス あわせて 20 名	
41				商学科〔神戸キャンパス〕		
42			経営学部	経営学科〔福岡キャンパス〕		
43				グローバルビジネス学科〔福岡キャンパス〕		
44				経営学科〔東京渋谷キャンパス〕		
45				グローバルビジネス学科〔東京渋谷キャンパス〕		
46	A-14	昭和女子大学	グローバルビジネス学部	会計ファイナンス学科	7 名	
47	A-15	法政大学	経済学部	現代ビジネス学科	10 名	

注: 推薦書の志望大学名は「推薦書大学コード」をご入力ください。

2/2ページ Bグループ

令和7年度 全商協会大学特別推薦大学一覧 (令和7年度入学)

大学入試対策委員会

全商への書類提出期限: 令和7年9月19日(金)

選考日: 令和7年9月26日(金)

Bグループ (出願要件に全商英語検定を指定している大学)

推薦書 大学コード	要項No.	大学名	学部・学科	募集人数
48	B-1	中央大学	商学部会計学科	注1 若干名
49			フレックス・コース フレックスplus I・コース	
50	B-2①	日本大学	商学部	注2 最大19名
51			商業学科	
52			経営学科	
53	B-2②	日本大学	国際総合政策学科	1名
54			国際教養学科	1名
55	B-2③	日本大学	経済学部	4名
56			産業経営学科	4名
57			金融公共経済学科	4名
58	B-3	関西大学	商学部	5名
59	B-4	同志社大学	商学部	3名
60	B-5	立命館大学	経営学部	15名
61	B-6①	専修大学	商学部	マーケティング学科 5名
62			会計学科	5名
63	B-6②	専修大学	経営学部	経営学科 7名
64			ビジネスデザイン学科	3名
65	B-7・別紙	國學院大學	経済学部	経営学科 6名
66	B-8	明海大学	経済学部	経済学科 10名
67			不動産学部	不動産学科 10名
68	B-9	関西学院大学	商学部	5名
69	B-10	立正大学②	経済学部	経済学科 国際コース 5名
70	B-11	獨協大学	経済学部	経済学科 3名
71			経営学部	経営学科 5名
72			国際環境経済学科	2名
73	B-12	武蔵大学	経済学部	経済学科 2名
74			経営学部	経営学科 2名
75			金融学科	2名
76	B-13	東京経済大学②	コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科 5名
77	B-14	神奈川大学	経済学部	現代ビジネス学科 3名
78			経営学部	国際経営学科 3名

注1: 中央大学の若干名は、推薦基準を満たした者は全員対象となります。

注2: 日本大学商学部の推薦枠は最大19名で、その内訳は「①北海道・東北ブロック2名、②関東ブロック5名、③北信越・東海ブロック2名、④近畿・中国・四国・九州ブロック2名、⑤ブロックの枠を超えた推薦枠4名、⑥推薦条件(2)の5種目に合格した者がいた場合は、①～④各ブロックごとに各1名の計4名」です。
ブロック枠に欠員が生じた場合は、他のブロックから出願できます。

注3: 推薦書の志望大学名は「推薦書大学コード」をご入力ください。

令和6年度 学校表彰受賞校一覧

学校名（都道府県順）
北海道函館商業高等学校
栃木県立宇都宮商業高等学校
石川県立小松商業高等学校
高知市立高知商業高等学校
佐賀県立佐賀商業高等学校

ブロック	学校名	ブロックからの推薦理由
北海道	北海道函館商業高等学校	北海道函館商業高等学校は、令和8年度に創立140年を迎える北海道の公立高校で最も歴史と伝統のある学校である。各学科では、資格取得目標を設定し、全商検定試験だけでなく、高度な資格取得に主体的に挑戦し、合格を果たしている。また、高大連携教育の実践などキャリア教育を推進している。さらに、地域事業所などとの連携により、日頃の学習成果を活かした商品開発やイベントへの参加、ボランティア活動にも取り組んでおり、地域からの信頼が厚い学校である。高崎商科大学と連携したHaul-Aプロジェクトに参加し職業会計人の育成等にも力を入れており、商業高校としての活躍が顕著である。
関東	栃木県立宇都宮商業高等学校	全商協会主催の各競技大会において、4つの競技大会で連続5年以上全国大会へ出場し、簿記競技大会では、団体で常に全国上位の成績を残している。 全商協会主催の各種検定試験において、3種目以上合格者数が毎年全国上位である。 その他の資格として、税理士試験の科目合格者や公認会計士試験の1次試験の合格者、情報処理の国家試験等、高度資格取得者も毎年輩出している。 その他部活動においても、過去5年間でレスリング部や空手道部は全国大会出場、野球部、卓球部、バレーボール部は関東大会に出場しており、文武両道を成立させている。 以上の点から、推薦するに相応しい学校であると判断する。
北信越	石川県立小松商業高等学校	2020年に創立100周年を迎えた石川県の伝統校である。高度な資格取得・部活動の奨励・挨拶マナーの励行を柱としている。資格取得は、全商協会主催検定をはじめ、日商簿記1級や基本情報など高度な資格取得と併せ過去5年間で全商検定9冠達成者を3人輩出した。また部活動にも力を入れており、カヌー部は毎年全国大会に出場しており、令和3年度には石川県総合体育大会総合優秀校にも選出されるなど文武両道に励んでいる。その他の活動として地元企業と協力し市場調査や商品開発、観光ガイドなどにも取り組んでいる。 このような活動から地域の信頼も篤く、学校表彰校に推薦するに値する学校であると考え、推薦いたします。

ブロック	学校名	ブロックからの推薦理由
四 国	高知市立高知商業高等学校	高知商業高等学校は今年度学校創立 126 周年、定時制創立 106 周年を迎える長い歴史と伝統を持っている。県内唯一の市立高等学校であり、多くの卒業生が経済・産業・スポーツ界の各分野において活躍している。 「自主自治」を掲げる生徒会を主体としたラオスに学校を送る国際協力活動は、今年で 31 年目を迎え、校内に模擬株式会社を設立し、生徒、教職員、保護者が株主となって出資し、そこで得た利益で学校建設活動を続けている。 また、本年度の全国高等学校生徒商業研究発表大会では、優良賞を受賞し、学校内を活気づける全国的な活躍をしている。 「高知県に貢献する、進学にも就職にも強く、元気のある、選ばれる商業高校」を目標に授業、行事、部活動等あらゆる活動で積極的に取り組んでいる。
九 州	佐賀県立佐賀商業高等学校	明治 40 年創立の 117 年を迎えた伝統ある学校で「佐商（さしょう）」の愛称で地域に親しまれており、佐賀県の商業教育の中心校である。高校入試一般選抜の志願倍率は、例年高く、昨年度は 1.33 倍で、「行きたい高校、学びたい高校」となっている。学業面では、多くの資格取得をするとともに、地域と連携した取り組みを進めている。部活動は、運動部・文化部とも数多くの全国大会に出場し、特に今年度の全商主催全国大会ではほぼ入賞を果たした。進路面においては、地域の優良企業はもちろん大手企業にも就職し、進学においては今年度、国公立大学 16 名合格、全商大学特別推薦で法政大学に合格するなど実績を残している。文武両道の他の商業高校の模範となる学校である。

令和6年度 総合優勝表彰受賞一覧

(同順位都道府県順)

順位	都道府県	研究会名
総合優勝	愛知県	愛知県商業教育振興会
準優勝	岐阜県	岐阜県商業教育研究会
第三位	広島県	広島県商業高等学校協会商業部会
第三位	福岡県	福岡県高等学校商業教育研究部会

○ 総合順位表 (同位都道府県順)

県No.	総合 順位	得点 合計	都道府 県
22	1	42	愛知県
23	2	31	岐阜県
34	3	21	広島県
40	3	21	福岡県
33	5	19	岡山県
41	5	19	佐賀県
21	7	18	静岡県
46	8	17	鹿児島県
2	9	15	青森県
1	10	14	北海道
44	10	14	大分県
10	12	11	群馬県
25	13	10	滋賀県
4	14	8	宮城県
12	14	8	千葉県
16	14	8	富山県
9	17	7	栃木県
17	17	7	石川県
35	17	7	山口県
42	17	7	長崎県

県No.	総合 順位	得点 合計	都道府 県
6	21	4	山形県
7	21	4	福島県
13	21	4	山梨県
16	21	4	新潟県
20	21	4	長野県
24	21	4	三重県
28	21	4	兵庫県
36	21	4	香川県
37	21	4	徳島県
39	21	4	高知県
43	21	4	熊本県
29	21	4	奈良県
3	22	0	岩手県
5	22	0	秋田県
8	22	0	茨城県
11	22	0	埼玉県
14	22	0	東京都
15	22	0	神奈川県
19	22	0	福井県
26	22	0	京都府
27	22	0	大阪府
30	22	0	和歌山県
31	22	0	鳥取県
32	22	0	島根県
35	22	0	宮崎県
38	22	0	愛媛県
47	22	0	沖縄県

総合優勝表彰規程(平成23年4月施行、平成29年2月、令和4年1月改定)

- 1 目的 商業教育を活性化し、全商協会主催の各種大会のレベルアップを図り、将来さまざまな世界で活躍できる人材を育成するため各種大会の成績を点数化し、総合優勝から第三位までの都道府県を決定し表彰する。
- 2 対象大会
 - (1) 全国高等学校ビジネス計算競技大会 珠算競技(団体)
 - (2) 全国高等学校ビジネス計算競技大会 電卓競技(団体)
 - (3) 全国高等学校簿記競技大会(団体)
 - (4) 全国高等学校ワープロ競技大会(団体)
 - (5) 全国高等学校情報処理競技大会(団体)
 - (6) 全国高等学校生徒商業研究発表大会
- 3 評価点 優勝都道府県は10点として、第2位から5位は7点、第6位から10位に4点を与える。各種大会表彰規程とは別に、第1位から第10位までを都道府県ごとに点数化し、合算して順位を決定する。
- 4 表彰種別 総合優勝、準優勝、第三位 表彰にあたっては、表彰状を贈呈する。
- 5 表彰時期 次年度の春季総会時

令和 6 年度 海外研修事業報告書

第 1 回事前研修（オンライン）	令和 6 年 10 月 12 日（土）
第 2 回事前研修（オンライン）	令和 6 年 11 月 16 日（土）
前日研修（ホテル日航成田）	令和 6 年 12 月 16 日（月）
海外研修（マレーシア）	令和 6 年 12 月 17 日（火）～21 日（土）
事後研修（オンライン）	令和 7 年 2 月 15 日（土）



主催：全国商業高等学校長協会
公益財団法人全国商業高等学校協会

令和6年度海外研修事業報告

【はじめに】

令和6年度海外研修事業は、12月16日(月)の事前研修及び17日(日)～20日(金)の現地大学生とのフィールドワーク(BSプログラム)を合わせ、5泊6日の日程で行われた。

小川 孝理事長を団長に、北海道ブロック、北信越ブロック及び中国ブロックの各ブロック代表の教員3名、全国から応募のあった生徒16名、閑野 泉事務局長、今田和佳事務局職員の22名による訪問団で参加した。

この研修事業は、商業高校の学びに関連した市場調査等のフィールドワークを現地の大学生とともに体験し、視野を広げ、国際感覚を身に付けることや生徒自ら学びをビジネスの振興、地域の発展に結びつけることを目的として実施されている。

参加した生徒達は、互いの親睦を深めながら、学校訪問や企業視察等で現地の方々と交流させていただいた。特に学校訪問では、両校による学校代表挨拶、パフォーマンスを披露した。各バディとアクティビティを通して、生徒達は積極的に交流し、充実した学校訪問となった。次に現地の大学生たちと4～5人程度の小グループに分かれてフィールドワークを行った。スケジュールを自分達で企画し、体験するプログラムとなり、異文化に触れる貴重な時間となった。所期の目的を達成することができたと感じた。以下に本研修事業の内容をまとめ、令和6年度海外研修事業の報告とさせていただく。

(文責 北海道旭川商業高等学校 遠山 英幸)

1 研修概要

- (1) 主 催 全国商業高等学校長協会
公益財団法人全国商業高等学校協会

(2) 目 的

商業高校の学びに関連した市場調査等のフィールドワークを現地の大学生とともに体験し、視野を広げ、国際感覚を身に付けるとともに、生徒にとって自らの学びをビジネスの振興による地域の発展に結び付ける機会とする。

全国の商業教育のなご一層の振興・発展を図るため、将来、各都道府県の商業教育のリーダーとして期待できる教諭を育成する。

- (3) 訪問先 マレーシア (クアラルンプール)

(4) 実施期間

① 事前・事後研修 (オンライン)

第1回 令和6年10月12日(土)

第2回 令和6年11月16日(土)

第3回 令和7年2月15日(土)

② 海外研修

令和6年12月16日(月) ※前日研修

令和6年12月17日(火)から12月20日(土)

(5) 参加者 (22名)

【団長・教諭(3名)】

理事長(団長)

東京都立大田桜台高等学校 小川 孝

北海道ブロック

北海道旭川商業高等学校 遠山 英幸

北信越ブロック

福井県立福井商業高等学校 吉崎 奈緒美

中国ブロック

岡山県立笠岡商業高等学校 砂子 彪河

【生徒(16名)】

北海道岩見沢緑陵高等学校 久保 実沙季

青森県立三沢商業高等学校 太田 若那

宮城県石巻商業高等学校 後藤 舞智

秋田市立秋田商業高等学校 佐々木 朱里

山形県立酒田光陵高等学校 菅原 陽向

茨城県立日立商業高等学校 鈴木 晴琉

群馬県立高崎商業高等学校 下田 花音

東京都立第一商業高等学校 原田 沙彩

新潟県立新潟商業高等学校 小納 花音

滋賀県立大津商業高等学校 大谷 孝太郎

鳥取県立倉吉総合産業高等学校 中西 桃菓

山口県立防府商工高等学校 梅田 裕香

香川県立高松商業高等学校 香川 友芽

高知市立高知商業高等学校 立花 唯花

熊本県立翔陽高等学校 西川 那音

宮崎県立宮崎商業高等学校 佐藤 史佳

【全商協会事務局(2名)】

事務局長 閑野 泉

事務局職員 今田 和佳

(6) 日 程

12月16日(月)午後 前日研修

12月17日(火)東京(成田)11:30

→マレーシア(クアラルンプール) 18:20

12月18日(水)

午前 ポリテクニク・シャーアラム校訪問

午後 JICA(国際協力機構)事務所訪問

12月19日(木)

午前 日本人女性起業家 徳田阿希氏 講話

(日本人カー&エコアクションコーディネーター)

日本式カーチェン ケン・フース・キッチン マネジメント

取締役 吉田大祐氏 講話

午後 ナショナル・モスク、バトゥ洞窟、

天后宮訪問

12月20日(金)午前・午後

生徒:現地大学生とのフィールドワーク(B&Sプログラム)

教員:学校訪問 Sunway College

企業訪問 PHOENIX

午後 ピンクモスク、首相官邸、人口湖訪問

12月20日(金) マレーシア(クアラルンプール)

22:50→東京(成田)6:40

2 事前研修

(1) 令和6年10月12日(土) 午前9時から

第1回オンライン事前研修

①団長挨拶 全商理事長(団長)

東京都立大田桜台高等学校 小川 孝

これまでの海外研修事業は、各競技大会の優勝校が参加をしていたが、本年度から高校2年生を対象に、全国から応募を募り16名の生徒を選出した。令和元年度を最後にコロナウイルス感染症の拡大により海外研修事業は中止となっていた。令和4年度(第13回)と令和5年度(第14回)は各競技大会の優勝校の生徒と顧問の先生で、ディズニーランド近隣のホテルで交流を行った。令和5年度までの参加者を振り返ると、どうしても参加できる高校が固定されてしまうという意見もあり、全国から優秀な生徒に参加の機会を持ていただくために、本年度から対象者を変更した。

現地での市場調査等のフィールドワークや現地の大学生との触れ合いの中で、視野を広げ、国際感覚を身に付け、帰国後にその学びを地域のビジネスの振興に結び付けられる機会として欲しい。また、帰国後に自分たちの経験や感じたことを他の生徒たちにも伝達して欲しい。さらに、自分自身の進路決定の際に生かせるよう

自ら能動的に行動し、分からないこと、興味を持ったことはどんどん質問して有意義な研修になることを願っている。

②旅行社からの日程説明、注意事項等

●日程説明

12月16日(月)「ホテル日航成田」にて事前研修

12月17日(火) 成田空港よりクアラルンプール空路(泊)

12月18日(水) ポリテクニク・シャーアラム校訪問(学校交流)

午後: JICA 事業現場訪問

12月19日(木) 午前: 日本人起業家講話

午後: 3大民族を学ぶ

12月20日(金) 午前: 現地の大学生とフィールドワーク

夕刻: プトラジャヤ観光

深夜空路にて帰国

12月21日(土) 早朝: 帰国後、退団式、解散

●旅行社からの注意事項等

マレーシアは比較的治安は良いと言われるが、海外ににいるということを常に忘れず、席を離れるときは荷物を置きっぱなしにしない。火が通っていない生ものは基本食べない。生水は飲まない。パスポートは外出時も各自が肌身離さず身に付ける。

③引率者紹介、自己紹介(参加者全員)

④役割分担 全商事務局より

・「海外研修事業」全体の報告書は、「資料2」の分担で引率の先生方へお願いする。

・参加生徒は「資料3」に基づき、全員報告書を帰国後に提出する。

・各訪問先での生徒の役割分担は下記のとおりとする。

12月18日午前: ポリテクニク・シャーアラム校訪問

担当: 宮崎商・倉吉総合産業・高松商

午後: JICA 事業現場訪問

担当: 防府商工・酒田光陵・大津商

12月19日午前: 会社訪問

担当: 高知商・秋田商・岩見沢緑陵

午後: 市場を学ぶ

担当: 三沢商・第一商・新潟商

12月20日午前: フィールドワーク

担当: 高崎商・日立商

午後：観光

担当：石巻商・翔陽

⑤学校訪問（学校交流）内容(案)全商事務局より

・ポリテニック・シャーアラム校との交流内容

1 教員代表挨拶（英語） 小川 団長

2 生徒代表挨拶（英語）

3 パフォーマンス披露

4 バディとアクティビティ

※第2回までにバディと何をするのかを決めておいて欲しい。

地元の観光パンフレット（英語版）を入手し、バディとの交流で利用すると良い。

全員で披露するパフォーマンスを何にするか考えておいて欲しい。

⑥その他 全商事務局より

・第2回オンライン研修（11/16(土) 14:00～）

※15分前に必ずログイン

・課題図書「川端基夫著『消費大陸アジア』」を読み、各自事前調査のテーマを決めて、A4用紙1～2枚にまとめる。

・上記を第2回オンライン研修で発表する。（5分～6分）

⑦最後に 全商協会 閑野 事務局長

今回の研修を充実した研修とする為に、物事を観察し気づきを大切にしたい。全体を俯瞰して物事を見られるようにしたい。周囲への気配りを忘れず、集団行動の意識を持って時間厳守を念頭に行動するようお願いしたい。

（文責 福井県立福井商業高等学校 吉崎 奈緒美）

（2）令和6年11月16日（土）

第2回オンライン事前研修

①団長挨拶 全商理事長

東京都立大田桜台高等学校 小川 孝 先生
部活動や検定学習で生徒の皆さんは忙しい中、参加してくれたことに感謝をしている。充実した研修となるよう、協力をお願いしたい。

②日程説明 全商協会 閑野 事務局長

●前回からの変更点

12月19日(木)午前：日本人女性起業家

徳田阿希氏の講演

③注意事項・連絡事項

荷物の管理や持ち物、その他資料により説明あり

追加事項：無事に帰国するために気をつけて欲しいこと（守って欲しいこと）

いこと（守って欲しいこと）

・周囲をよく見て、気づけるようにすること。

・人を思いやること（集団での行動に配慮）

・ルールや時間を守ること。

（ホテルに戻ってからの外出は禁止）

④グループ割 下記の内容で発表

・12月16日(月)第3回事前研修でのワークショップ

・12月20日(金) 大学生とのフィールドワーク

・部屋割り

⑤課題発表

生徒全員が各自5分から6分で発表

□北海道岩見沢緑陵高校 久保 実沙希

「マレーシアの経済」

□青森県立三沢商業高校 太田 若那

「マレーシアの日本食産業進出の背景」

□宮城県石巻商業高校 後藤 舞智

「マレーシアの現状」

□秋田市立秋田商業高校 佐々木 朱里

「マレーシアと日本の人口考察」

□山形県立酒田光陵高校 菅原 陽向

「日本とマレーシアの消費行動における価値観の違い」

□茨城県立日立商業高校 鈴木 晴琉

「意味と価値について」

□群馬県立高崎商業高校 下田 花音

「ハラルについて」

□東京都立第一商業高校 原田 沙彩

「ハラルビジネス～市場の安全安心～」

□新潟県立新潟商業高校 小納 花音

「経済と食における経済」

□滋賀県立大津商業高校 大谷 孝太郎

「マレーシアの歴史と宗教からマレーシア“らしさ”を知る」

□鳥取県立倉吉総合産業高校 中西 桃菓

「ハラルビジネスについて」

□山口県立防府商工高校 梅田 裕香

「マレーシアの料理について」

□香川県立高松商業高校 香川 友芽

「海外進出による経済成長」

□高知市立高知商業高校 立花 唯花

「マレーシアの屋台」

□熊本県立翔陽高校 西川 那音

「マレーシアの物価について」

□宮崎県立宮崎商業高校 佐藤 史佳

「マレーシアのリアルな外食事情」

- ⑥パフォーマンス・バディとのアクティビティ検討
・学校訪問次の全員で行うパフォーマンス
全員で行うパフォーマンスは、「ラジオ体操」
(文責 福井県立福井商業高等学校 吉崎 奈緒美)

3 海外研修日程別詳細

(1) 12月16日(月)

午後 ホテル日航成田2階「蘭の間」にて事前研修

①団長挨拶 理事長

東京都立大田桜台高等学校校長 小川 孝
商業を学ぶ皆さんにとって、この交流事業は、国際的な視野を広げる貴重な機会になると考えている。マレーシアは多文化が融合した国であり、経済的にも成長を続けている地域である。今回皆さんは、全国の商業高校生を代表して研修に参加している。マレーシアでの学びや経験をその時のものだけにせず、日本に帰ってからの生活に繋げることや学校の仲間に還元することを大切にしながら積極的に行動し、実りある研修にしてほしい。

②ワークショップ

講師:認定 NPO 法人開発教育協会(DEAR)
事務局長 中村 絵乃 様

テーマ「身近なものから世界の問題を考える
～持続可能な社会を実現するために～」

1. 自己紹介(名前・学校名・最近あった嬉しいこと・自分の地域の自慢)
2. 「地球に良いこと」「地球に優しいこと」を考え、記入する。
3. パーム脂の写真について、収穫の順に並べ替える。
4. ロールプレイング(マレーシアの熱帯雨林開発について)
5. 「地球に良いこと」「地球に優しいこと」について、新たな気づきや発見を記入する。

③「マレーシアの国事情」事前課題の発表(参加生徒が分担して、マレーシアについての内容を調べて発表)

1. 地理・歴史 立花 唯花・梅田 裕香
2. 経済・文化 菅原 陽向・西川 那音・
原田 沙彩・鈴木 晴琉・久保 美沙季
3. 言語、簡単なあいさつ
太田 若那・後藤 舞智・佐藤 史佳・

中西桃菓・佐々木 朱里

4. 教育 大谷 孝太郎

5. 日本とマレーシアの関係

小納 花音・香川 友芽・下田 花音

④旅行会社からの連絡

ベストワールド株式会社 島田 美菜子 様

1. 明日朝の朝食、ホテルの出発時間について
2. 機内の持ち物について
パスポートをなくさないこと。

⑤学校交流の確認・練習

事前に学校交流では、ラジオ体操を披露することが決まっていたため、3名の代表生徒が中心となり、体操隊形の確認と2度曲をかけ、ラジオ体操の練習を実施した。

⑥フィールドワークについて

12月20日(金)の現地大学生とのフィールドワークに向けて、1班から4班に分かれ、班長・副班長決め、フィールドワークのプランを決めた。

(文責 岡山県立笠岡商業高等学校 教諭 砂子 彪河)

(2) 12月18日(月)

午前:ポリテクニク・シャーアラム校訪問

①ポリテクニク・シャーアラム校側の伝統的なダンス

マレーシアの伝統的なダンスを見せていただきました。日本の音楽とはまた少し違った曲調の音楽で、リズムに合わせた軽快なステップを踏んだり、衣装もよく映画などで見るような豪華な衣装で見ていてとても迫力がありました。また、ダンスを見ている時もバディの人が話しかけてダンスの説明などをしてくれたので見るのが楽しかったです。自分が思っていたよりも激しい踊りで、実際に皆で前に出て踊ったりもしました。どうやって踊るかなど英語が出来なくてもジェスチャーなどで丁寧に教えてくれたことを覚えています。



②ラジオ体操(日本)

本番では担当の3人を中心にラジオ体操の歴史や効果などを説明しました。自分もラジオ体操の説明をしたのですが、全部英語で説明すると聞い

ていたのですが、不安だったのですが、事前に台本をいただいていたのでとてもやりやすかったです。各自が事前に家などで練習していたこともあり、本番ではスムーズに進めることができました。また、マレーシアの学生の方々とも一緒にラジオ体操をしているときに英語で教えている姿なども見られてとても楽しそうな雰囲気でした。



③校内でのアクティビティ

Congkak (チョンカ) や Batu Seremban (バドゥスレンバン)、引っぱり茶、伝統衣装を着てダンスなど日本では体験することのできない遊びや、けんけんぱや縄跳びなどの日本と似ているアクティビティがありました。チョンカはマンカラに似たルールだったので覚えやすく説明をしてくれる人も何度も説明してくれたのでとても助かりました。バドゥスレンバンは最近流行っているコンギと同じルールですが、玉が日本というお手玉などで使われる布とビーズなどを使ったものでマレーシアの独特性を感じました。引っぱり茶は1つの容器からもう一つの容器に紅茶を移すときにより高い位置から移すという遊びでした。出来た紅茶も飲ませてもらってとても美味しかったのを覚えています。伝統衣装でのダンスは実際にマレーシア側の出し物の時に見たような衣装をそれぞれが着させてもらいました。会場全体に音楽が流れていて皆で輪になって踊ったり、バディ以外の人とも向かい合って踊ったりしました。音楽を通して仲良く慣れた人もいて海外特有の音楽の力を感じました。また、日本の生徒もそろばんやけん玉、折り紙などを持参して教えている姿が見られました。マレーシアの生徒の方々も興味を持って挑戦してくださり、とても楽しそうな雰囲気でした。



(文責 鳥取県立倉吉総合産業高等学校 中西 桃菓)

(2) 12月18日(水)

午後：JICA(国際協力機構)事業現場訪問

①JICAとは

日本の政府開発援助(ODA)の一環として、マレーシアと協力しながらさまざまな分野で国際協力活動を行う機関です。具体的には、以下のような活動を展開していました。

ア技術協力

- ・マレーシアの産業発展や人材育成を支援するため、日本の技術や知識を提供
- ・教育分野での支援や環境保護に関するプロジェクト

イ研修・人材育成

- ・マレーシアの専門家や行政官を対象に、日本での研修を実施
- ・マレーシア国内でも技術指導やセミナーを開催
- ウ無償資金協力・円借款
- ・学校建設やインフラ整備など、経済や社会基盤の発展を支援するため資金提供

②学びのポイント

ア課題解決のアプローチ

JICAは、ただ資金や技術を提供するだけでなく現地の人々が自立して課題を解決できるよう支援していることを学びました。

イ国際協力のリアルな現場

理想だけでなく、実際には多くの課題や調整が必要であることも理解でき、リアルな国際協力の姿を知ることができました。

ウ持続可能な発展への取り組み

環境保護や教育支援など、SDGs(持続可能な開発目標)に沿った活動がどのように進められているかが分かりました。

③感想

マレーシアのJICA事務所を訪問したことで、国際協力の意義とその具体的な取り組みについて深く学ぶことができました。特に、現地の課題に寄り添いながら持続可能な解決策を提供している姿勢に感銘を受けました。また、プロジェクトに携わる方々の熱意や現地の人々との協力の重要性を実感し、私も将来、国際社会で貢献できる人材になりたいと強く思いました。



(文責 山形県立酒田光陵高等学校 菅原 陽向)

(4) 12月19日(木)

午前:aboveu 訪問 日本人起業家 徳田阿希さん

①aboveu

「aboveu」は、「～より上」という意味のある「above」と、「あなた(自分自身)」を指す「you」が組み合わさってできており、ファッションを通して、「まだ見ぬ自分との出会い」や「今より素敵な自分」を伝えたいという思いから、活動されています。

②zamp Project

zampproject の“zamp”は残布を指します。残布とは、裁断した後の半端な布切れなど、服の生産において必ず出てしまう布生地の子のこ。『使いづらい、使い所がない』と言う理由で廃棄されてしまう残布を活用したプロジェクトのことです。「価値のないものを価値のあるものへ」をモットーに活動されています。

〈 zamp project 具体例 〉

・ホテルのアメニティー ・社員の制服

③特色

aboveu には、パーソナルスタイリストが在中しており、パーソナルスタイリストによるパーソナルカラー診断を受けることが可能です。パーソナルカラー診断を行うことで、自身に似合う色の商品を購入することが可能になり、長期的な利用を流すことができます。これにより廃棄物も削減することが可能になります。徳田阿希さんは『“メーカーやブランドではなく、スタイリストを選ぶこと”が廃棄物の削減に大きな貢献となる』とおっしゃっていました。

④感想

実際に自分もパーソナルカラー診断を受け、普段似合わないと思い、あまり着てこなかった青色にも似合う色があることを知った。同じ青でも、明るい色と暗い色、薄い色と濃い色様々であるため、イエベだからと自分の挑戦を諦めなくてよかった。これを機に青だからと選ぶことを避けず、チャレンジし、長期的に着用していきたい。



(文責 高知市立高知商業高等学校 立花 唯花)

(5) 12月19日(木)

午後:市場を学ぶ(昼食 カレー)・観光

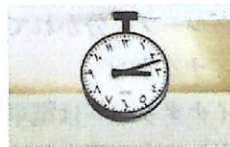
①Ken Chan Curry

「Ken Chan Curry」はムスリムの人々でも安心して食べられる日本式カレーをメインメニューとした日本食を提供している飲食店です。ペトロナスツインタワー近くのショッピングモールのフードコートにある一号店からマレーシア国内および日本で十数店舗チェーン展開しています。Ken Chan Curry のヨシダさんから、ハラルには食べ物だけでなく、食器や洗浄用のスポンジ、食材が豚と一緒に運ばれていないかなど、さまざまな基準があることや、ハラル認証を取得する難しさを教えていただきました。これにより、ムスリムの人々が安心して食事できる環境が整っていることがよくわかりました。カレーは日本の家庭の味という感じですが、少しハーブも効いていてとてもおいしくいただきました。



②ナショナル・モスク

マレーシアの首都クアラルンプールにある国を代表するナショナル・モスクは、1965年に完成しました。イスラム建築とモダンなデザインが融合したこのモスクは、天井や壁、柱に精緻な模様が施されており、白と青を基調とした美しい外観が印象的です。モスクはムスリムの人々がお祈りに訪れる場所で、時計がアラビア語で表示されていることに気づき、普段見る時計とは異なる数字表示に少し不思議な感覚を覚えました。



③バドゥ洞窟

マレーシアのヒンドゥー教の聖地であるバドゥ洞窟は、巨大な黄金の神像と272段のカラフルな階段で有名です。私は事前にタイプサムという祝祭日について調べていたので、階段の色彩と実際に登って

272 段があるか数えるのを楽しみにしていました。しかし、実際に訪れてみると、たくさんの鳩がいて、私は鳥が苦手だったため、恐怖で数える余裕はありませんでした。洞窟内は鍾乳洞のような美しい景観で、さらに階段を登ると天井から光が差し込んでおり、その光景がとても美しかったです。



④天后宮

天后宮で祀られている神様は「天后」で、別名「媽祖」や「天妃」、「天上聖母」とも呼ばれています。天后は主に中国南部、台湾、東南アジアの一部で信仰されており、航海や漁業の守護神として中華系の人々の間で親しまれています。つまり、海で働く人々の守り神です。特に、天井の細かい模様が印象的で、モスクとはまた違った美しさを感じました。天后宮のおみくじは、棒を落としてその中から出てくる一本の番号が占いの結果になります。そのため上手く棒を落とせないとその一本が出てこないため、占いに時間がかかることがあるそうです。実際、私も何度かやってようやく占い結果を得ることができました。私の結果は、「Wasted effort (努力実らず)」でした。占いは、気にせず頑張ります。

(文責 東京都立第一商業高等学校 原田 沙彩)



(6) 12月20日(金)

フィールドワーク(生徒)

※4グループに分かれて実施

①チャイナタウン

チャイナタウンへは電車で移動した。マレーシアの電車と日本の電車を比べた時に大きく異なる点が2つあった。1つ目が切符である。切符は日本では紙を利用しているが、マレーシアではプラスチック製のコインにQRコードが書いてあるものであった。2つ目が内装である。日本では上に吊り革がついてあるのが一般的である。しかしマ

レーシアの電車の内装は真ん中にY字のオブジェクトがあり人々はそこに手を掛けていた。日本のように混むことが少ないのでデザイン重視の内装になっているのではないかと考察した。



チャイナタウンでは、普段は活気があり通りにお店も多く出店しているそうだが、当日は猛暑であり、お店はとても少なかった。そのためチャイナタウンの近くにある雑貨店でマレーシアで一番美味しいと勧められたチョコレートを購入した。閑散とした印象もあったが、他の場所とはまた違った雰囲気がありマレーシアのお互いを認め合う文化や多様性を直接肌で感じることもできた。お互いのテリトリーを設けることが争いを生まない秘訣なのではないかと思った。



②パビリオン・クアランブール

チャイナタウンから徒歩で移動し大きなショッピングモールを訪れた。クリスマスシーズンであったこともあり、中に入るとすぐに大きなクリスマスツリーが我々を出迎えた。気温が高かったこともありクリスマスと聞くと少し違和感を感じ、日本とのズレを感じた。店内のフードコートにて、チェンドルという東南アジア全体で高い人気を誇るゼリー状のお菓子の乗ったかき氷と、タピオカドリンクを購入した。タピオカドリンクは想像できる味であり、美味しくいただくことができた。しかし、チェンドルは緑色で細長いという特徴があり食べるにあたりとても勇気のある見た目をしていた。食べてみると清涼感があり砂糖とは違った甘さであり日本では好き嫌いが大きく分かれる味をしていた。



ショッピングモール内には「東京ストリート」という日本をイメージして日本の商品が多く置いてあるコーナーがあった。そこでは、暖簾に桜、提灯といった和風な建築が多くあり、日本のアニメのフィギュアやガチャガチャなどが置かれていた。マレーシアでは日本に対する印象が日本人よりも和風であり、京都などを思い浮かべる人が多いのではないかと考えた。



③自動販売機とコンビニエンスストア

帰路の途中マレーシアの自動販売機を訪れた。日本では見たことないが日本語の書いてあるコーヒーが売っていた。また、購入したオレンジジュースには果肉が入っていた。

水を購入するために訪れたコンビニエンスストアは近未来的な見た目をしておりレジは無人であった。入店の際に顔認証をする必要があり、防犯カメラが多く設置されていた。



(文責 茨城県立日立商業高等学校 鈴木 晴琉)

(7) 12月20日(金) 学校訪問(教員)

訪問先 Sunway College

マレーシアのクアラルンプール近郊に位置する私立の教育機関であるサンウェイカレッジ(Sunway College)を訪問した。サンウェイカレッジは、マレーシアの大手複合企業であるサンウェイグループが運営している教育機関であり、キャンパスはとても広く、一つの建物で多様な価値を提供することを大切にされている。また、生徒たちの情熱と創造力を高めるような環境づくりに力を注いでおり、広々とした教室からは綺麗な景色が見え、図書館やパソコン教室、学生の交流ス

ペースなど多様な学びに対応できる施設や設備が完備されていた。特に、キャンパス内の建物や施設は統一感のあるデザインであったことが印象的で、学生が学びやすく、落ち着いた環境であると感じた。マレーシアでは、会計・ビジネス・ITの3つが教育のトレンドである。サンウェイカレッジでは、ビジネス・会計・コミュニケーション・映像編集・システム作成など多様な学習プログラムがあり、専門分野に特化した教育を受けることができ、自分の考えを表現する授業が多く展開されている。マレーシアは他民族国家であり、サンウェイカレッジでも多くの国からの留学生が学んでおり、ほとんどの学生がシェアハウスで生活をしている。日本人の留学生は今の段階では在籍していないが入学時期は、1月・4月・8月と1年間で3度ある。授業は英語で実施されており、英語での授業に順応するためには、「実用英語検定準2級取得レベルの英語力が必要である」とおっしゃられていた。「今後、全国商業高等学校協会に所属する学校から本学へ留学していただけたら大変嬉しく思う」といった言葉をいただいた。サンウェイカレッジを訪問させていただき、学校は生徒が夢に向かって全力を注ぐことのできる場所、環境であり続けなければならないと強く感じた。また、マレーシアでもビジネス・会計・コミュニケーションが教育のトレンドであることを知り、商業教育の必要性を実感したとともに、より一層グローバルな視野を持ち、多様で柔軟な商業教育が必要であると感じた。

(文責 岡山県立笠岡商業高等学校 砂子 彪河)

(8) 12月20日(金)企業訪問(教員)

訪問先 PHOENIX

日本と東南アジアを拠点に事業を展開しているフェニックス国際税理士法人を訪問した。業務内容について伺ったところ、会社設立支援業務、銀行口座開設支援業務など、主に海外進出に挑戦をするクライアントのサポートを業務としてしていると教えていただいた。また、マレーシアは成長途中であり、今後も経済成長を遂げていくがこと予想され、経済の発展途上国や新興市場に魅力を感じ、海外進出に挑戦する企業をサポートできることに魅力を感じ、海外で働いているとおっしゃられていた。私が勤務している高校では、公認会計士を

目指し、大学へ進学する生徒が多くいる。そのため、公認会計士として働くうえで必要な力について伺った。経営者や個人事業主の方の希望や抱えている悩みもそれぞれであり、相手の立場を考え、相手の状況に応じた対応をしていくことが大切で、「相手の気持ちを組んだコミュニケーション能力」を身に付けてほしいと助言をいただいた。また、AI 技術の進化と公認会計士の関係についての思いを伺った。AI 技術の進化は公認会計士の業務を効率化するが、「会社経営に伴う最後の判断は AI に任せられない」と力強く伝えてくださったのが印象的で、公認会計士として働くことへの誇りを感じた。お話をしてくださったお二人は高校、大学の頃から海外で働くことを志し、英語力向上に努めるだけでなく、海外に留学し活動されていて、目標を持ち、行動することの大切さを改めて学んだ。そして、たくさんの可能性を秘めた生徒たちに、海外で働く日本の方の思いに触れる機会を与えてあげることで将来、海外で働くことを志す生徒が増えるのではないかと考えた。

(文責 岡山県立笠岡商業高等学校 砂子 彪河)

(9) 12月20日(金)

午後：観光

①ピンクモスク

ピンクモスクは、プトラジャヤで有名になっている観光地で、外見だけでなく内部もピンクで統一されているため、ピンクモスクと呼ばれている。実際に内部を見学させていただいた際に、女性はローブを入り口で借りて髪の毛や肌などが見えないように身につけなければならなかった。また、モスクの中に上がる際には、必ず靴を脱いで話さず、静かに入ってくださいと説明を受けた。これまでは自分で持ってきたスカーフを頭に覆えばよかったが、最近では中に入ってからスカーフを取って見学する観光客が見られたことから中に入る際は、女性は必ずローブを借りないと中へ入れなくなっている。出入り口付近には、水が1リンギットで売られていた。



②首相官邸

マレーシアの首相官邸はプトラジャヤにあり、ペルダナ・プトラと呼ばれている。屋根の上にはエメラルドグリーン色のドームがあり、建物はムガル様式のイスラム建築を取り入れているという。中への見学はできず、外見だけの見学となっていた。



③人口湖

プトラジャヤにある人口湖は、都市の自然冷却システムや娯楽、ウォータースポーツ等の目的でつくられたそうである。人口湖の周りを歩いたが、匂いはきつくなく、この湖によってより首相官邸やピンクモスクが映えていた。また、夕方になると夕陽が差し込んで湖の水を反射していてとても綺麗だった。また夜はプトラジャヤ湖に面しているシーフードレストランで食事をした。食事をしている時、プトラジャヤこの周りで遊んだり、湖の上をボートで漕いでいる人たちも見られた。



(文責 熊本県立翔陽高等学校 西川 那音)

4 事後研修

令和7年2月15日(土)

(1) 団長挨拶 全商理事長(団長)

東京都立大田桜台高等学校 小川 孝 先生
今回の研修では、研修前にお話したように、日本とは異なる文化に触れ、自分達の視野を広めてもらいたと思います。商業の実践的な学びを感じ、行動に移すことで、多くの成果を実感できたのではないかと思います。皆さんの現地で学ん

で感じたことは、この研修だけで終わることではありません。すでに帰国後、自分の学校生活や身の回りで、今回の経験を生かし行動に移している人もいるんじゃないかなと思います。そういうような話を今日は聞けることを楽しみにしています。先ほど、絆という話をしましたが、この関係性が未永く続いてくれると嬉しく思います。最後になりますけれども、この研修を支えてくださった、全商協会の皆様、ベストワールドの皆様、そして、何よりも参加した皆様を送り出してくれたご家族、学校の先生方に心から感謝を申し上げます。繰り返しになりますけれども、本日は、海外研修を通して、皆さんがどのような経験をして、何を学んで、どういうふうに成長したのか その一端を聞かせてもらえればと思います。皆さん、今後の更なる成長と活躍をご期待しております。本当にお疲れ様でした。

(2) 生徒報告

□北海道岩見沢緑陵高校 久保 実沙希

「マレーシアの経済」

研修の目標は、日本で体験できないことを、日本に持ち帰り活かすことでした。現地に行って、日本にはない建造物や現地の人たちと触れ合うことで互いを知る良い機会になった。人との関わりの大切さに気づくことができた。また、ハラル、ノンハラルなど実際に現地でイスラムを信仰する方たちと関わることで宗教の違いというものを深く知ることができた。これから、現地の状況を知らない人たちに周知したい。

□青森県立三沢商業高校 太田 若那

「マレーシアの日本食産業進出の背景」

研修の目標は、現地で日本食産業について学ぶことや日本の文化との違いを感じ、グローバルな人間力を高めることでした。研修を通して、日本は豊かな国であり、改めて、日本の良さを知り、日本人であることに誇りを感じる事ができた。ボディとの交流で、そろばんを教え、マレーシアの伝統衣装を着るなど文化的交流ができた。英語でのコミュニケーション能力を高めることができ、この経験を将来は青森県の商業科教員として、地域に貢献できる教員を目指したい。貴重な経験をさせていただいたすべての方々に感謝します。

□宮城県石巻商業高校 後藤 舞智

「マレーシアの現状」

研修の目標は、多民族国家であるマレーシアと日本の違いに触れることでした。現地の高校生と大学生と英語で会話をしながら交流を深めることができた。実際、多民族である現地の人々と英語やマレー語で会話し、自分の目で感じ、身体で体感することができた。また、日本にはないモスクを間近に見ることができ、直接文化や宗教の違いに触れることができた。

□秋田市立秋田商業高校 佐々木 朱里

「マレーシアと日本の人口考察」

研修の目標は、宗教や生活習慣の異なる人たちと共生していくために大切なことを学ぶことでした。海外から見た日本にとっても興味があつた。日本を外側から見て、もっといろんなことを知りたいと思うことができた。生活習慣の違いや宗教への関わり方など色々な視点から物事を考えることができた。これから、様々な国に行きたくさんの人と交流をして、言語を学ぶことで創造力や知識をもっと豊富にしたいと思った。

□山形県立酒田光陵高校 菅原 陽向

「日本とマレーシアの消費行動における価値観の違い」

研修の目標は、異文化理解や語学力の向上、ハラル食品に対する意識など、日本と比較することでした。現地では、言語の壁が大きく、意思疎通が難しかった。自分自身の身振り手振りで意思疎通ができ、コミュニケーションがとても楽しいと実感した。マレーシアならではの遊びや箸を使わず、手で食す経験もすることができた。大学生とのフィールドワークで、モスクやハラルについてたくさん知ることができた。これらの経験により、宗教や文化についてこれからも追求してみたいと考えた。

□茨城県立日立商業高校 鈴木 晴琉

「意味と価値について」

研修の目標は、マレーシアの文化を体験すること、コミュニケーション能力の向上、視野をひろげることでした。マレーシアのマナーや宗教、伝統的な踊りなど肌で感じる事ができた。イスラム教の寺院や建物に触れ、イスラム教についてもっと詳しく学びたいと感じた。会社訪問で、JICAの講演が印象に残った。自分の住んでる街をより良くしたいと考え、自国だけではなく他国の発展に手助けをする活動の取り組みについて感動した。

夢を叶えるため、自分の将来をより明確に想像することができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

□群馬県立高崎商業高校 下田 花音

「ハラルについて」

研修の目標は、マレーシアで得た学びを将来に役立て、視野を広げることでした。多角的に物事を捉える感覚を身につけ、英語で会話し、積極的にコミュニケーションを図った。実際、英語で会話することの難しさを実感する研修であった。これから、目標を達成できるように取り組みたい。

□東京都立第一商業高校 原田 沙彩

「ハラルビジネス~市場の安全安心~」

研修の目標は、新たな価値観やマレーシアの経済について知ることでした。研修を通して、日本とマレーシアの文化の違いについて理解を深められた。現地の人たちの価値観や生活状況について知ることができ、日本の学校と海外の学校では、服装や食事などの違いにも国民性が感じられた。フィールドワークによりマレーシアの人々の暮らしについて知ることができた。これから、英語力向上や他国の経済状況、文化の違いについて詳しく調べたい。

□新潟県立新潟商業高校 小納 花音

「経済と食における経済」

研修の目標は、日本と海外の違いである文化や宗教に触れ、新しい価値観を見つけることでした。この研修で、現地の文化に触れることで日本との違いを見つけたことができた。マレーシアを訪問して、ピンクモスクなど異なる文化や宗教に触れ、とても感動した。現地では、ハラルビジネスについて講演があり、日本のカレーをマレーシアで売っていく大変さや営業の難しさなどを聞くことができた。講演後、Ken-chan Curry での食事は印象に残る美味しさだった。フィールドワークで現地の学生と班員で街を散策し、公共交通機関である電車を利用して移動したことが楽しかった。

□滋賀県立大津商業高校 大谷 孝太郎

「マレーシアの歴史と宗教からマレーシアらしさを知る」

研修の目標は、他民族からなるマレーシアのビジネスとコミュニケーションを学ぶこと、信仰による市場や価値観などの違いを知ることでした。初めて

の海外がマレーシアで良かったと感じた。文化や宗教が複数存在する国で食事や生活習慣、考え方など違いを知ることができた。現地の学生と交流するプログラムでは、マレーシアの伝統的な服を着て、一緒に踊りゲームを体験した。現場訪問で、日本人起業家の講演を聞き自分の気持ちを動かされた。今後、夢の実現に向け、商業での勉強を最後の一年積み上げて行こうと強く思えた。

□鳥取県立倉吉総合産業高校 中西 桃菓

「ハラルビジネスについて」

研修の目標は、新たな価値観やマレーシアの経済について知ることでした。研修を通して、日本とマレーシアの文化の違いについて理解を深められた。現地の人たちの価値観や生活状況について知ることができ、日本の学校と海外の学校では、服装や食事などの違いにも国民性が感じられた。フィールドワークによりマレーシアの人々の暮らしについて知ることができた。これから、英語力向上や他国の経済状況、文化の違いについて詳しく調べたい。

□山口県立防府商工高校 梅田 裕香

「マレーシアの料理について」

研修の目標は、多様性の本質を学ぶことでした。マレーシアは、他民族であり食文化や生活様式もお互いに認め合い、国民性も豊かでした。マレーシアの食文化もハラルなど含めた多様性に合わせた工夫がされていた。今回の研修で、広い視野を持つことの大切さを知り、人の温かさ学ぶことができた。今後は、たくさんの人と関わる仕事に就くことを目標に取り組みたいと感じた。

□香川県立高松商業高校 香川 友芽

「海外進出による経済成長」

研修の目標は、マレーシアの経済や文化など日本との違いを見つけ学ぶことでした。マレーシア以外の他国と日本との関わりや経済状態に対して興味があり、関心があった。実際、マレーシアへ行き、多民族のため色々な宗教があり寺院なども礼拝を行うためとても大きかった。食文化では、生活習慣の違いを見ることができた。また、海外は日本と違い人との関わりがフランクだった。今後は、英語力を身に付けたいと感じた。

□高知市立高知商業高校 立花 唯花

「マレーシアの屋台」

研修の目標は、日本では得られない気付きや価

価値観を見つけ、多文化国家ならではのライフスタイルを感じ、日本と比較することでした。日本で宗教を身近に感じることはなかったが、実際にモスクを訪問し、礼拝している姿を見ることで身近に感じる事ができた。文化面や公衆衛生面で、日本と大きな差は感じなかった。日本と違った文化が存在するが、多様な文化を尊重し強要しない、特別視しないことが多文化国家と日本との1番の差と感じた。

□熊本県立翔陽高校 西川 那音

「マレーシアの物価について」

研修の目標は、多様性の理解を深め広い視野を持つことでした。研修を通して、現地の高校生や大学生と積極的に英語でコミュニケーションをとることで、多様性を感じながら交流ができた。JICAのように世界の国々と日本を繋ぐ活動をする機関があることを知った。世界の国々を良くしようとSDGSの観点から取り組み、行動する姿に感動した。今回の研修のようにやりたいことは恐れずチャレンジしたい。

□宮崎県立宮崎商業高校 佐藤 史佳

「マレーシアのリアルな外食事情」

研修の目標は、多文化社会で、現地人とコミュニケーションをとり語学力の向上を図ること、マレーシアのリアルな生活に触れ、多様な視点で日本を見ることでした。日本にはない、モスクなど生活環境に共存した街並みを見る事ができた。日本で学んだ英語力で、会話することができた。今回、初顔合わせのメンバーと、はじめて訪れるマレーシアで言語や食事に戸惑うことでさえ、楽しい研修だった。B&Sプログラムやフィールドワークで現地学生との交流を通して、英語力の向上を感じた。この研修で本当に多くのことを学ぶことができた。

【おわりに】

大自然が残る美しい国、マレーシアで行われた海外研修事業は、人への思いやり、時間を守ることなど集団行動を意識した雰囲気の中行われた。今回、生徒達は全員がはじめてのマレーシア訪問であった。出発前日の事前研修で、小川孝団長より、国際的な視野を広げる貴重な機会であり、異文化に触れ体験したことを日本に帰ってから学校の仲間に還元することを大切にしながら、実りある研修にしてほしい

とお話があった。「身近なものから世界の問題を考える～持続可能な社会を実現するために～」をテーマに研修を深め、事前課題である「マレーシアの国事情」について、参加生徒が分担してまとめた内容を発表し、情報共有をした。出発前、不安を抱えている様子もなく、生徒達は研修中、積極的に学ぼうとする姿勢が感じられた。特に、学校交流は、ラジオ体操を披露し現地の高校生と大いに盛り上がり交流を深める大切な時間であった。また、フィールドワークとして、現地大学生とプランを決め、いくつかのグループに分かれ行動することで英語を学ぶことの大切さについて実感できたようであった。現地ガイドに観光名所の案内や解説はもちろん、マレーシアの風習や文化について日本との違いを交えて教えて頂き、大変勉強になった。添乗員として同行いただいた、ベストワールド株式会社の島田美菜子様には、食物アレルギーのある生徒の対応や現地でのスケジュール調整など、様々な場面でご尽力いただいた。

(文責 北海道旭川商業高等学校 遠山 英幸)

学校名：北海道岩見沢緑陵高等学校

氏名：久保 実沙季

1 研修の目標

- ・マレーシアと日本の消費の特性の違いについて知る
- ・日本とマレーシアの食の違いについて実際に現地食べてどんな材料が使われているかやどんな味の特徴があるかについて知る
- ・多民族国家の共生についてモスクなど実際に文化の違いについてすぐ知ることのできる場所に行きお互いの宗教がどのように尊重されているのかについて詳しく知る

2 事前準備

- ・イスラム教で禁止されているアルコールや豚肉についてハラル認証を受けた商品についてどんなものが良しとされていないのかについて知った
- ・マレーシアと日本では基本的にどんな風に政治背景の違いがあるのかについてや政治においてどんな風に対策しているのかについて知れた

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

今回の研修を通してまず、ポリテクニク・シャアラム校を訪問して一番大きく自分が感じたことは言語の壁ということで自分の伝えたいことがなかなか伝えることができないということの大変さを知ることができた。そしてどんな状況においても互いを理解して互いを尊重し合うという現地の人の姿勢にすごく感心しました。そしてけんちゃんカレーを食べて日本食と海外の食の味の違いについてよく聞くことができてそれ以外にもハラルとノンハラルについて一緒に皿を洗ってはいけないということやイスラムを信仰していない人が食べた食器などを使ってはいけないなど厳しい決まりがあることについてよく知ることができた。JICAの方のお話を聞いてマレーシアの経済開発に携わる日本人の方がマレーシアでどんな開発事業を行っているのかやどんなことでマレーシアに支援を行っているのかなど聞くことができてそういう海外の経済支援について興味を持つことができた。日本人企業家の方のお話を聞いて日本とは異なる気候のマレーシアでは一年を通して衣替えの機会がなく服を売ることが困難な中でどのようにしたら売れるのかを考えたり、ファッションは自分がなりたいイメージに合わせて組み立

てることが大切ということを知れた。ナショナルモスクやピンクモスクに行ってみて実際にイスラムを信仰している人たちが女性と男性で別れてお祈りするということや女性は肌や髪を隠すということを身をもって体験することができた。マレーシアの三大宗教のうちの仏教とヒンドゥー教の歴史的建造物を見て日本では見ることでできない大規模な建物や雰囲気を感じることができたすごい機会になった。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

私がマレーシアに行ってみて一番に感じたことはマレーシアの本屋に行ってみた際に、本の値段を見るとすごい物価が高かったため、なぜあんなにマレーシアでは本の物価が高いのか調べたいと思ったのと、日本人起業家のお話を聞いて自分の身の回りにいるファッションに興味がある人たちにも、なぜファッションに興味を持つようになったのか、ファッションが好きな人にとってファッションとはなんなのか、もっとファッションについて詳しく知りたいと思った。マレーシア以外の国にも行ってもっと海外での経験や海外の価値観などを知りたいと思った。それとともに今回の事業を通して自分の英語能力が足りないと感じたためこれからもっと学習していくことが必要だと感じた。

4 感想（印象に残ったこと）

今回の事業を通して一番自分が大きく変わったのは価値観ということで自分が思っていた何倍も海外という場所は能力面や思考面でも優れて入れているということに気がつくことができた。自分は今まで日本という国から出た経験がなく海外は日本よりそこまで発展していないのだろうと自分の中で思っていた部分があったが、そんなことはなく気候の変化がないマレーシアでの服の売り方や日本にはない遊びなどにふれていろんな考え方を広げることができた。そして、互いを理解し互いを尊重し合うということを経験して私達日本人に対する現地の人の察し方などを通して大きく関心を受けた。そういう価値観はこれからグローバル化していく日本において最も重要な価値観なのかなと自分は思った。自分が全然関わっては来なかったような容姿や価値観を持った人たちに今回こんな形で出会えたことはすごく大きな経験になったと思った。これから自分がやりたい道で今回のこの経験が活かされることがすごくありそうですごく将来が楽しみだなと思った。

学校名：青森県立三沢商業高等学校

氏名：太田 若那

1 研修の目標

- ・現地調査を通して日本食産業が進出している背景を深く学ぶこと
- ・英語でのコミュニケーションを通して日本の文化との違いを肌で感じ、人間力を高めること

2 事前準備

- ・課題図書「消費大陸アジア」を読み、マレーシアにおける日本食産業の「意味づけ」「価値づけ」を理解した。
- ・宗教上の問題、ハラールについて、地理的情報も調べ、現地に行った際に少しでも役に立てるようにした。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・日本食の人気と認知度を知ることができた。
国民の健康意識の高まりや政府の啓蒙活動による後押しにより、サプリメントやオーガニック食品が流行し、安全性が高く、美味しく、健康に良い日本食が広く認知され、人々に愛されていることがわかった。
- ・宗教の違いや異文化に触れることができた。
マレーシアで最も信仰者の多いイスラム教の文化を体験し、スカーフで肌を見せない、箸を使わず右手で食べる、トイレットペーパーは基本的に設置されていないなど、宗教やマレーシア特有の文化に触れることができた。
- ・英語でのコミュニケーション能力を高められた。
身振り手振りでの英会話でコミュニケーションの楽しさと難しさを感じ、相手の思いやりや温かさにも触れ、「互いを認め合い、互いを尊重できる素晴らしい国」は本当だとわかった。

(2) 今後の課題

- ・日本食以外の様々な業種で海外進出している企業の背景の調査

- ・日本との貿易について調査・研究の深化
- ・英語力を向上させるため、英検 2 級取得、大学での留学で深く学ぶこと
- ・アジアの会計基準について学びたい。

4 感想

この研修に参加した理由は、「学びの深化」と「多様性の理解」だ。これまでマーケティングの授業では商品が売れる仕組みや日本食が海外進出した回転寿司チェーンの事例など学習してきた。しかし、なぜ日本食がアジアに進出しているか、日本食産業の「意味づけ」「価値づけ」まで考えることができなかった。世界の美味しい料理第 2 位にランキングされている日本食。フィールドワークの際もお好み焼きを食べたが、現地では日本よりも約 2 倍の値段で販売されていた。大学生曰く、ヘルシーで安心・安全、高品質な日本食が人気であり、需要の高まりから価格が上昇しているのだという。様々な場面で日本人として誇りに思う瞬間がたくさんあった。

6 日間の研修を通して思うことは、日本は豊かな国だということだ。改めて日本の良さを知り、日本人であることに誇りを持てた。また、人間は争わずお互いを理解し、平和に生きることができるとも思った。貴重な経験をさせていただいた全ての方々に感謝している。

この経験を生かし、大学に進学して商業の見方・考え方を用いて見識を広げていきたい。将来は青森県の商業科教員として、子供達と共に地域課題解決に貢献できる教員を目指したい。

学校名：宮城県石巻商業高等学校

氏名：後藤 舞智

1 研修の目標

- ・多民族国家であるマレーシアに行き、日本の違いを見てくる
- ・事前に学んだことを意識する
- ・しっかり自分の目で見て体験をする

2 事前準備

- ・言語の歴史
- ・マレー語の特徴
- ・多民族であること

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

今回の海外研修の成果として1番感じられたのは英語で現地の高校生と交流することです。マレーシアに行くことが決まる前から海外に興味をもってました。その中で現地の高校生と交流する機会がありとても嬉しかったです。最初は私なんて英語できない。会話できない。と思っていました。しかし、バディーの子と話していると気軽に話すことができて英語で会話することが楽しくなりました。交流の中では一緒に文化を交換しあい私はバディーの子と最初にマレーシアの伝統の遊びを体験しました。今流行りの韓国での遊びでコンギが流行ったと思います。韓国はプラスチックの色のついたものを使って遊んでいましたが、マレーシアでは手作りのものを使ってコンギをしました。お手本の学生さんは簡単にやっていましたが、実際にやってみると結構難しく苦戦しました。言葉が通じなくてもジェスチャーで説明をしてくれました。学生と交流する以外にはJICAに行き発展途上国の地域等で開発に苦しい国を助ける活動をしていると聞きとても関心しました。ボランティアを募集して貧しい地域に行き人を助けている活動を知り、自分も活躍したい！と思いまし

た。JICAの活動に携わることで自分の知識をあげることや色々な国に行きたくさんの文化を学べると思ったからです。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

私はみんなと活動していく中でグループ活動の時や全体活動の時にあまり質問ができませんでした。質問したいと思っても行動にだすまでいかずいつも質問などをしないで終わってしまいました。他には、英語でスピーチする人や話す時のコミュニケーション能力も自分は不足してるなと思いました。英語でスピーチをするだけでも緊張するはずなのにスラスラ言えていたり、バディーの子や日本の友達と話し方もみんなとは違うのかなと思いました。もう少し英語を勉強をし日常会話ができるようにしたり、コミュニケーション能力も今後は高めていきたいと思いました。

4 感想（印象に残ったこと）

私がマレーシア研修に応募し活動が終わるにあたって思うことは本当に参加してよかったなと思いました。興味を持っていた交流や文化に触れることができたこと。現地のお金を使い自分で買い物することができたこと。など。たくさん良い経験をすることができました。一緒に海外へ行った15名の仲間ともマレーシアにいる間はみんなと仲良くすることができ、楽しい思い出もたくさんできました。日本では体験できないモスクにも触れることができ、実際に礼拝してる人も見ることができました。行く前に目標にしていた体験を自分の目でしっかり見てくる。という目標を達成することができました。私は将来海外での仕事にも、興味を持っています。今回の活動を通して海外での働き方や文化のことを考え、自分が体験したことを今後に活かしていきたいと思いました。

学校名：秋田市立秋田商業高等学校

氏名：佐々木 朱里

1 研修の目標

- ・秋田県の観光業を発展させるために観光業が発展しているマレーシアで発展している理由を探る。
- ・今後他民族で共生していくことが増えていくと思われる段階にいる今、宗教や生活習慣の異なる人々と共生していくために大切なことを実際に体験して考える。
- ・今まで学習してきた英語がどのくらい通じるのか挑戦する。

2 事前準備

- ・マレーシアの簡単な挨拶や人口構成、宗教、生活習慣などを調べる。
- ・「経済成長の原因」「マレーシアと日本の関係」など知りたいことを自分なりに調べ、まとめた。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

講話を聞いたりフィールドワークを通して第三の視点から物事を客観的に見たり聞いたりすることができ、そこから自分なりに考え分析できるようになった。例えば、JICAの方がマレーシアに移住したことで日本の男女格差が先進国だけでなく開発途上国であるマレーシアよりもあると感じると言っていたのを聞いて、私も日本の男女で分ける必要がないことを考えるきっかけになった。

男女で分ける必要がないとおもうこと
→なりた職業ランキング

フィールドワークでは、ショッピングモールにあった日本コーナーを見て、日本は海外から人気があるのを知ると同時に私が思う日本と少し違いがあり、海外からの観光客を増やすにはその違いをよく理解しておくことが大切だとわかった。

学校交流では、言語の壁が思っていたよりも大きく自分の言いたいことを伝えるのはとても難しかったが、何度も繰り返し話し続けることで少し会話ができるようになった。それと同時に自分の語彙力がないことを目の当たりにしてもっと怖がらずに会話をし、英語もそれ以外の

言語もジェスチャーとともに伝えられるようになりたいという目標を立てることができた。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

- ・学校交流で昼食を食べたとき「手で食べる」という生活習慣を知っていたにもかかわらず心の底で驚いてしまった自分がいたので異文化理解をして受け入れられるようにしたい。
- ・パーム油栽培の話聞いたとき日本の企業は環境にやさしいと言って販売していると言って一つの情報を鵜呑みにせず、そこまでの過程を調べる習慣をつけたい。
- ・みんなのプレゼン発表を聞いて自分の内容は薄いとを感じる場面があり刺激を受けた。そのため学校の中だけの交流でとどまるのではなくボランティア活動などに積極的に参加して年齢や考え方の異なる人たちと交流をして自分の考えを深め、それを伝えることができるようにする。また、検定の取得が少ないので全商検定三種目以上合格や日商簿記2級、英検2級を目標に勉強に励みたい。そしてその知識を応用してビジネスに生かせる考えができるようになりたい。

4 感想（印象に残ったこと）

一番印象に残っているのは、マレーシアに行く前日のワークショップだ。貧富の差があることはわかっていたが、先住民族は文字が読めなくて会議に参加できないほどだとは思ってもしなかった。話を聞いた直後は先住民族の文化を大事にし開拓反対派であった。しかし、現状維持ばかりではSDGS達成に近づかないことなどから今では開拓するべきなのではないかと考えられるようになった。この考えが正解なのかはわからないが、世界にはこのような問題がまだまだたくさんあると思うのでひとつひとつ真剣に向き合っていけるようにしたいと思った。地球によいことを出し合った時も環境によいことしか出すことができなく「地球によいこと＝環境によいこと」という思考になっているので広い視野で考えることが大切だと学びました。

日本を出てみて、日本と自分自身の課題をたくさん見つけることができた。この課題を解決するためにこれからも学ぶことをやめず、知識や多様性の理解を深めて応用し、秋田県の発展につなげていきたい。

学校名：山形県立酒田光陵高等学校

氏名：菅原 陽向

1 研修の目標

・異文化理解や語学力の向上に加え、事前に分析したマレーシアの小売方法が、実際に 現地でどのように表れているのかを調査する。

・若者たちの消費行動や、ハラル食品に対する意識に注目し、日本の消費者との違いを比較することで、多文化共生社会における消費者の役割について深く考える。

・現地の価値観や行動様式を知り、日本との違いを探す。

2 事前準備

・課題図書「消費大陸アジア」を読み、「日本とマレーシアの消費行動における価値観の違い」について分析した。

・マレーシアの経済について、「マレーシアの首都機能移転についての分析」を経済的視点で見た調査を行った。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

まず、今回の海外研修の成果として挙げられるのは、自分と、一緒に海外研修に参加した15名との間に力の差を感じたことだ。マレーシアへ留学する以前に、他15人の参加者のレベルの高さを知り、同級生であることに驚きを隠せなかった。だがそれを身をもって体験できたことで、これから自分の地域を超えて全国の人たちと競い合うということがどういうことかを、自覚することができた。

現地では、最初は言語の壁が大きく、意思疎通が難しいところがあったが、だんだん英語が聞き取れるようになり、自分の英語力向上を感じることができた。また身振りなどを使えば簡単に意思疎通をすることができ、海外の方とのコミュニケーションがとても楽しいと実感した。この経験を活かし、これからも怖がらずに話していこうと思うことができた。

海外の企業の話聞くことで、日本の企業と比べ、より顧客目線を大切にしている暖かさを感じた。開発途上国への支援において、ボランティアや顧客一

人一人のファッションを考えたり、どの宗教の人でも食べれるカレーを作ったりしていた。そして企業の成り立ちを聞くことで、利益よりもターゲットの幸せを望んでいることを感じた。

また、現地学生の流暢な英語力や、多様な文化に対する深い理解に感銘を受けた。特に、ディスカッションでは、自分の意見をしっかりと述べ、相手の意見を尊重しながら議論を進める姿に、国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力の重要性を改めて認識した。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

自分は、他の参加者とくらべ、要点を掴みながら話を聞くことが下手だと感じた。今後はメモの取り方を見直し、効率よく傾聴する能力を養いたい。

さらに、他の参加者に比べ取得検定数が劣っていると感じた。これからは英検や全商の検定取得に励みたいと思う。それと同時にこれまで行ってきた地域貢献活動にこれまで以上に積極的に参加し、主体的に運営していくことで、リーダーシップ、コミュニケーション、問題解決のためのスキルの向上を目指したい。そして社会活動の経験を積むことで、社会の多様な現実や問題に直面することで、新しい価値観や知識を得たい。

4 感想（印象に残ったこと）

一番良い経験となったものは、現地の学生との交流だ。そこではマレーシアの文化ならではの遊びができたし、箸を使わず、手で食す経験もすることができた。そして多少の言語の壁はあったがたくさんの友達ができた。最終日の大学生とのフィールドワークでも自分たちの興味のあるところを散策しにいたり、普段関わることのないモスクやハラルについてもたくさん知ることができた。これらの経験により、宗教や文化への関心が芽生えたため、これからも追求してみたいと考えた。

一方で、今回の海外研修の前に分析したマレーシアの小売方法とプトラジャヤへの首都機能移転を実際にみることができなくて残念だった。そのため、また自分で機会を作り、マレーシアに行き、見聞を深めたい。

学校名：茨城県立日立商業高等学校

氏名：鈴木 晴琉

1 研修の目標

・マレーシアの文化や生活に着目し、日本との違いを観察し互いの長所や短所を発見し自らの生活や地域社会にどのように活かすことが出来るかを考える。

・マレーシアの環境に適応するために積極的にコミュニケーションを図り、様々な発想や視点から物事を捉える力を育む

・積極的に質問や観察を行い恐れずに挑み、たくさんの方のことを吸収して、学校の友人や先生、家族に対して発信する。

2 事前準備

・事前に課題として指定された本を読み、日本と他アジア国の価値観のズレなどを理解し、普段なら見過ごしてしまう事も根気強く観察し、それらを余すことなく観察し吸収する心得

・事前に文化や歴史、宗教を学び、学んだ事を実際に観察するためのレポートの作成

・沢山のコミュニケーションを取るための話す英語を学び、積極的に話した。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

この研修では、予め目標を定めていた事もあり、多くのことを学ぶことができた。

その中でも実際に体験してみる事の大切さを強く感じた。事前にマレーシアについて調べているときは、あくまで他の国の話であり、他人事のように感じてしまっている事が多かった。しかし、実際に現地へ足を運び、事前に学んでいたことと合わせて見ていくうちに徐々に興味湧いていき、「学ばされている」から「学んでいる」に変化した。それを強く実感した出来事はハラルマークである。調べているうちは「こんなものがある」という感覚であったが、ショッピングモールなどを調査しているうちにマレーシアの生活に馴染んでいて欠かせないものである。という印象が変わった。実際に足を運び観察してみる事で、より深く知ることができたのだ。

また、実際に言葉話すことで心の距離が大きく縮まるという事を学んだ。現地では英語も多く使われていたが、英語を話すことができずマレー語を話す高校生もいた。これは自分のリサーチ不足であり、マレーシア国全員が英語を話すことができると勘違いをしていた。そのためマレー語は一般的な挨拶程度しか話す事が出来なかった。しかし、機械に頼るばかりでは勿体無いと感じ、Google 翻訳で検索した後、実際

に発音し話してみると沢山の人が集まり沢山の言葉や踊りを教えてもらう事が出来た。恐れずに挑戦した結果であると考えている。

また、バスの中からも街中を観察する事が出来た。マレーシアでは高いビルが多いがその手前にトタン屋根の家屋があるなど、格差が大きいのではないかと考えた。

(2) 課題 (今後、取り組みたいこと)

私は海外研修を得て沢山のことを学ぶ事が出来た。しかし、より予習をしておけば、実際に照らし合わせる機会が増えより充実した時間を過ごす事が出来たと考えている。リサーチ不足を減らす事で日常生活でもより充実した質の良い時間を過ごす事ができるのではないかと考えた。

また、この研修で自分は情報処理能力が著しく他の人よりも低いということを強く実感した。しっかりと話を聞いていたつもりでも、情報が抜け落ちていた事があり、スーツケースの中にお財布を入れた状態で飛行機に乗せてしまうなど多々失態があった。普段からメモを取り、そこから大切な情報を正しく得るという練習が必要であると考えた。

また、今後の生活では、コミュニケーションをとってみることや、事前に予習をすることなど、海外研修で学んだ事を最大限活かして行きたいと考えている。

4 感想 (印象に残ったこと)

私はこの海外研修で多くのことを学ぶ事ができた。それは、マレーシアの文化や歴史も含まれるが、それ以上に精神的な部分で成長を感じる事が多かった。例えば、日本人企業家さんの話では夢に対する志や、人生への付き合い方などを質問した。自分は公の場で質問する時に怖気付いてしまうタイプだが、質問をした結果、答えが返ってきた。ごく当たり前の事であるが自分にとっては大きな成長の一つであった。これは事前に調べたことを人前で発表する際についていける力でありこの経験を大切にしたいと考えた。

また、JICA さんの話を伺った際には、自国だけではなく、他国を助けるという姿勢に強く感激しかっこいいと感じた。私は将来、人を直接助ける仕事をしたいと考えておりボランティアなどに積極的に参加をしていた。そんな自分の気持ちをそのまま仕事にした組織であり強く印象に残った。

この海外研修では、自分の未熟な所を見つけることや、逆に強みを活かし観察し気づきを得ることも出来た。海外研修で得た経験や知識を糧にしこれからの人生に存分に活かして、生活をより豊かなものにして行きたいと感じた。

学校名：群馬県立高崎商業高等学校

氏名：下田 花音

1 研修の目標

- ・自分の視野を広げ、国際感覚と多角的に物事を捉える感覚を身につける。
- ・マレーシアで得た学びを将来自分が住む地域社会で女性が活躍するために役立てる。

2 事前準備

- ・事前調査のテーマとしてイスラム教ならではのハラールを設定し、ハラールについて調べた。
- ・マレーシアのお国事情として、日本とマレーシアの関係について、歴史、経済、政策、文化、教育などの視点から調べた。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

今回の海外研修によって、マレーシアについてもっと詳しく知りたいと思えた。事前準備でハラールについて調べていたとき、イスラム教についても知ることができ、奥深さを感じていた。実際に、ナショナル・モスクとピンクモスクを訪れた際のスカーフの対応が違っていたことにも宗教に対する厳格さを感じ、マレーシアについてもっと知りたいと思えた。

また、マレーシアの食についてもたくさん触れることができた。初めての海外で不安なことがたくさんある中の1つが食事だった。自分の口に合うのかすごく不安だったけど、マレーシアで食べたものは全部すごく美味しいと感じられた。特に好きだったのは、Ken Chan Curryのカレーだった。美味しいカレーが食べられ、ハラール認証のお店について詳しく聞くことができたことはすごく勉強になった。ハラール認証のお店では、豚肉とお酒といっしょに運ばれていないかの確認までされていて、ここでも宗教に対する厳格さを知った。

マレーシアに行ったことで、海外への興味がより強くなり、もっといろいろな国へ行きたいと思うようになった。他の国の宗教や文化、食について学びたいと思った。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

今回の海外研修を通して、私は英語でコミュニケーションを取ることの難しさをすごく感じた。自分が思っていることや伝えたいことを英

語に変換することが上手にできなかった。そのため、これからはより英語の勉強に励んでいきたいと強く思った。自分の思いが伝わったときや英語を聞き取れたときはすごく嬉しく、英語でのコミュニケーションの楽しさを知ることができたので、英語でも怖がらずに話してみることがはすごく大切だとわかった。英語で話せるようにするには、学校で習うような文法や単語を覚えることも大切だと思うけど、1番いい方法は、実際に海外の方と話すことだと感じたので、これからも海外に行く機会や、海外の方と交流できる機会があれば、積極的に参加して、自分の英語力の向上に向けて頑張りたいと思った。

事前準備でハラールについて調べ、ハラール認証のお店を現地で目で見て確認しようとしたが、実際マレーシアでは楽しいという気持ちが勝ってしまい、確認が上手くできなかった。目標はしっかり達成できるようにしたいと思った。

4 感想（印象に残ったこと）

マレーシアの空港に到着して、最初に感じたことは、日本では嗅いだことのないマレーシア独特の匂いと日本とは違う空気感だった。飛行機で向かっているときには、海外に行くという実感はわかかなかったけど、空港で日本とは違う空気に包まれて、海外に来たんだと肌で感じることはできた。

マレーシアでの海外研修で1番印象に残っていることは、現地の学生との交流だ。自分が聞き取れないときはすごくゆっくり話してくれたり、わかりやすい簡単な単語に言い換えたりしてくれた。そのおかげで、英語でのコミュニケーションをとることの難しさを知ることができたし、反対に、楽しさも知ることができた。パディと一緒に現地の遊びをしたり、日本の折り紙をしたりすることができて、すごく楽しい時間を過ごせた。フィールドワークでは、現地の大学生が案内してくれたので、マレーシアの街を安全に楽しみながら、学ぶことができた。

また、全く知らない同級生と一緒に海外に行くことも初めてだったので、不安が大きかったけど、個性豊かで、優しい人ばかりだったので、楽しく過ごすことができた。

偶然集まった16人がこの16人で良かったと心から思った。

学校名：東京都立第一商業高等学校

氏名：原田 沙彩

1 研修の目標

- ・日本とマレーシアのビジネス戦略の違いについて理解する
- ・現地の人との交流を通して、英語でのコミュニケーション能力を向上させる
- ・マレーシアの文化や宗教について触れる

2 事前準備

- ・「消費大陸アジア」を読み、マレーシアと日本の食品の安全性と安心感の基準をテーマにハラル食についてまとめて第2回オンライン研修で発表
- ・「経済・文化」のテーマを選び、マレーシアの祝祭日のタイプサム、ディーパバリ、チャイニーズニューイヤーについてまとめて事前研修で発表
- ・現地で訪問予定のJICA（国際協力機構）マレーシア事業や日本人女性起業家徳田氏、Ken Chan Curry についてインターネットでの事前学習

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

マレーシアは多民族・多宗教の国であるため、現地で様々な伝統的な遊びや食文化、生活様式に直接たくさん触れることができ、これらの体験を通じて、異なる文化や宗教に対する理解が深まりました。スーパーにおいては日本とは反対にノンハラル商品の売り場が存在するなどこうした文化的背景がビジネス戦略に反映されていることを学ぶことができました。

また、ポリテクニク・シャーアラム校への訪問やB&S プログラムを通して現地の学生と交流することができました。私の英語の発音は、なぜかマレー系マレーシア人には聞き取りにくかったらしく、英語コミュニケーションの難しさを実感し、綺麗な発音よりも、表情やジェスチャーを使って相手に意思を伝えることの大切さを学びました。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

私は、この研修を通じて得た貴重な体験と知識を活かし、今後もマレーシア以外の国も含めて異文化への関心を持続けたいと思います。そして、新し

い視点を持ち、将来、革新的なビジネスアイデアを生み出せるような社会人になれる努力をしていきたいです。また、グローバルな情報を直接自分の目や耳で理解できるようにするために、これからも英語や英会話によるコミュニケーションの学習を継続していきます。

4 感想（印象に残ったこと）

マレーシア研修での体験を通じて、文化の違いや新しい発見や驚きが多くありました。一つ目は、「まんから」というおはじきを使った伝統遊びです。小学生の頃に日本で遊んだことがありましたが、現地のルールは日本のものと大きく異なっていて驚きました。二つ目は、チキンライスを手で食べた体験です。日本では手で食べることはマナーとして好まれません、マレーシアでは右手のみを使って食べることが一般的です。現地の習慣に従い、バディーを見習って右手で食べてみましたが、右手だけでお肉を切ることが難しく、普段カトラリーを使って食事ができることのありがたさを実感しました。

また、一緒に研修に参加した同級生から、自分にはない発想やコミュニケーションの方法を学びました。育った地域が違うため、手遊びや方言、言葉のイントネーション、考え方に違いがあり、とても興味深かったです。特に、方言に影響されて自分もつられてしまいその方言で話しそうになることが何度もありました。一方で、読んでいる本や音楽の趣味が共通していることも多く、嬉しく感じました。今回の研修で築いた関係は今後も大切にしていきたいと考えています。

今回、国内外の文化における違いを尊重することや文化について新たな視点を得ることができました。また、異なる地域的背景を持つ人々との交流から多くの学びと共通点を見つけることができ、今後の私の人生における貴重な財産となりました。

最後に、今回このような研修を開催して下さった全商協会の皆様、引率して下さった先生方、旅行会社の方、2学期中にもかかわらず快く送り出してくださった第一商業高校の先生方、いつもこの研修旅行を温かく見守ってくれた両親へ感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

学校名：新潟県立新潟商業高等学校

氏名：小納 花音

1 研修の目標

- ・事前に調査した日本と海外の違いを起業家の方のお話や市場調査によって確認することや現地で初めて知る違いや価値観を体験すること。
- ・様々な礼拝堂や寺院などに訪れる。また、学校訪問やフィードワークを通して宗教や文化の違いについて学ぶこと。
- ・現地の方とたくさん会話をして英語力の向上

2 事前準備

- ・課題図書を読み日本と海外の消費行動の違いを分析しレポートにまとめた。
- ・事前研修時に発表する日本とマレーシアの関係について調べレポートにまとめた。
- ・学校訪問で発表するラジオ体操の練習やフィードワークで行く場所の確認

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・15人全員とコミュニケーションをとり仲を深め研修を楽しみながら行えたこと。知っている人が一人もいないため、以前よりも自分からコミュニケーションを取ろうとする力が得られるようになった。
- ・学校訪問や寺院、礼拝堂を訪れ、日本との違いご飯の食べ方などの文化の違いや宗教について体験し学びを深めることが出来た。
- ・海外で活躍する日本人の起業家の方のお話を聞き、日本との経営戦略などの違いを知ることができた。
- ・今の自分に足りない能力を明確に認識することができた。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

- ・英検二級取得

学校訪問時に翻訳機を使うことが多く今の自分の英語能力のレベルを明確に認識することができた。だが英語を使つての会話の大変さを知るとともに楽しさも知った。そのため、高校卒業するまでに英検二級取得を目標に学んでいこうと思った。

・経済についての探究

起業家の方のお話を聞くことによって今まで以上に経済や経営について興味を持つことが出来ました。そのため、日本の経済や世界の経済についてもっと知りたいと思いました。他にも企業などが行なっている経営戦略や違いをもっと知っていききたい。

・宗教と文化の違いの探究

モスクなどの様々な礼拝堂や寺院に訪れることによって宗教ごとの礼拝の仕方を体験する事やダンスなどを体験してとても興味を持つことが出来た。そのため、もっと色々な宗教や国の文化を学んでいき経済と繋げられるような考えを探究していきたい。

4 感想（印象に残ったこと）

研修をして今までの自分では想像もつかない経験をたくさんすることが出来ました。例えば学校訪問やフィードワークでは現地の学生と一緒にご飯を食べたり、遊んだり一緒に行動する事により、その土地の文化を体験することが出来たり、会話をする事によって仲を深め海外の友達をつくることができました。特に学校交流の昼食時に一緒に手で食べたのはとても印象的でした。最初は箸で食べていましたがペアの方が「手で食べてみなよ」と言ってくれて一緒に手で食べました。最初は慣れないのでなかなか上手に食べられませんでした。私が食べている姿を見てペアの方が笑いながら教えてくれたのでとても楽しくご飯を食べることが出来ました。また、海外で活躍する日本人起業家の方のお話を聞く事によって日本と海外での経営戦略などを深く知ることが出来ました。日本ではあまり知られていないハラルを考えながら経営するということ日本と同じ提供の仕方では海外では通用しないことが分かり、たくさんの経験と知識を得ることが出来ました。しかし、この研修を通して今の自分に欠けている能力も見つけることが出来ました。そのため、これからの生活で見つけた、欠けている能力を自分の能力に変えられるように生活するという新しい課題も見発見できました。この研修は自分に新しい価値観や身についた能力、これからの課題など様々なことを自分に教えてくれる素晴らしい経験だと思いました。そして、また学びたいと思わせてくれる楽しい経験だと思いました。

学校名：滋賀県立大津商業高等学校

氏名：大谷 孝太郎

1 研修の目標

- ・他民族からなるマレーシアのビジネスとコミュニケーションを学ぶ
- ・信仰による市場や価値観などの違いを知る
- ・商業で学んだことを活かし現地調査を行う

2 事前準備

- ・川端基夫 (2017)「消費大国アジア」を読み、国に合わせた商品の意味づけと価値づけを学んだ
- ・マレーシアの宗教・歴史・教育制度を調査した
- ・日本とマレーシアの関係や挨拶、タブーなどを仲間と共有した

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

事前調査で学んでいた食事や生活習慣、考え方などの違いを現地で知ることができた。マレーシアで多く信仰されているイスラム教の現地学生と食事をした時、ご飯にレモンのソースをかけて手で食べる姿があった。ご飯に水分を含ませることや箸を使わず右手で食べる姿に衝撃を受けた。しかし日本人である私たちのために箸を準備、一緒に箸で食べることに挑戦したりなど、それぞれの考え方を受け入れる姿を見ることができた。

JICA 事務所ではマレーシアで行われている事業取組について教えていただいた。公立学校ではマレー語が必須科目であること、英語教育がアジアトップクラスであることを事前調査した内容と比べながら学ぶことができた。この教育制度をもとに、マレーシア内の教師が不足している地域での IT 教育の普及や平等に就学継続できるような取り組みをされていた。私たちもボランティアスタッフとして特技を活かせる機会があることも教えていただき、支援国だけでなく参加するメンバーの生きがい作り、居場所づくりにも貢献しているのではないかと考えた。商品に対してだけではなく、参加することにも意味づけができると気づくことができた。

マーケットやモールの自由時間では、個人目標に設定した市場調査を行なった。

棚一列が日本食品コーナーになっており、カレーや味噌、乾麺までいろんなジャンルの食品が並んでいた。値段は平均するとマレーシアの方が 30 円ほど高かったが気になるほどの差ではないと感じた。一番衝撃だったのがモール内に TSUTAYA 書店があったことだ。日本語の漫画や文房具もそのまま販売されていた。なぜ文房具まで翻訳されてない物を置くのか疑問に思い店員さんに聞いてみたところ、日本（日本語）に対する信頼感があるため日本語のままでも販売するそう。日本語が与える影響は想像以上に大きいことを初めて知ることができた。

これらの経験から効果的なビジネス戦略は統計だけでなく現地で調査しないと見つけられないことがあると感じた。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

- ・マレーシアが先進国入りするためにできることはなにか
 - ・電車・タクシー移動を観光客にも不安なくできるシステムを作れないか
 - ・「マレーシアでビジネスを始めるとすれば？」
- この研修で学んだことをもとにマレーシアビジネススターターガイドを作成し、足りない知識に気づいていきたい

4 感想（印象に残ったこと）

初めての海外がマレーシアで、同じ商業を学ぶ仲間と研修ができて良かった。研修の中で印象に残っているものが2つあり、1つ目が職業訓練校の学生と伝統文化の交流をした時、私達に英語で話しながら、仲間とはマレー語で話していたことだ。2言語を瞬時に切り替える場面に衝撃を受けた。2つ目に日本人起業家、徳田阿希さんのマレーシアでファッションショーを開催した話の中で「どうやって前に進むか、そこに全力を尽くす」の言葉に気持ちが大きく動かされた。16人の仲間と、たくさんの方の協力があってできたこの経験を無駄にすることなく、エコノミストの夢に進めるようにしていきたいと強く思った。前に進むために最後の高校生活1年、夢に見合う量の商業勉強と実践に活かすための行動へ全力を注ぎたい。

学校名：鳥取県立倉吉総合産業高等学校

氏名：中西 桃菓

1 研修の目標

- ・研修を通して経験したことを日本に持ち帰り、新たな価値観やモノの見方として活用する。
- ・現地での学校間交流やフィールドワークを通してコミュニケーション能力の向上をはかる。
- ・マレーシアの経済について知ることによって自身の知識の幅を増やす。

2 事前準備

- ・グループワークでの発表のための資料集めやスライド作りをしました。
- ・マレーシアの経済状況や物価について調べマレーシアに行く前にマレーシアに対する知識を深めました。
- ・学校間交流での出し物練習でラジオ体操をやるので自宅で練習しました。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

マレーシア経済について理解を深めることができたことと海外の方の価値観や生活状況について知れたこと、電車の乗り方、物価、衣食、学校などの日本とマレーシアの文化の違いを多く知れたこと、友だちができたことの4つでした。私は特に電車の乗り方にびっくりして、日本ならスイカなどのICカードか切符を買うことが普通ですが、マレーシアはコインのようなものの中にICチップが入っていて、それを改札にかざすと電車に乗ることが出来てびっくりしました。他にもお土産屋や商店街においてある商品が日本では見たこともないようなものばかりで驚きました。また、実際に日本以外の国に行くことで日本に帰ってきた時こういうところは日本のほうが良い、こういうところはマレーシアのほうが良いなど自分の今住んでいる環境を客観的に見て比較する良い材料になったなと思いました。最後はたくさん友だちができたことです。研修は5泊6日という短い期間でしたが、皆が仲良く研修が終わってから資料の作成などの話をしたり、また集まる予定を立てたり、これからも長く付き合っていけるような友達がたくさんできたと感じました。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

マレーシア研修を終えての課題は英語力の向上と他の国の経済状況や文化の違いについても調べてみることに、プレゼンテーション力

の向上、これからも色々なことに挑戦することです。英語力の向上は学校間交流の時にバディの人となかなか翻訳機を通さずに話すことが出来なくてマレーシア独特の英語の発音だったので聞き取ることも難しかったのを覚えています。なのでもっと英語力を向上させて現地の方とも翻訳機を通さずスムーズに会話できるようにしたいです。次の他の国の経済状況や文化の違いについても調べてみるのは今回の研修でマレーシアについて色々なことを知れたことにより、他の国の経済状況や文化についても知りたいと思うようになりました。プレゼンテーション力の向上というのはオンライン会議や東京での事前研修の際合計3回のプレゼンテーションを行いました。その中で特に周りとのプレゼンテーション力の違いを感じました。研修後に学校で1時間のプレゼンテーションを行ったときはどのように資料を作るのかや発表のコツなどを皆に教えてもらって無事成功することが出来ました。またそこで自分は台本を使わずメモなどを使ったアドリブに近い発表方法の方が向いていることが分かりました。今後、人前でプレゼンテーションなどをする時はこの経験を活かしてもっと皆が聞きやすいプレゼンテーションを目指して行きたいです。最後はこれからも色々なことに挑戦することです。

今回の研修も普段だったら応募しなかったのですが、先生や学校の友達に背中を押されて一歩踏み出してみたら、行けることになったのでこれからもその時の勇気を忘れずに色々なことに挑戦していきたいです。

4 感想（印象に残ったこと）

私は今回のマレーシア研修で物価のやすさ、服装、食事の違い、学校の違いなど日本とは全然違うことをたくさん知りました。実際に現地の方々と交流することで知識としてマレーシアについて知るだけでなく体験として多くのものを感じてくることが出来たと思いました。特に印象に残っていることは、フィールドワークで地下鉄などに乗ってマレーシアを散策したこと。治安や国民性などを肌で感じる事が出来、現地の人と実際に関わることでよりマレーシアへの知識や理解が深まったと感じました。また、最初は自分一人見知りだったので一緒に行く人と仲良く慣れるかが不安でしたが、研修が終わる頃には皆と仲良く慣れていて良かったです。

また、改めて今回のマレーシア研修を通して学んだことをこれからの人生に活かして行きたいと思いました。

学校名：山口県立防府商工高等学校

氏名：梅田 裕香

1 研修の目標

- ・多民族が共生できているマレーシアに行き、「多様性」の本質について学ぶ。
- ・現地の人々と会話を通してコミュニケーション能力を磨き、英語力を向上させる。

2 事前準備

- ・近所のスーパーマーケットに行き市場調査を実施することでマレーシアと日本の商業を比較するための資料を作成した。
- ・マレーシアの食文化、歴史について調べ、現在のマレーシア成立のカギを探った。

3 研修の成果と今後の課題

(1)課題

この海外研修で研修の目標であった「多様性」の本質について私が体験した3つのことをもとに考察することができた。

1つ目は、マレーシアでの公共交通機関、公共施設を利用したことだ。電車に乗って国立図書館に行った。運賃は日本の約4分の1程度でとても安かった。図書館はセキュリティーが厳しかった。管理されている本はマレー語、英語、中国語など様々な言語のものが置かれていた。このことからマレーシアの公共設備はかなり整っており、住みやすい国だと感じた。

2つ目は、マレーシアの商業施設を利用したことだ。物価は、水やナッツなど現地で調達できるものはかなり安く買うことができた。それに比べ、多くの観光客が来る施設は普通のスーパーマーケットに比べ値段が高く設定されていた。また、日本の漫画といった輸入品も値段が高かった。このことから、マレーシアの物価が上昇しており現地の経済の発展を肌で感じることもできた。

3つ目は、宗教や民族について学んだことだ。マレーシアの三大宗教それぞれの施設に行き、どの宗教も考えていた以上に神を大事にしていた。また、学校交流事業では異なる民族同士の生徒が仲良く、誰にでも優しく接していた。こ

のことからマレーシアに在住の方の人柄の良さを知った。

「多様性」の本質について、1. マレーシアは設備がかなり整っており国民にやさしい国だということ、2. 国の経済が発展してきていること、3. 多くの民族が暮らしており、それぞれのための聖地、建物が作られていることの3つから以下のように考察した。どの民族、宗教にも居場所が作られていることが争いを起こさず、むしろ異なる互いを知ろうとする「思いやり」の意識を芽生えさせる。国民の多くの民族がマレー語という公用語で自分の意見を伝え合えることも互いを知るきっかけになるのだろう。その結果、新しいものを生み出したり、経済を発展させるきっかけができた。

(2)課題（今後、取り組みたいこと）

実際に現地の人と会話をしてみて自分の英語力の低さを実感した。研修前と比べ英語を聞き取れるようにはなっていたが、自分の伝えたいことをうまく英語にできず、スマホの翻訳機能を使う場面も多くあった。もっと自分の言葉で英語を話せるようになりたい。この経験をもとに今後は英語の勉強に特に力を入れたい。

4 感想（印象に残ったこと）

この研修を通して主に2つのことを学んだ。1つ目は広い視野を持つことの大切さだ。マレーシアの「どれか一つに絞らず、できる限りのことをすべてする」という考え方を知った。また、現地の日本人女性起業家の徳田阿希さんから学んだ「やってみないと分からない、やりたいことを全部すればいい」という考え方にも背中を押された。そのため、今自分にできることすべてを一生懸命実行したい。2つ目は人の温かさだ。バディーや現地のガイドさん、引率の先生方そして面識のなかった15人の同級生たちなどの多くの人支えから楽しく、ためになる研修にすることができた。

今後は、この経験を生かして国も関係なくたくさんの人と関わる人生を送っていききたい。そして何事も認め合える方法を考え抜くことのできる大人になりたい。

学校名：香川県立高松商業高等学校

氏名：香川 友芽

1 研修の目標

・マレーシアの経済や宗教、文化など様々な日本との違いを見つけ、日本に帰ってきた時に身近な人達に共有してマレーシアのことについて沢山知ってもらおう。

・日本語を使えない状況で英語を話すことで伝え方や聞き方などのコツを身につける

2 事前準備

・宗教でのタブーやマナーを調べて現地で対応できるように心得る。

・本を読み、市場の成り立ちや経済がどのようにすればうまく回るのかを調べる。

・物価を調べ、日本円に換算した時の価値の違いを頭に入れておく。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

今回のマレーシア研修で自分のもっていた以上の目標を達成することが出来たと思う。特に英語でコミュニケーションをとる際、簡単な言葉でもイントネーションの違いによってなかなか伝わらなかった事もあり、学ぶだけではなく実際に沢山話して英語力を身につけるといことがどれだけ大切かが身に染みて実感できた。また、単語が分からなかったり、言い方に困った時には分かりやすいジェスチャーを多く活用し、それで意思疎通ができる場面もあり、日本ではなかなかしない行動なので新鮮で良い経験になった。自分の中で1番日本との違いを感じたのは文化だった。道路では日本では有り得ないくらいの多くの人がバイクで移動している姿が見られたり、積極的に話しかけてくれるマレーシアの方々には日本人のシャイな性格と違ってとてもおもしろかった。モスクに行った時には、実際にイスラム教の礼拝を見たり髪をスカーフで隠したりして身近にイスラム教を感じることができ、なかなかすることの無い貴重な

体験となった。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

マレーシア以外にも様々な国を訪れてイスラム教以外の宗教や文化を実際に目にしたり体験したりしたいと強く思った。今回の研修で所々話が聞けていなかったり、メモをしそびれたりしていたので、海外に行く為にも今以上の英語力を身につけることはもちろんのこと、1人で乗り越えられるくらいの計画性と行動力をもち、将来は世界を飛び回り日本の国際関係や観光の発展の力になりたいと思った。また、その体験を自分だけにおさめず、友達や家族などに共有して、よりたくさんの人に海外の魅力や英語に関心を持ってもらいたい。そうすることで、日本国内でのグローバル化の適応にも繋がると考え、様々な経済問題、政治問題の解決にも少しは力になれると思う。

4 感想（印象に残ったこと）

今回の研修で私の海外へ行く夢が叶い、とても良い経験になった。特に海外の人はとても人との関わりがラフに感じたのが印象的だった。知らない人でも楽しい会話をしたり気兼ねなく質問したりしていた事が自分の中でとても嬉しいことだった。海外の人達から見る日本人はシャイな性格だと言われていて自分もそうだ思っていたので、今回それを挽回できたので良かった。また、この研修では自分の中の弱い部分を見つける機会ともなった。その中でも自分は計画性と話をきちんと理解して行動することに乏しいと感じたので、これを機に人間としてもっと成長していこうと思うことが出来た。その他にも JICA や、けんちゃんカレーなど日本の方々から話を聞いている中で、海外に貢献して自分で活動することがどれだけ大変で勇気のいることが分かりとてもかっこよく見えた。これからのグローバル化に伴い、自分も日本に貢献できるような人材となり、今後の社会問題の解決に支援出来たらと思った。

学校名： 高知市立高知商業高等学校

氏名： 立花 唯花

1 研修の目標

- ・現地の人とのコミュニケーションを通じて自身の英語力や対話力を向上させる。
- ・日本では得られなかった気付きや価値観を見つける。
- ・他文化国家ならではのライフスタイルを感じ、日本と比較する。

2 事前準備

- ・web で、マレーシアの概要調査(ex 地理、人種構成、経済、歴史、食文化)を行った。
- ・相手を尊重するために、上記調査で知った各文化ごとのタブーを知識として蓄えた後、行動に起こした。(ex ヒジャブの購入、手足を覆えるものの購入など主に服装への配慮)
- ・日常会話で用いられる英単語の復習

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

マレーシア渡航以前は、文法を瞬時に組み立てることが難しかったためスピーキングに対して苦手意識があった。しかし、実際に現地の人とコミュニケーションをとってみると、きちんとした文法でなくとも、身振り手振り、フレーズ、写真など伝える方法は多様であるとわかった。また、マレーシアの公用語は、マレー語であり、日本と同じ第一言語が英語ではない国なのに、英語力に大きな差を感じた。今回の研修で、身をもって体験できたことにより、今の自分に満足せず、向上心を持って学ぶことを再度認識させられた。また、日本人起業家のお二人のお話を聞き、「企業」という言葉への考えが改められた。円安やコロナ明けなど様々な要因が重なり、つい、利益ばかりを追求してしまいたくなる。しかし、新規ビジネスの立ち上げは、社会的課題を解決することが本来の目的であること。どんな時代であれ、「企業」する際には、世界中の人々、地球にやさしい、プラスのこと

をしていくべきだ、ということを忘れないでいたいと感じさせられた。

(2) 課題 (今後、取り組みたいこと)

伝えたくてもうまく表現できなかったフレーズが多いと感じた。今後は身の回りにあるものをまずは伝えられるようにするために、普段、使っているもの全てをまずは英語に直す練習をしていきたい。そしてゆくゆくはアニメのキャラクターや映画作品のタイトルなど、様々な分野のフレーズも言えるように少しずつ学習していきたい。また今回の研修で得た新たな学びをもって、マレーシア以外の国にも留学をして視野を広げていきたいと思った。

4 感想 (印象に残ったこと)

1 番印象に残っていることは、現地の人とのふりまいだ。私たち日本人は、比較的宗教というものを身近にふれることが少ないため、何か違うことがあるたびに驚いていたのだが、現地の人には私が戸惑っていると、日本ではどうやってやるのと尋ねてくれたり、日本はこうだよなー、僕たちはこうやってやるんだーなど自然と相手の文化に寄り添おうとする体制が築かれていることが素敵だと感じた。今までの自分は、自分の当たり前が誰かにとっての当たり前じゃないとき、どうしてもマイナスイメージな表情や言動が出てしまっていた。しかし、研修先で言語も趣味も何もかも違う私たちに快く受け入れ、楽しませてくれたことを胸に今後は、自身の表情や言動を意識し、相手の尊重が自然とできるようになりたい。また同じ年代の人でも、自身の英語や表現のスキルと大きな差があることに気づいたため、言語やプレゼンテーションについて学べる大学に進学して自身のスキルをより高めていきたい。

学校名：熊本県立翔陽高等学校

氏名：西川 那音

1 研修の目標

- ・多様性の理解を深めることで、広い視野を持ち行動できるようにする
- ・ハラル食品や文化など日本との生活様式や価値観の違いを探究
- ・現地の英語を体験して苦手意識を少しでも減らす

2 事前準備

- ・マレーシアと日本の違いを調べ、特に気になった物価の違いについて詳しく調べてまとめた。
- ・マレーシアの文化の中で食文化に着目して調べた。
- ・事前研修で調べたことを発表し合い、マレーシアの地理・歴史、教育、経済・文化などについての理解を深めあった。

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

今回の海外研修の成果として挙げられるのは主に3つである。一つ目はB&S プログラム など現地の方々との交流の際に多様性を受け入れて交流することができたことである。箸などを使わずに食べるなど、やはり自分と違うことがあると少し抵抗を感じてしまうことがあった。しかし海外研修では、文化や価値観の違いを事前に調べ、深めあったことで多様性を受け入れて交流することができ、とても楽しいと感じたからである。また2つ目の成果としてはJICA などのように世界の国々と日本を繋ぐ活動をしている機関があることを知れたということである。自分自身、世界 規模で活躍するということに興味はあるが、これまで検索しても詳しく書かれていなかったり、よくわからないことがあった。今回の 海外研修では JICA の存在について知れただけ でなく、具体的にどのような活動をしているのかを実際にお聞きすることができ、自分にとってすごく大きな経験となったからである。3つ目は、積極的に英語でコミュニケーションをとれたことである。これまで自分自身英語に対してすごく苦手意識があり、不安だった。最初は苦手意識や緊張などからなかなかうまくコミュニケーションを取ることができず、言語の壁を感じていた。しかし、身振りや手振りを意識しながらコミュニケーションを取ったり、ゆっくり話してもらったことで少しずつ英語が聞き取れるようになり、はっきりと言葉が伝わらなくても意思疎

通をとることができるということを体感し、英語力向上だけでなく英語自体が楽しいと実感した。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

この海外研修を通して、今後の課題・取り組みたいこととしては自分の県と他の県の取り組みの違いや、自分が興味のある国と日本との取り組みの違いを調べてみたいと感じた。自分は他の参加者に比べて、自分の県の取り組みですらあまり知れていないと感じた。今後、他県や世界に行くとしてもまずは自分の周りから理解を深めていくことが大切だと思うので、取り組みについて調べ、比較することでより多様性の理解や分析力を向上させ、様々な問題を解決できるようになりたい。また、研修中、英語力が足りずに会話が成り立たなかったり、伝えたいことが伝えられずにすごく悔しい思いをした場面が多々あった。海外研修を通して、少しずつだが英語に対しての苦手意識が減ってきているので、友達を誘って実用英語技能検定にチャレンジするなど、できるところから学習を始め、英語力を向上させていきたい。

4 感想（印象に残ったこと）

一番印象に残ったことは、JICA 訪問と日本人女性起業家の徳田さんとの面会である。日本だけでなく世界の国々を良くしようと、今問題になっているSDGs などの観点を取り入れて問題を解決していたり、自分が疑問に感じたことから、すぐ行動に移していてすごいと感じた。また特に、徳田さんの講話の中で、「やりたいことは一度やってみて違ったら次に行き、またやりたくなったらもう一度やれるチャンスをも自分でつくる」という言葉が心に残った。自分はこれまで、やりたいと思ったら行動に移しており、楽しい・もっと深く追求したいと思ったことは続けていたけど、自分にはあってないと諦めてしまったり、またもう一度やりたいと思っても、自分にはできない、また諦めてしまうとネガティブになってそこで終わってしまっていた。しかしこれからは徳田さんの言葉を思い出して、また諦めるのではなく、もう一度チャレンジする機械を自分でつくり、チャレンジし続けて行きたいと思う。

学校名：宮崎県立宮崎商業高等学校

氏名：佐藤 史佳

1 研修の目標

- ・多文化社会のマレーシアで現地人と積極的にコミュニケーションを取る
- ・交流を通して英語力を筆頭とした、語学力の強化を図る

2 事前準備

- ・食事やトイレなど、宗教が関わる現地人の生活環境に関する調査
- ・マレーシアで使われている言語の調査と学習

3 研修の成果と今後の課題

(1) 成果

私は、今回のマレーシア海外研修を通して、二つの成果をあげることが出来ました。一つ目は、日本では見ることの難しい、異なる民族価値観が共生する街を見ることが出来たことです。私は研修に応募する作文を書く段階で、マレーシアという国は様々な国にルーツを持つ人々が共に生活する多文化社会だということを知りました。日本、特に私が住むような地方ではまだ、街で外国人を見ることがさえないという状況があるように思います。そのため実際に現地で、マレー系、中華系、インド系の人々が穏やかに生活しているのを見て、とても感動したのを今でも鮮烈に思い出せます。二つ目の成果は、日本で勉強していた英語を実際の会話で活かすことが出来たことです。私は普段から学校でも自宅でも英語の学習に最も力を入れています。ですが、それを実践で使える機会は中々ありませんでした。しかし今回の研修中私たちは、交流や大学生との街歩きなど英語でコミュニケーションを取ることが必要になる機会が多くあり、これまで自分が学んできた英語を使って意思疎通をすることが出来ました。そのため、それまで勉強していたことがある程度きちんと身につけていたという安堵と、それからの勉強のモチベーションアップにも繋がりました。

(2) 課題（今後、取り組みたいこと）

この研修を通じて得た大きな課題の一つは、現地の料理をしっかりと楽しむことが出来なかったことで

す。研修中は、中華の専門店や、いろいろなマレーシアの料理が楽しめるバイキングなど様々なスタイルで現地の食事を頂きました。しかし、日本と大きく特徴の異なる米や、強い味付けなどに慣れず、ほかのメンバーに比べても食事をアクティブに楽しめなかったと感じます。そのため、これからは普段の食事から様々な素材や味付けに慣れるための工夫を心がけます。

4 感想（印象に残ったこと）

このマレーシアへの海外研修では、本当に数えきれないほど多くの学びを得ることが出来ました。その中でも私がこの研修の中で一番印象的だったのは、マレーシアに住む人々の英語力の高さです。マレーシアの多くの人々は英語話することが出来ますが、彼らのほとんどが英語を母語ではなく、第二言語、第三言語として扱っています。母語が英語ではないという点において日本と共通点を持つマレーシアの人々がなぜあそこまでレベルの高い英語力を身に付けることが出来るのか。それに比べるとなぜ日本人は平均してどの年代も英語を話す能力に欠けているのか。とても驚くと同時にとても興味深く思いました。私はそこには必ず教育体制の違いが関係していると考えています。もし私が将来教育に関わることの出来る職に就いたなら、ここで得られた着想を基に、宮崎の英語教育の発展と効率化に貢献したいと思いました。

この研修で数日を共にしたメンバーは、全員がそれぞれ日本を出発する前日に初めて顔を合わせました。人見知りの私にとって、それがまず一番の壁だと思っていたのですが、参加した16人全員が優しく、学ぶことに対して積極的で、現地で一緒に食事に戸惑ったりすることさえ、とても楽しくかけがえない時間でした。マレーシアで得られた繋がりも、日本で得られた繋がりも大事にして、これからも努力を続けます。貴重な経験を本当にありがとうございました。

令和7年度海外研修事業要項

- 1 目的 商業高校の学びに関連した市場調査等のフィールドワーク、現地での見学や体験をとおし、視野を広げ、異文化理解を深め、国際感覚を身に付けるとともに、生徒が本研修の成果をビジネスの振興による地域の発展に結び付ける機会とする。
全国の商業教育のなお一層の振興・発展を図るため、将来、各都道府県の商業教育のリーダーとして期待できる教諭を育成する。
- 2 対象者 商業科目を学ぶ令和7年度高校2年生 16名＋教諭3名＋校長（団長） 合計20名
※教諭は各ブロックより3年に一度1名参加する。
- 3 実施時期 (1)海外研修
令和7年8月18日（月）から8月23日（土）
※8月18日（月）は成田近郊の宿泊ホテルにて事前研修。
(2)事前・事後研修
オンライン研修を3回実施。内容については、派遣者決定後に連絡する。
第1回 令和7年7月12日（土）午前9時から午前11時
第2回 令和7年8月4日（月）午前9時30分から午前11時30分
第3回 令和7年10月4日（土）午前9時から午前11時
- 4 研修国 マレーシア
- 5 内容 学校交流、JICA（国際協力機構）・企業訪問、現地大学生とともに主体的に考えたプランで市場調査等
- 6 費用 以下全商協会負担
(1) 学校から成田空港の往復費用
(2) 航空運賃：エコノミークラス
(3) 燃油特別付加運賃及び各空港税
(4) バス料金：各都市における市内視察及び観光のバス費用
(5) 宿泊料金：ホテル宿泊費用（1室2名、バス又はシャワー付き）
(6) 食 事：全食事付き（機内食を含む）※グループ行動時は昼食代を支給
(7) 研修費用：現地での研修プログラムに関する手配、諸費用
(8) 通訳・ガイド費用：学校、市内視察及び現地企業訪問時における通訳・ガイド費用
(9) 添乗員費用：全行程1名同行
(10) 8月18日成田前泊宿泊費、会議室、夕食、成田空港への送迎バス費用
(11) 団体旅行保険
- 7 募集時期 2月上旬

8 応募締切 令和7年3月14日（金）全商協会必着

※生徒は、都道府県連絡理事が指定した日。都道府県連絡理事校必着。

9 選考 派遣する生徒を4月上旬に選考

※参加を希望する生徒は、都道府県連絡理事を経て全商協会あてに応募し、選考は全商協会で行う。

10 派遣生徒の応募方法

- (1) 希望する生徒は、次の提出物を都道府県連絡理事が指定した日までに都道府県の取りまとめ校（都道府県連絡理事校）に提出する。

【提出物】

- ①令和7年度海外研修事業 志望理由書
- ②令和7年度海外研修事業 派遣候補者推薦書

- (2) 都道府県連絡理事は、応募者一覧表を作成し、次の提出物を応募締切日までに全商協会に提出する。

【提出物】

- ①令和7年度海外研修事業 都道府県別応募者一覧表
- ②応募生徒から提出のあった上記(1)提出物①、②

11 派遣生徒の決定（選考方法）

- (1) 志望動機や検定取得状況等をもとに、特定の都道府県、学校に偏らないように選考し、理事会の審議を経て、理事長が決定する。
- (2) 派遣者決定後、全商協会から連絡理事、在籍校長、生徒に通知する。
- (3) 派遣者決定後の辞退は原則として認めない。

12 派遣教諭の決定

令和7年度の派遣教諭は東北ブロック、東海ブロック及び四国ブロックの各ブロック代表常務理事からの推薦者各1名とする。

ブロックのローテーションは次のとおりとする。

令和7年度	東北ブロック	東海ブロック	四国ブロック
令和8年度	関東ブロック	近畿ブロック	九州ブロック
令和9年度	北海道ブロック	北信越ブロック	中国ブロック

13 個人情報の取扱いに関して

研修参加に際して提供される個人情報は本研修に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。（詳しくは別紙「全国商業高等学校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会主催海外研修事業における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」をご参照ください。）

14 その他

生徒応募者総数が最少実施人数10名に満たない場合は、実施を見送る。

令和7年度海外研修事業 派遣者一覧

【団長】

	学 校 名
理事長	東京都立大田桜台高等学校

【教諭(3名)】

		学 校 名
1	東北ブロック	山形市立商業高等学校
2	東海ブロック	愛知県立愛知商業高等学校
3	四国ブロック	愛媛県立松山商業高等学校

【生徒(16名)】

NO.	都道府県	学 校 名
1	岩手県	岩手県立宮古商工高等学校
2	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校
3	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校
4	神奈川県	神奈川県立相原高等学校
5	福井県	福井県立福井商業高等学校
6	愛知県	愛知県立豊橋商業高等学校
7	三重県	三重県立津商業高等学校
8	大阪府	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校
9	兵庫県	兵庫県立洲本実業高等学校
10	島根県	島根県立松江商業高等学校
11	岡山県	岡山県立倉敷商業高等学校
12	広島県	広島県立呉商業高等学校
13	福岡県	福岡県立折尾高等学校
14	佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校
15	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校
16	沖縄県	沖縄県立八重山商工高等学校

令和6年度 全国商業高等学校長協会事業報告書(案)

I 役員会、総会・研究協議会等

1 春 季

(1) 全国役員会

(参集とオンライン併用のハイブリット形式)

日 程 令和6年5月19日(日)

会 場 東京：全商会館

(2) 商業教育140周年記念式典

日 程 令和6年5月20日(月)

会 場 東京：一橋大学一橋講堂

(記念講演)

「トラベル&ツーリズム(観光)の力とは」

ー地域活性化への役割ー

東京商工会議所 副会頭

株式会社 JTB 相談役 田川 博己 氏

(3) 第152回総会・研究協議会

日 程 令和6年5月20日(月)～21日(火)

会 場 東京：一橋大学一橋講堂

(本部提案)

「GIGAスクール構想を踏まえた魅力ある商業教育の実現に向けて」

ー教育活動の一層の充実と主体性や興味・関心を引き出す商業教育についてー

全国商業高等学校長協会副理事長

商業教育対策委員会 委員長

群馬県立伊勢崎商業高等学校長 根岸 卓

(ブロック発表)

① 関東ブロック(埼玉県)

「商業教育の発展と魅力向上の推進」

ー埼玉県のビジネスに関する学びの充実ー

埼玉県立狭山経済高等学校長 川窪 慶彦

② 北信越ブロック(新潟県)

「新潟県商業教育の現状と本校の取組」

ー高田商業高校 Rikka 20年の取組ー

新潟県立高田商業高等学校長 石積 希

③ 中国ブロック(鳥取県)

「鳥取県商業教育の現状と各校の取組」

鳥取県立鳥取商業高等学校長 高垣 知博

④ 四国ブロック(高知県)

「未来を切り拓く商業高校を目指して」

ー地域や世界とつながる学び場の創造ー

高知商業高等学校長 成瀬 孝治

(指導者研修会実践報告)

「地域資源の活用を促進する学校独自の

人材バンク(浜商応援団)の設立と活用事例」

鳥根県立浜田商業高等学校 石川 隼人

2 秋 季

(1) 全国役員会

日 程 令和6年10月3日(木)

会 場 岐阜：都ホテル 岐阜長良川

(2) 第153回総会・研究協議会

日 程 令和6年10月3日(木)～4日(金)

会 場 岐阜：都ホテル 岐阜長良川

(講演)

「起業家アナ直伝! 伝えるから伝わる話し方」

株式会社トークナビ 代表取締役

アナウンサー 樋田 かおり 氏

(シンポジウム)

「新しい時代を見据えた

魅力ある商業教育の推進を目指して」

ー1人1台端末を活用した多様な

連携活動の実践ー

(ブロック発表)

① 東北ブロック(青森県)

「青森県における商業教育の現状と本校の取組」

青森県立青森商業高等学校長 田中 正也

② 関東ブロック(東京都)

「都立商業高校における探究学習の取組」

ー渋谷を科学する渋谷学ー

東京都立第一商業高等学校長 平野 篤士

3 その他

(1) 連絡理事・検定員会委員長連絡協議会

日 程 令和6年11月9日(土)

会 場 東京：全商会館

II 研究・研修事業

1 第72回全国商業教育研究大会

日 程 令和6年8月7日(水)～8月9日(金)

会 場 石川：石川県文教会館・金沢商工会議所会館

大会テーマ「日本の未来を創る商業教育の取組」

(1) 全体会(発表4校) 8月7日(水)

全体会テーマ

「新学習指導要領に基づく魅力ある商業教育の実現に向けて」

(2) 分科会 8月8日(木)

① 第1分科会(発表4校)

マーケティング分野・マネジメント分野について

② 第2分科会(発表4校)

会計分野について

③ 第3分科会(発表4校)

ビジネス情報分野について

④ 第4分科会(発表4校)

総合的科目について(課題研究・総合実践)

- (3) 講演 8月9日(金)
「目の前の一人に寄り添う～笑顔で気働き～」
加賀屋グループ 女将 長谷川 明子 氏
- 2 第16回全国商業教育指導者研修会
日程 令和6年7月31日(水)～8月2日(金)
会場 東京：全商会館
研修内容 ワークショップ・文科省講話・教育関係法規等
- 3 令和6年度海外研修事業
令和6年12月16日(月)～12月21日(土)
※12月16日(月) 事前研修(成田近郊宿泊ホテル)
10月12日(土), 11月16日(土), 2月15日(土)
事前事後研修(オンライン)
研修国 マレーシア
生徒16名+教諭3名+団長(理事長)
- 4 商業教育振興・懸賞論文募集
募集期間 令和6年4月1日(月)～11月29日(金)
応募作品 3編(佳作3編)

Ⅲ 競技大会事業

- 1 第36回全国高等学校情報処理競技大会
日程 令和6年7月14日(日)
会場 千葉：千葉商科大学
- 2 第40回全国高等学校簿記競技大会
日程 令和6年7月24日(水)
会場 千葉：千葉商科大学
- 3 第71回全国高等学校ビジネス計算競技大会
日程 令和6年7月30日(火)
会場 神奈川：横浜武道館
- 4 第71回全国高等学校ワープロ競技大会
日程 令和6年8月1日(木)
会場 東京：東京都立産業貿易センター台東館
台東区民会館
- 5 第45回全国商業高等学校プログラミングコンテスト
日程 令和6年8月24日(土)
会場 東京：全商会館
- 6 第41回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト
日程 令和6年9月15日(日)
会場 東京：全商会館
- 7 第32回全国高等学校生徒商業研究発表大会
日程 令和6年11月20日(水)～21日(木)
会場 北海道：コーチャンフォー釧路文化ホール

Ⅳ 表彰

- 1 三種目以上1級合格者表彰
三種目 4,662名 七種目 379名
四種目 2,878名 八種目 173名
五種目 1,705名 九種目 77名
六種目 824名 計 10,698名
- 2 卒業生成績優秀者 1,105名

- 3 学校表彰 5校

北海道函館商業高等学校
栃木県立宇都宮商業高等学校
石川県立小松商業高等学校
高知市立高知商業高等学校
佐賀県立佐賀商業高等学校

Ⅴ 刊行物等

- 1 「高校の商業教育」 令和6年5月発行
2 「生徒採用のお願い」 " 5月発行
3 「大学入学者選抜に関する要望書」 " 7月発行
4 「会員名簿」 " 7月発行
5 「全商会報」第142号 " 9月発行
6 「商業教育研究」第76号 " 11月発行

Ⅵ 各種委員会活動

- 1 就職対策委員会
(1) 第1回就職問題連絡協議会
(参集とオンライン併用のハイブリット形式)
日程 令和6年6月14日(金)
会場 東京：全商会館
(2) 第2回就職問題連絡協議会
(参集とオンライン併用のハイブリット形式)
日程 令和6年11月8日(金)
会場 東京：全商会館
- 2 大学入試対策委員会
(1) 全商協会大学特別推薦
応募者数合計 371名
決定者数合計 258名
- 3 全国産フェア催し物検討委員会
(参集とオンライン併用のハイブリット形式)
日程 令和6年7月7日(日)
令和6年9月1日(日)
令和6年10月20日(日)
会場 東京：全商会館

令和6年度 全国商業高等学校長協会会計収支計算書(案)

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

収入の部

単位：円

科 目	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	増 減	令和5年度 決算額	備 考
会 費 収 入	12,543,000	12,804,010	△ 261,010	14,696,985	<正会員会費内訳>
正 会 員 会 費 収 入	12,003,000	12,304,010	△ 301,010	12,432,985	全日制
賛 助 会 員 会 費 収 入	540,000	500,000	40,000	540,000	基本額 3,000 円 × 843 校 = 2,529,000 円
総 会 会 費 収 入	0	0	0	1,724,000	生徒1人当たり 35 円 × 209,074 名 = 7,317,590 円
校長会会計からの繰入額	0	0	0	0	定時制・通信制
競技大会収入	658,600	652,600	6,000	647,200	基本額 1,500 円 × 102 校 = 153,000 円
ビジネス計算競技大会参加料収入	225,600	222,400	3,200	220,800	生徒1人当たり 20 円 × 13,721 名 = 274,420 円
簿記競技大会参加料収入	112,800	111,200	1,600	112,000	5,000円該当校 5,000 円 × 406 校 = 2,030,000 円
ワープロ競技大会参加料収入	112,800	112,400	400	112,800	合計 12,304,010 円
情報処理競技大会参加料収入	112,800	111,200	1,600	111,200	
スピーチコンテスト参加料収入	37,600	37,600	0	37,600	
生徒商業研究大会参加料収入	57,000	57,800	△ 800	52,800	
雑 収 入	400	7,837	△ 7,437	68	
受 取 利 息	100	4,837	△ 4,737	68	
雑 収 入	300	3,000	△ 2,700	0	
当 期 収 入 合 計	13,202,000	13,464,447	△ 262,447	15,344,253	
前 期 繰 越 収 支 差 額	8,668,284	8,277,293	390,991	8,996,639	
収 入 合 計	21,870,284	21,741,740	128,544	24,340,892	

支出の部

科 目	令和6年度 予算額	令和6年度 決算額	増 減	令和5年度 決算額	備 考
事 業 費	8,725,000	7,749,861	975,139	10,717,660	
総会・研究協議会事業費	3,825,000	3,417,160	407,840	5,537,817	総会・研究協議会諸経費等
商業教育対策委員会	1,160,000	1,209,630	△ 49,630	1,785,120	委員会交通費、「本部提案」印刷代
調査・広報事業費	1,700,000	1,527,774	172,226	1,501,825	「高校の商業教育」「商業教育研究」印刷代、「高校の商業教育」発送代
就職対策委員会	692,000	784,897	△ 92,897	539,635	委員会・企業訪問交通費、「生徒採用のお願い」印刷・発送代他
大学入試対策委員会	583,000	321,155	261,845	742,363	委員会・大学陳情交通費、特別推薦関係発送代等
競技大会事業費	695,000	427,645	267,355	541,600	参加記念品作製代、校長会常務理事交通費
学校表彰事業費	70,000	61,600	8,400	69,300	記念品代
管 理 費	4,230,000	3,408,931	821,069	5,345,939	
旅 費 交 通 費	150,000	103,000	47,000	98,400	内部監査・顧問会交通費
通 信 運 搬 費	500,000	306,517	193,483	1,450,433	会員名簿発送代等
消 耗 品 費	50,000	8,182	41,818	79,226	消耗品購入代
印 刷 製 本 費	1,200,000	989,520	210,480	1,510,000	「会員名簿」「全商会報」印刷代
研究図書購入費	120,000	122,088	△ 2,088	118,200	冊子定期購読等
事務代行手数料	1,742,400	1,605,177	137,223	1,610,400	事務局手当
雑 費	450,000	269,620	180,380	448,260	産業教育振興中央会維持会員会費、退任役員記念品代等
支払手数料	17,600	4,827	12,773	31,020	振込手数料・残高証明書発行代
当 期 支 出 合 計	12,955,000	11,158,792	1,796,208	16,063,599	
当 期 収 支 差 額	247,000	2,305,655	△ 2,058,655	△ 719,346	
次 期 繰 越 収 支 差 額	8,915,284	10,582,948	△ 1,667,664	8,277,293	

令和7年4月26日

監査報告書

全国商業高等学校長協会
理事長 小川 孝 様

監 事 宮内 輝久

監 事 伊藤 広幸

監 事 平柳 忠信

私たち監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの事業年度の役員の職務の執行および計算書類を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、役員及び事務局長等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等について検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類を検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、規約に従い、状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 役員の職務の執行に関する不正行為または規約に違反する重大な事実
は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類について、適正に示しているものと認めます。

令和7年度 全国商業高等学校校長協会役員名簿(案)

[illegible]

[illegible]

令和7年度 全国商業高等学校長協会 会務分掌（案）

理 事 長	小 川 孝	（都・大田桜台）
副 理 事 長	鈴 木 栄 次	（県・千葉商）
副 理 事 長	堀 内 泉	（府・大阪ビジネスフロンティア）

○印は代表

総務部担当	○山 田 和 人	（都・芝 商 ）	新 井 秀 明	（県・深 谷 商 ）
経理部担当	○河 合 俊 直	（県・平塚農商）	大 山 仁 彦	（市・横 浜 商 ）
調査・広報部担当	○岡 野 敏 昌	（県・水 戸 商 ）	生 方 一 徳	（県・高 崎 商 ）
大学入試対策担当	○柳 田 昌 臣	（県・宇都宮商）	田 中 雅 明	（市・甲 府 商 ）
就職対策担当	○竹 越 利 之	（県・熊 谷 商 ）	智 片 将 也	（都・第 三 商 ）
各種大会等担当				
ビジネス計算	○石 原 和 也	（県・塩 山 ）	小 宮 啓 幸	（県・足利清風）
	猪 股 堅 弥	（市・仙 台 商 ）	山 岡 晶	（県・伊 野 商 ）
簿記・会計	○竹 越 利 之	（県・熊 谷 商 ）	星 幸 典	（都・江 東 商 ）
	森 豊 巳	（県・一 宮 商 ）	宇佐美 敬	（県・栃 木 商 ）
ビジネス文書	○渡 邊 聡	（県・土浦第三）	野 路 強	（都・第 五 商 ）
	小 川 浩 司	（県・愛 知 商 ）	古 閑 千 尋	（県・熊 本 商 ）
英 語	○岩 崎 豊	（都・葛 飾 商 ）	林 順 一	（県・伊 勢 崎 商 ）
	大 正 公丹子	（県・武生商工）	中 野 卓 哉	（県・神 戸 商 ）
情報処理	○田 中 雅 明	（市・甲 府 商 ）	川 窪 慶 彦	（県・狭山経済）
	藤 田 和 秀	（道・札幌東商）	二 木 信 輔	（県・岡山東商）
商業経済	○柳 田 昌 臣	（県・宇都宮商）	中 山 望	（県・浦 和 商 ）
	智 片 将 也	（都・第 三 商 ）	田 辺 宏 行	（県・銚 田 第二）
監 事	○宮 内 輝 久	（県・銚 子 商 ）	高田屋 馨	（市・秋 田 商 ）
	平 子 奈穂子	（市・名 古 屋 商 ）		
事 務 局	局長 関 野 泉		次長 西 木 成 男	

令和7年度 全国商業高等学校長協会 各種委員会名簿（案）

◎総務委員会

1.委員長	山田和人	都・芝	商
2.副委員長	鈴木栄次	県・千葉	商
3. "	堀内泉	府・大阪ビジネスフロンティア	
4.委員	関野泉	公財・全商協会	
5. "	岡野敏昌	県・水戸	商
6. "	柳田昌臣	県・宇都宮	商
7. "	生方一徳	県・高崎	商
8. "	新井秀明	県・深谷	商
9. "	田中雅明	市・甲府	商
10. "	河合俊直	県・平塚	農商
事務局担当	山崎宏	・今田和佳	

◎商業教育対策委員会

1.委員長	鈴木栄次	県・千葉	商
2.副委員長	岡野敏昌	県・水戸	商
3.委員	荒井智則	県・鬼怒	商
4. "	渡邊聡	県・土浦	第三
5. "	柳田昌臣	県・宇都宮	商
6. "	林順一	県・伊勢崎	商
7. "	中山望	県・浦和	商
8. "	竹越利之	県・熊谷	商
9. "	川窪慶彦	県・狭山	経済
10. "	野口剛志	県・大宮	商
11. "	森豊巳	県・一宮	商
12. "	田中雅明	市・甲府	商
13. "	山田和人	都・芝	商
14. "	智片将也	都・第三	商
15. "	星幸典	都・江東	商
16. "	鈴木佳子	県・小田原	東
事務局担当	塚原寛子	・宝福真紀子	

◎調査・広報委員会

1.委員長	岡野敏昌	県・水戸	商
2.副委員長	生方一徳	県・高崎	商
3.委員	石原和也	県・塩山	
4. "	大山仁彦	市・横浜	商
事務局担当	佐藤あけみ	・塚原寛子	

◎大学入試対策委員会

1.委員長	柳田昌臣	県・宇都宮	商
2.副委員長	田中雅明	市・甲府	商
3.委員	岡野敏昌	県・水戸	商
4. "	生方一徳	県・高崎	商
5. "	新井秀明	県・深谷	商
6. "	鈴木栄次	県・千葉	商
7. "	山田和人	都・芝	商
8. "	大山仁彦	市・横浜	商
事務局担当	園嶋智志生	・山崎義周	

◎就職対策委員会

1.委員長	竹越利之	県・熊谷	商
2.副委員長	智片将也	都・第三	商
3.委員	田辺宏行	県・鉾田	第二
4. "	宇佐美敬	県・栃木	商
5. "	林順一	県・伊勢崎	商
6. "	森豊巳	県・一宮	商
7. "	石原和也	県・塩山	
8. "	河合俊直	県・平塚	農商
事務局担当	大森志織	・佐藤あけみ	

◎学校表彰選考委員会

1.委員長	小川孝	都・大田	桜台
2.副委員長	鈴木栄次	県・千葉	商
3. "	堀内泉	府・大阪ビジネスフロンティア	
4.委員	山田和人	都・芝	商
5. "	河合俊直	県・平塚	農商
6. "	岡野敏昌	県・水戸	商
7. "	関野泉	事務局	長
事務局担当	園嶋智志生	・山崎義周	

令和7年度 全国商業高等学校長協会事業計画(案)

2025/5/9

月	日	行 事	月	日	行 事
4	上旬	商品開発調査(随時ホームページ掲載)	8	下旬	全国商業高等学校プログラミングコンテスト(全商会館)
	5(土)	第6回本部役員会・学校表彰選考委員会		29(金)	大学特別推薦Aグループ選考
	16(水)	卒業生進路調査締切	9	6(土)	第2回本部役員会
	26(土)	会計内部監査 第7回本部役員会		21(日)	第42回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト(全商会館)
5	中旬	「高校の商業教育」・「生徒採用のお願い」発行		下旬	「全商会報」第143号発行
	25(日)	全国役員会(全商会館)	10	26(金)	大学特別推薦Bグループ選考
	26(月)・27(火)	第154回 春季総会・研究協議会(東京・江東公会堂 ティアラこうとう)		2(木)	全国役員会(山口県・KAMEFUKU ON PLACE(かめ福オンプレイス))
6	上旬	「全商大学特別推薦要項」・「大学への要望書」発行		2(木)・3(金)	第155回秋季総会・研究協議会(山口県・KAMEFUKU ON PLACE(かめ福オンプレイス))
	中旬	令和7年度「会員名簿」発行	11	18(土)	顧問会
	13(金)	第1回就職問題連絡協議会(全商会館)		7(金)	高大接続連絡協議会
	28(土)	第1回本部役員会		8(土)	連絡理事連絡協議会(全商会館)
7	24(木)	第72回全国高等学校ビジネス計算競技大会(神奈川県・横浜武道館)	11	11(火)～12(水)	第33回全国高等学校生徒商業研究発表大会(東京・江戸川区総合文化センター大ホール)
	25(金)	第41回全国高等学校簿記競技大会(千葉県・千葉商科大学)		14(金)	第2回就職問題連絡協議会(全商会館)
	26(土)	第37回全国高等学校情報処理競技大会(千葉県・千葉商科大学)	12	上旬	「商業教育研究」第77号発行
	29(火)	第72回全国高等学校ワープロ競技大会(東京・東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館)	1	17(土)	第4回本部役員会
	30(水)～8月1日(金)	第17回全国商業教育指導者研修会(教員対象)(全商会館)	2	中旬	学校表彰推薦締切
8	5(火)～7(木)	第73回全国商業教育研究大会(東京・日本大学商学部)	3	14(土)	第5回本部役員会
	18(月)～23(土)	海外研修事業(マレーシア) ※18日は事前研修			

令和7年度 全国商業高等学校長協会会計収支予算書(案)

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

収入の部

単位：円

科目	令和7年度 予算額	令和6年度 予算額	増 減	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	令和4年度 決算額	備 考
会 費 収 入	13,577,500	12,543,000	1,034,500	12,804,010	14,696,985	15,030,875	正会員会費収入 内訳
正 会 員 会 費 収 入	13,077,500	12,003,000	1,074,500	12,304,010	12,432,985	12,791,485	全日制
賛 助 会 員 会 費 収 入	500,000	540,000	△ 40,000	500,000	540,000	550,000	基 本 額 3,750 円 × 820 校 = 3,075,000 円
総 会 会 費 収 入	0	0	0	0	1,724,000	1,578,500	生徒1人当たり 35 円 × 201,000 名 = 7,035,000 円
校 長 会 会 計 か ら の 繰 入 額	0	0	0	0	0	110,890	定時制・通信制
競技大会収入	659,600	658,600	1,000	652,600	647,200	650,200	基 本 額 1,875 円 × 100 校 = 187,500 円
ビジネス計算競技大会参加料収入	225,600	225,600	0	222,400	220,800	221,000	生徒1人当たり 20 円 × 14,000 名 = 280,000 円
簿記競技大会参加料収入	112,800	112,800	0	111,200	112,000	112,000	5,250円該当校 6,250 円 × 400 校 = 2,500,000 円
ワープロ競技大会参加料収入	112,800	112,800	0	112,400	112,800	112,800	合計 13,077,500 円
情報処理競技大会参加料収入	112,800	112,800	0	111,200	111,200	111,200	
スピーチコンテスト参加料収入	37,600	37,600	0	37,600	37,600	37,200	
生徒商業研究大会参加料収入	58,000	57,000	1,000	57,800	52,800	56,000	
雑 収 入	5,000	400	4,600	7,837	68	70,483	
受 取 利 息	5,000	100	4,900	4,837	68	83	
雑 収 入	0	300	△ 300	3,000	0	70,400	
当 期 収 入 合 計	14,242,100	13,202,000	1,040,100	13,464,447	15,344,253	15,751,558	
前 期 繰 越 収 支 差 額	10,793,462	8,668,284	2,125,178	8,277,293	8,996,639	9,845,680	
収 入 合 計	25,035,562	21,870,284	3,165,278	21,741,740	24,340,892	25,597,238	

支出の部

科目	令和7年度 予算額	令和6年度 予算額	増 減	令和6年度 決算額	令和5年度 決算額	令和4年度 決算額	備 考
事 業 費	9,150,000	8,725,000	425,000	7,749,861	10,717,660	10,804,921	
総会・研究協議会事業費	3,670,000	3,825,000	△ 155,000	3,417,160	5,537,817	5,594,865	総会・研究協議会諸経費
商業教育対策委員会	1,700,000	1,160,000	540,000	1,209,630	1,785,120	1,175,820	委員会交通費、春季・秋季総会用「本部提案」印刷代
調査・広報事業費	1,630,000	1,700,000	△ 70,000	1,527,774	1,501,825	1,931,192	「高校の商業教育」印刷・発送代、「商業教育研究」印刷代
就職対策委員会	700,000	692,000	8,000	784,897	539,635	653,132	就職問題連絡協議会諸経費、「生徒採用のお願い」印刷代等
大学入試対策委員会	850,000	583,000	267,000	321,155	742,363	237,300	委員会交通費、特別推薦結果免费送用レターバック購入代等 高大接続連絡協議会交通費
競技大会事業費	520,000	695,000	△ 175,000	427,645	541,600	1,154,862	校長会常務理事交通費、参加記念品代
学校表彰事業費	80,000	70,000	10,000	61,600	69,300	57,750	学校表彰記念品代
管理費	3,650,000	4,230,000	△ 580,000	3,408,931	5,345,939	5,795,678	
旅 費 交 通 費	120,000	150,000	△ 30,000	103,000	98,400	98,500	内部監査・顧問会交通費
通 信 運 搬 費	400,000	500,000	△ 100,000	306,517	1,450,433	1,798,911	挨拶郵便代、「会員名簿」発送代等
消 耗 品 費	20,000	50,000	△ 30,000	8,182	79,226	73,700	
印 刷 製 本 費	1,060,000	1,200,000	△ 140,000	989,520	1,510,000	1,400,000	「会員名簿」、「全商会報」印刷代(校長会負担分)
負 担 金	0	0	0	0	0	100,000	
研 究 図 書 購 入 費	127,000	120,000	7,000	122,088	118,200	118,200	冊子定期購読料等
事務代行手数料	1,584,000	1,742,400	△ 158,400	1,605,177	1,610,400	1,742,400	事務局手当
雑 費	330,000	450,000	△ 120,000	269,620	448,260	463,967	退任役員記念品購入代、 産業教育振興中央会維持会会員会費等
支 払 手 数 料	9,000	17,600	△ 8,600	4,827	31,020	0	振込手数料他
当 期 支 出 合 計	12,800,000	12,955,000	△ 155,000	11,158,792	16,063,599	16,600,599	
当 期 収 支 差 額	1,442,100	247,000	1,195,100	2,305,655	△ 719,346	△ 849,041	
次 期 繰 越 収 支 差 額	12,235,562	8,915,284	3,320,278	10,582,948	8,277,293	8,996,639	

令和8年度全国商業高等学校英語スピーチコンテスト実施日の変更について（案）

英語スピーチコンテストの日程について、令和4年度以降、「9月第3日曜日」の開催と定められているが、下記の理由から令和8年度の日程を「9月第2日曜日（9月13日）」へ変更することを提案いたします。

変更理由

令和8年9月の第3日曜日（9月20日）は5連休に当たり、全国的に交通費や宿泊代の高騰が予想されるため。

〈従来での日程〉

令和8年9月

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	第76回英語検定
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	第43回スピーチコンテスト
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	第75回情報処理検定
28	月	
29	火	
30	水	

〈変更後〉

令和8年9月

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	第76回英語検定
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	第43回スピーチコンテスト
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	第75回情報処理検定
28	月	
29	火	
30	水	

年度別各種行事開催地一覧(案)

	秋季総会	商研大会	生徒商研	競技大会				
				ビジネス計算	簿記	ワープロ	情報処理	英語
平成23年度 (2011年)	北信越 富山	京神 東京	中国 広島	東京 荒川商	東京 明治大学	東京 高千穂大学	千葉 千葉商科大学	東京 全商会館
平成24年度 (2012年)	東北 岩手	九州 長崎	四国 徳島	東京 大田桜台	千葉 明海大学	東京 高千穂大学	千葉 千葉商科大学	東京 全商会館
平成25年度 (2013年)	九州 熊本	京神 東京	関東 千葉	東京 赤羽商	東京 東洋大学	東京 高千穂大学	千葉 明海大学	東京 全商会館
平成26年度 (2014年)	東海 静岡	北信越 長野	北海道 旭川	東京 千早	東京 法政大学	東京 高千穂大学	千葉 明海大学	東京 全商会館
平成27年度 (2015年)	近畿 兵庫	京神 東京	東北 青森	東京 第三商	東京 法政大学	東京 第三商	千葉 明海大学	東京 全商会館
平成28年度 (2016年)	関東 千葉	中国 島根	九州 宮崎	東京 東京武道館	東京 法政大学	東京 高千穂大学	千葉 明海大学	東京 全商会館
平成29年度 (2017年)	中国 鳥取	京神 東京	北信越 長野	東京 東京武道館	東京 富士大学	東京 高千穂大学	千葉 明海大学	東京 全商会館
平成30年度 (2018年)	四国 愛媛	近畿 大阪	東海 静岡	東京 東京武道館	東京 富士大学	東京 高千穂大学	千葉 明海大学	東京 全商会館
令和元年度 (2019年)	北海道 函館	九州 福岡	関東 埼玉	東北 宮城	近畿 兵庫	東海 愛知	中国 広島	東京 全商会館
令和2年 (2020年)	北信越 福井 (書面開催)	九州 沖縄 (書面開催)	京神 東京 (中止)	東北 福島 (中止)	近畿 大阪 (中止)	東海 愛知 (中止)	中国 広島 (中止)	東京 全商会館 (中止)
令和3年 (2021年)	関東 茨城 (Web開催)	九州 沖縄 (Web開催)	京神 東京 (Web開催)	東北 福島 (各地開催)	近畿 大阪	東海 愛知	中国 広島	東京 全商会館
令和4年 (2022年)	東北 山形	東京 ホートホール・AP浜松町	中国 島根	東京 日本工学院	東京 日本工学院	東京 日本工学院	千葉 明海大学	東京 明治学院大学
令和5年 (2023年)	九州 鹿児島	東京 ホートホール・AP浜松町	東京 江戸川区総合文化センター	神奈川 横浜武道館	東京 日本大学法学部本館	東京 都立産業貿易センター・台東区民会館	東京 日本大学法学部本館	東京 国際連合大学
令和6年 (2024年)	東海 岐阜	北信越 石川	北海道 釧路	神奈川 横浜武道館	千葉 千葉商科大学	東京 都立産業貿易センター・台東区民会館	千葉 千葉商科大学	東京 全商会館
令和7年 (2025年)	中国 山口	東京 日本大学・商学部	東京 江戸川区総合文化センター	神奈川 横浜武道館	千葉 千葉商科大学	東京 都立産業貿易センター・台東区民会館	千葉 千葉商科大学	東京 全商会館
令和8年 (2026年)	近畿 奈良	四国 香川	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和9年 (2027年)	関東 埼玉	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和10年 (2028年)	北海道 札幌	東海 三重	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和11年 (2029年)	北信越	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和12年 (2030年)	四国	関東	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和13年 (2031年)	東北	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和14年 (2032年)	九州	近畿	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏
令和15年 (2033年)	東海	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏	首都圏

令和7年度 第73回 全国商業教育研究大会

- 1 主 催 全国商業高等学校長協会
公益財団法人全国商業高等学校協会
- 2 期 間 令和7年8月5日(火)、8月6日(水)、8月7日(木)の3日間
- 3 会 場 日本大学商学部
〒157-8570 東京都世田谷区砧5-2-1
■ 小田急線「祖師ヶ谷大蔵」駅下車 徒歩12分
■ 小田急線「成城学園前」駅から東急バスまたは小田急バスで5分
- 4 大会テーマ 「日本の未来を創る商業教育の取組」
- 5 研究テーマ及び発表者・発表テーマ(別表)
- 6 講 演 講師 日本情報通信株式会社 取締役社長 桜井 伝治 氏
演題 「未定」
- 7 講 評 文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
岩館 良伸 先生

8 日 程

	月 日	行 事	時 間
第1日	8月5日(火)	受 付 開 会 式 研究協議(全体会)	午前9時00分～午前10時00分 午前10時00分～午前10時40分 午前10時50分～午後4時10分
第2日	8月6日(水)	研究協議(分科会)	午前9時15分～午後4時00分
第3日	8月7日(木)	講 演 講 評 閉 会 式	午前9時30分～午前10時50分 午前11時00分～午前11時40分 午前11時50分～正午

※上記予定は、変更が生じる場合がございます。ご了承ください。

9 参加申し込み

- (1) 申込方法 「大会参加お申込み方法とお支払いについて」をご参照の上、申込専用サイトよりお申込みください。
※発表者もお申込みをお願いいたします。
申込先 URL (準備中)
- (2) 申込締切 令和7年6月27日(金)
- (3) 参加費 参加者1名につき5,500円(参加費3,000円・資料代2,500円)
※申込締切後のキャンセルはできません。
※発表者の参加費・資料代(5,500円)は不要です。
また、開催地参加者は資料代2,500円のみお支払いください。
- (4) 昼食代 1,080円(希望者のみ)
- (5) 問合せ先 株式会社JTB 教育第二事業部
商業教育研究大会係 担当: 小池・青木
〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 目黒1Kビル3階
TEL 03-6331-3183 FAX 03-6331-2014

10 その他

- (1) 会場での飲食(一部の場所を除く)は可能ですが、ごみは残さないようお願いいたします。
- (2) 宿泊先のご案内はございません。各自ご手配をお願いいたします。

令和7年度第73回全国商業教育研究大会発表者一覧

大会テーマ 「日本の未来を創る商業教育の取組」

期 間 令和7年8月5日(火)～8月7日(木)

研究テーマ	指定発表表	白 由 発 表	研究協議題
全 体 会	新学習指導要領に基づく魅力ある商業教育の実現に向けて	① 社会に関わった教育課程実現に向けた取組の第一歩 ～進路指導へどのように活用していくか～ 山形市立商業高等学校 西原 智之	③ 地域と連携した学習活動について 北海道釧路商業高等学校 北側 慎一郎
		② 研究活動のステップアップについて 三重県立四日市商業高等学校 立尾 力	④ 教育現場における生成AIの導入と活用 ～山形県立酒田光陵高等学校における生成AIの取組み～ 山形県立酒田光陵高等学校 情報科 湯澤
	第1分科会 マーケティング分野・マネジメント分野について	① 自ら学び、主体的・協働的に行動する人材の育成 ～地域産業を支える人々から学ぶ～ 愛媛県立新居浜商業高等学校 坂井 昭太	新学習指導要領に基づくこれからのマーケティング分野・マネジメント分野における実践的な取組
		② 「さかいで」愛ランドプロジェクト ～企業や地域と連携したキャリア教育の実施～ 香川県立坂出商業高等学校 多田 元弘	
分 科 会	第2分科会 会計分野について	③ スクール・ミッション「札幌の未来を啓く」 ～グラデュエーション・ポリシーの育成を目指した授業実践～ 市立札幌啓北商業高等学校 高山 純・三谷 俊介	③ JP コーチ&コンサルティング株式会社 キャリア教育事業『未来留学』での取組について 岐阜県立大垣商業高等学校 後藤 有喜
		① 未来を創る会計教育 ～広島県の現状と取組について～ 広島県立尾道商業高等学校 尾形 博明	
	第3分科会 ビジネス情報分野について	② 「実践的・体験的な学習活動」としての販売実習における会計分野の活用 山口県立岩国商業高等学校 秋嶋 直子	③ 生成AIとノーコードを活用した情報リテラシー教育の新たな実践 人類初のAI第1世代としての自覚を育む教育 鹿児島県立屋久島高等学校 西園 雄麻
		① 情報処理と情報Ⅰを融合させた思考力・探究力を育成する学びの提案 ～失敗だらけのほうがいい？～ 長野県商業教育研究会 ビジネス情報分野特別研究委員会 浅見 大輔・植原 崇裕・松澤 和也	
会	第4分科会 総合的科目について (課題研究・総合実践)	② 新しい情報伝達技術に対応した商業教育の実践 ～デザインを通して情報処理の学習～ 富山県立富山北部高等学校 室田 忠央・坂本 杏未香	新学習指導要領に基づくこれからのビジネス情報分野における実践的な取組
		① SPH 終了後の取組について ～成果と課題～ 滋賀県立八幡商業高等学校 田村 光宏	
		② 地域活性化プロジェクト ～地域貢献・地域創生～ 京都府立丹後緑風高等学校 斎藤 進吾	新学習指導要領に基づくこれからの総合的科目の分野における実践的な取組

※1 発表題名は変更になる場合もあります。

※2 各分科会発表終了後に研究協議を行います。

全国商業教育研究大会指定発表ブロック割当一覧

年 度	全 体 会		第1分科会		第2分科会	第3分科会	第4分科会
令和6年度	中国	九州	関東	東 海	近 畿	東 北	北信越
令和7年度	東北	東 海	四 国	北海道	中 国	北信越	近 畿
令和8年度	関 東	北海道	北信越	近 畿	九 州	中 国	四 国
令和9年度	近 畿	四 国	九 州	東 北	北海道	関 東	東 海
令和10年度	北信越	中 国	東 海	関 東	四 国	九 州	東 北
令和11年度	関 東	九州	北海道	中国	東北	東海	関東
令和12年度	東海	近畿	東北	九州	関東	四国	北海道
令和13年度	東北	四国	関東	東海	北信越	近畿	九州
令和14年度	北海道	関東	近畿	北信越	九州	東北	中国
令和15年度	北信越	中国	九州	四国	東海	関東	近畿

全体会は各ブロック1名、分科会は各ブロック2名の推薦をお願いします。

各分科会の分野は下記のとおりです。

第1:マーケティング分野・マネジメント分野、第2:会計分野、第3:ビジネス情報分野、第4:総合的科目(課題研究・総合実践)

令和7年7月1日

会 員 各 位

全国商業高等学校長協会
理 事 長 小 川 孝

全商秋季総会・研究協議会
山 口 県 実 行 委 員 会
委 員 長 久保田 力 哉

全国商業高等学校長協会秋季全国役員会、総会・研究協議会について（ご案内）

平素より、本協会の諸事業に格別のご支援、ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、商業教育の充実・発展を期し、当面する諸課題の解決に向け、令和7年度全国商業高等学校長協会秋季全国役員会、総会・研究協議会を下記のとおり開催いたします。

つきましては、公務繁多の折、誠に恐縮ですが、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

なお、全国役員会は令和7年度全国商業高等学校長協会役員、総会・研究協議会は全国商業高等学校長協会に加盟している高等学校長のみの参加となります。

記

- 1 主 催 全国商業高等学校長協会
- 2 主 管 山口県高等学校商業校長会・山口県高等学校商業教育協会
- 3 後 援（予定） 山口県教育委員会
- 4 期 日 令和7年10月2日（木）全国役員会・総会・研究協議会
3日（金）研究協議会
- 5 会 場 KAMEFUKU ON PLACE（かめ福オンプレイス）
〒753-0056 山口市湯田温泉 4-5-2
TEL 083-902-2966
- 6 開催地事務局 〒747-0802 山口県防府市中央町 3-1
TEL 0835-22-3790 FAX 0835-22-3791
山口県高等学校商業校長会事務局
全商秋季総会・研究協議会 山口県実行委員会事務局
（山口県立防府商工高等学校内）

7 日 程

月・日(曜日)	時間	内容	会場
10月2日(木)	8:50 ~ 9:30	受付	KAMEFUKU ON PLACE (かめ福オンプレイス) (役員会、総会、研究協議会：3F 長州)
	9:30 ~ 10:45	全国役員会	
	11:00 ~ 12:10	開会式	
	12:10 ~ 13:10	昼食・休憩	
	13:10 ~ 14:10	総会	
	14:20 ~ 17:20	研究協議会	
	18:20 ~ 20:20	教育懇談会	
10月3日(金)	8:20 ~ 9:00	受付	KAMEFUKU ON PLACE (かめ福オンプレイス) (講演・講評：3F 長州)
	9:00 ~ 10:30	講演	
		講師 株式会社 瀬祭 ^(社名変更予定)	
		桜井 博志 氏	
	10:45 ~ 11:20	講評	
	11:30 ~ 11:45	各種大会開催地代表挨拶	
10月3日(金)	11:45 ~ 12:00	閉会式	

8 参加費等

- (1) 総会・研究協議会参加費 5,500円
- (2) 第1日目の昼食代 1,500円
- (3) 第1日目の教育懇談会代 10,000円

9 参加お申込み・お問い合わせ・送金・取消しについて

(1) お申込み・お問い合わせ

令和7年8月29日(金)までに、申込専用 Web サイトよりお申し込みください。お問い合わせにつきましては下記にて対応いたします。

申込専用 Web システム 準備中

※本協会ホームページにリンクを掲載予定。

【申込に関するお問い合わせ先】

〒754-0043 山口県山口市小郡明治2-10-1 SMILE 新山口ビル5階

株式会社 JTB 山口支店 TEL: 083-976-2300

(平日 9:30~17:30) 土日祝休み

FAX: 083-976-2301 (担当: 田原 暢明)

(2) お支払い

- 申込 web システムよりご希望の方法によりお支払いください。
(クレジットカード・コンビニ支払い・銀行振込にて)
- お支払いはお申し込みから7日以内に行ってください。
- 請求書・領収書に関しましては web システムより発行可能です。

(3) 取消し

大会参加申込みの取消しについては、ご送金いただいた金額(振込手数料は除く)を総会・研究協議会終了後、指定の口座へ振り込みます。ただし、9月11日(木)以降の取消しについては、参加費(総会・研究協議会参加費、昼食代、教育懇談会代を含む)は払い戻しいたしません。

連絡先 山口県高等学校商業校長会事務局

〒747-0802 山口県防府市中央町3-1 (山口県立防府商工高等学校内)

TEL: 0835-22-3790 FAX: 0835-22-3791

Mail: iwaki.tooru.jo@m.ysn21.jp 担当: 事務局 教諭 岩城 徹

総会・研究協議会ブロック分担表(令和7年度～令和13年度)

議 長

	令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		令和12年度		令和13年度	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
	東京	山口	東京	奈良	東京	埼玉	東京	北海道	東京	北信越	東京	四国	東京	東北
北海道	○				○				○					○
東北			○					○				○		
関東		○ (関東)	○							○	○			
北信越					○					○				
東海		○						○						○
近畿				○			○						○	
中国						○			○		○			
四国	○					○						○		
九州				○			○						○	

ブロック発表・パネリスト

	令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		令和12年度		令和13年度	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
北海道		◎	○					○				◎	○	
東北		○			○	◎	○			◎	○			○
関東			○			○			○		○		○	
北信越	○			○			○		○			◎	○	
東海	○		○			◎	○			○	○			
近畿	○			○	○			◎	○			○		
中国		○		◎	○			○		○			○	◎
四国		◎	○			○	○			◎	○			○
九州	○			◎	○			◎	○			○		◎

〔注〕 ○ ブロック発表
◎ 秋季のシンポジウムにおけるパネリスト

1 公益財団法人 全国商業高等学校協会について

- (1) 令和 6 年度事業報告【資料 7 8 ページ～】
- (2) 令和 7 年度事業計画【資料 8 3 ページ】

2 検定試験について

(1) 検定業務

各種検定試験の信用を大きく損ねる事案が複数発生しております。必ず複数人で確認しながら業務を進めるようお願いします。

(2) 全商Webシステムの運用

全商Webシステムの運用等に関する情報を、全商協会ウェブページの新全商Webシステム情報サイトで随時提供しています。定期的にご確認をお願いします。

校長先生または校長代行者の方には、申し込みや合格者数の報告など、作業の節目に於いて承認をしていただくことになります。お手数をお掛けいたしますが、システムでの承認作業をお願いします。

(3) 受験申込手続き

受験料送金後は、級の追加、変更、取消などはできません。「申込内容確認用紙」を使用し、受験者本人に確認させるなど間違いがないよう注意してください。

なお、特別な事情が生じた場合は、試験場校委員長より至急全商協会事務局長または事務局次長へ電話連絡をしてください。

(4) 受験料【資料 8 4 ページ】

令和 7 年度実施の各種検定試験の受験料が改定されました。

(5) 公共交通機関の遅延による試験時間の取扱い（CBT方式以外）

公共交通機関の遅延により、検定試験（各級・各部門）の試験開始時間に間に合わない受験者がいる場合、試験場校の体制が整う等、試験場校委員長が責任を持って適正な試験の実施及び管理ができると判断した時は、開始時間を繰り下げて実施することができます。

個人単位での遅刻の取扱いについては、検定試験ごとに取り扱いが違うので、関係書類集をご参照願います。

なお、すべての検定試験において、試験開始後の途中退室は認めません。

(6) 源泉徴収票

検定試験の監督・採点手当、事務手当にかかる個人の源泉徴収票は、全商Webシステムから各自でダウンロードしてもらいます。

3 コンピュータを利用した検定試験（CBT）について

(1) 検定試験動作環境

動作環境は推奨動作環境をご確認ください。特に推奨環境のOSでは、令和 7 年 10 月 14 日（火）以降は Windows 11 としています。Windows 10 での実施を検討されている場合、CBT 体験版を使って事前に動作を確認し、その後に検定試験を行ってください。

(2) 試験場校が所有または保有する端末での実施が困難であるとき

試験の適正な実施に必要な情報セキュリティの確保や不正行為防止が十分図れるときは、その具体的な措置の方法を全商協会に申告し、それが承認されたときに申告した方法での実施を許可します。試験場校登録前に、全商協会の承認を得てください。

4 情報処理検定試験について

(1) 令和 8 年度実施

検定試験科目として、次のとおり計画しています。

検定試験科目	受験料	試験内容	試験期間・試験日
情報基礎	1,800 円 (消費税込)	C B T 方式 (50 分)	① 9 月～10 月 ② 1 月
情報処理	1,800 円 (消費税込)	C B T 方式 (30 分)	① 9 月～10 月 ② 1 月
		実技試験 (20 分)	① 令和 8 年 9 月 27 日 (日) ② 令和 9 年 1 月 31 日 (日)

※ 1 情報処理

C B T 方式と実技試験ともに 70 点以上の成績で合格とします。

※ 2 合格証書

1 科目合格で 3 級、2 科目合格で 2 級、3 科目以上合格で 1 級とします。ただし、1 級は「情報基礎」を含むものとします。

(2) パブリックコメントの募集

検定試験科目「情報基礎」「情報処理」の試験範囲およびサンプル問題を公開しています。



<https://zensho.or.jp/examination/information/>

検定試験科目の実施に関して、令和 7 年 7 月 31 日までパブリックコメントを募集しています。

(3) 令和 9 年度実施

検定試験科目「ソフトウェア活用」「プログラミング」の試験範囲およびサンプル問題は令和 8 年 3 月の全国情報処理研究協議会にて公表します。

(4) 移行計画 (新：新検定、現：現行検定)

令和 8 年度 新情報基礎、情報処理 / 現 2 級、1 級

令和 9 年度 新情報基礎、情報処理、ソフトウェア活用、プログラミング / 現 1 級

令和 10 年度 新情報基礎、情報処理、ソフトウェア活用、プログラミング、ネットワーク

5 令和 9 年度以降英語検定試験実施日の変更について【資料 8 5 ページ】

9 月第 2 週日曜日に実施している英語検定試験を、令和 9 年度以降 7 月第 3 週日曜日に変更します。

6 商業教育講習会について【資料 8 6 ページ】

夏季休業中に、「会計に関する講義と実習」「情報スキルを伸ばす講義と実習」「Web システム開発入門 (ネットワーク活用)」「Web アプリ制作入門」「ビジネス経済に関する講義」を計画しています。案内通知を 5 月に発送し、6 月中旬を申し込み締め切りとします。多くの先生方の参加をお願いします。

7 加入保険について【資料 8 7 ページ～】

全商協会が実施する全ての事業の傷害保険、全商協会の事業実施に伴う施設・事業活動賠償責任保険、動産総合保険、サイバー保険に加入しています。検定試験、全国競技大会等で本人、対人、対物事故により発生する損害を補償する保険ですので、事故等があった場合は全商協会にご連絡ください。

8 会員名簿について

全商 Web システムから会員校情報の検索又は会員校情報のダウンロードができます。会員名簿は 6 月に発刊します。

9 全商会館の閉庁

令和 7 年 8 月 12 日 (火) ～14 日 (木) に全商会館を閉庁します。ご不便をお掛けします。ご協力をお願いします。

令和6年度 公益財団法人全国商業高等学校協会 事業報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

理事会・評議員会

1 理事会

第8回	令和6年4月6日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第9回	令和6年4月27日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第1回	令和6年5月19日(日)	東京；全商会館（オンライン併用）
第2回	令和6年6月29日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第3回	令和6年9月7日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第4回	令和6年11月9日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第5回	令和7年1月11日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）
第6回	令和7年3月15日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）

2 評議員会 東京；全商会館

定 時	令和6年5月19日(日)	東京；全商会館（オンライン併用）
臨 時	令和6年10月19日(土)	東京；全商会館（オンライン併用）

I 商業教育に関する調査・研究事業

- 1 第72回全国商業教育研究大会 石川；石川県文教会館・金沢商工会議所会館
令和6年8月7日(水)～9日(金)
- 2 検定委員会委員長連絡協議会 東京；全商会館（オンライン併用）
令和6年11月9日(土)
- 3 研究協議会

ア 全国ビジネス計算教育研究協議会	オンライン開催	令和7年2月8日(土)
イ 全国ビジネス文書教育研究協議会	オンライン開催	令和7年2月8日(土)
ウ 全国商業経済教育研究協議会	オンライン開催	令和7年3月8日(土)
エ 全国情報処理教育研究協議会	オンライン開催	令和7年3月8日(土)
オ 全国英語教育研究協議会	オンライン開催	令和7年3月9日(日)
カ 全国簿記教育研究協議会	オンライン開催	令和7年3月9日(日)
- 4 卒業生進路調査 全商会報第142号掲載(令和6年9月発行)
- 5 商業関係高等学校における自校商品開発調査 13校13商品ホームページ掲載
- 6 各種刊行物

ア 全商教育ニュース	令和6年5月発行
イ 商業教育研究 第76号	令和6年11月発行

II 教員の資質向上に関する事業

1 商業教育講習会

- | | |
|--------------------------------------|-----|
| ア Web アプリ制作入門 Web 開催 | |
| 令和6年7月26日(金) | 31名 |
| イ ビジネス経済に関する講義 東京；全商会館 | |
| 令和6年7月29日(月)～30日(火) | 42名 |
| ウ 会計に関する講義と実習 Web 開催 | |
| 令和6年8月5日(月)～7日(水) | 29名 |
| エ 情報スキルを伸ばす講義と実習 大阪；大阪ビジネスフロンティア高等学校 | |
| 令和6年8月5日(月)～7日(水) | 19名 |

- オ Web システム開発入門(ネットワーク活用) 東京；全商会館
令和6年8月6日(火)～8日(木) 20名
- 2 全国商業教育指導者研修会 東京；全商会館
令和6年7月31日(水)～8月2日(金) 46名
- 3 令和6年度海外研修事業
令和6年12月16日(月)～12月21日(土)
※12月16日(月) 前日研修(成田近郊宿泊ホテル)
10月12日(土), 11月16日(土), 事前研修(オンライン)
2月15日(土) 事後研修(オンライン)
生徒16名+教諭3名+団長(理事長)
研修国；マレーシア
- 4 商業教育振興事業懸賞論文募集(隔年実施)
募集期間 令和6年4月1日(月)～11月29日(金)
応募作品 3編(佳作3編)

Ⅲ 生徒奨励に関する事業

- 1 各種競技大会
- ア 第36回全国高等学校情報処理競技大会 千葉；千葉商科大学
令和6年7月14日(日)
参加校数 119校(団体 47校 個人 72校)
参加人数 231名(団体 141名 個人 90名)
- イ 第40回全国高等学校簿記競技大会 千葉；千葉商科大学
令和6年7月24日(水)
参加校数 117校(団体 47校 個人 70校)
参加人数 231名(団体 141名 個人 90名)
- ウ 第71回全国高等学校ビジネス計算競技大会 神奈川県；横浜武道館
令和6年7月30日(火)
参加校数 225校(団体 94校 個人 131校)
参加人数 544名(団体 282名 個人 180名)
- エ 第71回全国高等学校ワープロ競技大会
東京；東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館
令和6年8月1日(木)
参加校数 123校(団体 47校 個人 76校)
参加人数 234名(団体 141名 個人 93名)
- オ 第45回全国商業高等学校プログラミングコンテスト 東京；全商会館
令和6年8月24日(土)
参加校数 5校 作品数 7作品
- カ 第41回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト 東京；全商会館
令和6年9月15日(日)
参加人数 レシテーションの部；47名 スピーチの部；47名
- キ 第32回全国高等学校生徒商業研究発表大会
北海道；コーチャンフォー釧路文化ホール
令和6年11月20日(水)～21日(木)
参加校数 21校 参加人数 184名
- ク 総合優勝表彰
総合優勝 愛知県 準優勝 岐阜県 第三位 広島県 福岡県

2 表彰事業

ア 三種目以上1級合格者表彰

三種目	受賞者	4,662名
四種目	〃	2,878名
五種目	〃	1,705名
六種目	〃	824名
七種目	〃	379名
八種目	〃	173名
九種目	〃	77名
合 計		10,698名

イ 卒業生成績優秀者表彰 受賞者 1,105名

ウ 各種検定試験第1級満点合格表彰

ビジネス計算実務検定試験第1級満点賞	受賞者	71名
簿記実務検定試験第1級満点賞	〃	49名
ビジネス文書実務検定試験第1級満点賞	〃	6名
英語検定試験第1級満点賞	〃	3名
情報処理検定試験第1級満点賞	〃	137名
商業経済検定試験第1級満点賞	〃	6名
財務諸表分析検定試験満点賞	〃	2名
財務会計検定試験満点賞	〃	0名
管理会計検定試験満点賞	〃	16名
合 計		290名

エ 全科目合格者表彰

- ・商業経済検定試験 受賞者 506名
ビジネス基礎、マーケティング、経済活動と法またはビジネス法規、
ビジネス経済A、ビジネス経済Bまたはビジネス・マネジメントの5科目に
合格した者を表彰する。
- ・財務諸表分析、財務会計、管理会計検定試験 受賞者 290名
財務諸表分析、財務会計、管理会計すべての検定に合格した者を表彰する。

3 奨学事業

- ア 大学生奨学金（貸与型） 新規・継続奨学生 11名
- イ 高校生奨学金（給付型） 奨学生 218名

4 令和6年能登半島地震被災受験者に対する受験料免除事業

延べ人数 200名
免除金総額 274,800円

5 令和6年度海外研修事業

IV 商業に関する各種の検定事業

- 1 ビジネス計算実務検定試験 文部科学省後援
第148回検定（令和6年6月16日）
第149回検定（令和6年11月10日） 受験申込者数 215,665名
- 2 簿記実務検定試験 文部科学省後援
第98回検定（令和6年6月23日）
第99回検定（令和7年1月26日） 受験申込者数 169,785名
- 3 ビジネス文書実務検定試験 文部科学省後援
第72回検定（令和6年6月30日）
第73回検定（令和6年11月24日） 受験申込者数 282,529名
- 4 英語検定試験 文部科学省後援
第72回検定（令和6年9月8日）

	第 73 回検定（令和 6 年 12 月 15 日）	受験申込者数	89,586 名
5	情報処理検定試験 文部科学省後援		
	第 71 回検定（令和 6 年 9 月 22 日）		
	第 72 回検定（令和 7 年 1 月 19 日）	受験申込者数	194,189 名
6	商業経済検定試験 文部科学省後援		
	第 39 回検定（令和 7 年 2 月 2 日）	受験申込者数	95,222 名
7	財務諸表分析・財務会計・管理会計検定試験 文部科学省後援		
	第 16 回検定（令和 6 年 12 月 8 日）	受験申込者数	9,402 名
8	ビジネスコミュニケーション検定試験 文部科学省後援		
	第 14 回検定（令和 6 年 12 月 15 日）	受験申込者数	11,483 名
	合 計		1,067,861 名

V 商業教育の振興に関する助成事業

各都道府県商業教育研究会等助成事業（対象 47 都道府県）

北海道高等学校長協会商業部会	青森県高等学校商業教育研究会
岩手県高等学校商業教育協会	宮城県高等学校商業教育研究会
秋田県高等学校商業教育研究会	山形県商業教育研究会
福島県高等学校商業教育協会	茨城県高等学校教育研究会商業部
栃木県商業教育研究会	群馬県商業教育研究会
埼玉県商業教育研究会	千葉県商業教育研究会
山梨県高等学校商業教育研究会	東京都商業教育研究会
神奈川県商業教育研究会	新潟県高等学校商業教育研究会
富山県高等学校商業教育研究会	石川県高等学校商業教育研究会
福井県高等学校教育研究会商業部会	長野県商業教育研究会
静岡県商業教育研究会	愛知県商業教育振興会
岐阜県商業教育研究会	三重県高等学校商業教育研究会
滋賀県高等学校商業教育研究会	京都府高等学校商業教育協会
大阪府高等学校商業教育協会	兵庫県高等学校商業教育協会
奈良県商業教育研究会	NPO 法人和歌山県商業教育研究会
鳥取県商業教育研究会	島根県商業教育研究会
岡山県高等学校商業教育協会	広島県商業高等学校協会商業部会
山口県高等学校商業教育協会	香川県高等学校教育研究会商業部会
徳島県商業教育協会	愛媛県商業教育研究会
高知県産業教育研究会商業部会	福岡県高等学校商業教育研究部会
佐賀県高等学校教育研究会商業部会	長崎県商業教育研究会
熊本県商業教育研究会	大分県高等学校教育研究会商業部会
宮崎県商業教育研究会	鹿児島県高等学校商業教育協会
沖縄県商業教育研究会	

VI その他の事業

- 「高校の商業教育」発行
 発送先 47 都道府県 発行部数 167,100 部
- 「全商会報」第 141 号発行
 発送先 47 都道府県 発行部数 1,300 部
- 商業教育 140 周年記念事業
 ア 記念式典
 日 時 令和 6 年 5 月 20 日（月）

式 場 東京都・一橋大学一橋講堂

イ 記念講演 講師

東京商工会議所 副会頭

株式会社 JTB 相談役 田川 博己 氏

ウ 生徒商業研究発表

山梨県立青洲高等学校

エ 商業教育 140 周年記念誌発行

発行日；令和 6 年 10 月 1 日 発行部数 2,400 部

オ 記念座談会

開催日；令和 5 年 11 月 25 日（土）

参加者；全商役員 5 名、ブロック代表 7 名、事務局長、事務局次長

カ 商業教育功労者表彰 552 名

キ PR 動画 商業教育 PR 動画、商業教育 PR 動画（中学生版）

ク その他

令和 6 年度に実施する各種事業や発刊物に「商業教育 140 周年記念」の冠を付ける。

4 全国産フェア催し物検討委員会

（参集とオンライン併用のハイブリット形式）

日 程 令和 6 年 7 月 7 日（日）

令和 6 年 9 月 1 日（日）

令和 6 年 10 月 20 日（日）

会 場 東京：全商会館

事業報告の附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

令和7年度 公益財団法人全国商業高等学校協会事業計画

2025/4/15

月	日	行	事	月	日	行	事
4	上旬	商品開発調査(随時ホームページ掲載)		9	上旬	大学生奨学事業奨学金第1回交付	
	5(土)	第7回理事会・助成事業審査委員会・実務検定連絡協議会			6(土)	第3回理事会	
	7(月)	令和7年度助成事業決定通知			7(日)	第74回英語検定試験	
	11(金)	第1次助成金交付			下旬	「全商会報」第143号発行	
	11(金)14(月)	会計外部監査			21(日)	第42回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト(全商会館)	
	15(火)	高校生奨学事業願書受付締切		28(日)	第73回情報処理検定試験		
	16(水)	卒業生進路調査締切		10	18(土)	臨時評議員会	
	20(日)	大学生奨学事業願書受付締切			8(土)	第4回理事会・検定委員会委員長連絡協議会	
	26(土)	第8回理事会・会計内部監査			9(日)	第151回ビジネス計算実務検定試験	
30(水)	高校生奨学事業推薦締切		11(火)～12(水)		第33回全国高等学校生徒商業研究発表大会(東京・江戸川区総合文化センター大ホール)		
5	中旬	「高校の商業教育」発行 「令和7年度全商教育ニュース」発行		23(日)	第75回ビジネス文書実務検定試験		
	25(日)	奨学事業選考委員会	12	上旬	「商業教育研究」第77号発行		
	〃	定時評議員会(全商会館)		14(日)	第17回財務諸表分析検定試験		
	〃	第1回理事会		〃	第17回財務会計検定試験		
6	中旬	令和7年度「会員名簿」発行		〃	第17回管理会計検定試験		
	15(日)	第150回ビジネス計算実務検定試験	21(日)	第75回英語検定試験			
	下旬	高校生奨学事業奨学金給付	1	17(土)	第5回理事会		
	22(日)	第100回簿記実務検定試験		18(日)	第74回情報処理検定試験		
	28(土)	第2回理事会		25(日)	第101回簿記実務検定試験(3級は下段のCBTによる)		
	29(日)	第74回ビジネス文書実務検定試験	2	1(日)	第40回商業経済検定試験		
4(金)	第2次助成金交付	7(土)		全国ビジネス計算教育研究協議会(Web開催)			
24(木)	第72回全国高等学校ビジネス計算競技大会(神奈川県・横浜武道館)	〃		全国ビジネス文書教育研究協議会(Web開催)			
25(金)	第41回全国高等学校簿記競技大会(千葉県・千葉商科大学)	中旬		卒業生成績優秀者表彰締切			
7	26(土)	第37回全国高等学校情報処理競技大会(千葉県・千葉商科大学)		〃	三種目以上1級合格者表彰締切		
	28(月)～29(火)	商業教育講習会(ビジネス経済に関する講義)(全商会館)		28(土)	令和8年度助成事業申請締切		
	29(火)	第72回全国高等学校ワープロ競技大会(東京・東京都立産業貿易センター台東館・台東区民会館)	3	上旬	大学生奨学事業奨学金第2回交付		
	30(水)～8月1日(金)	第17回全国商業教育指導者研修会(全商会館)(教員対象)		7(土)	全国英語教育研究協議会(Web開催)		
	8	4(月)～6(水)		商業教育講習会(会計に関する講義と実習)(Web)	〃	全国簿記教育研究協議会(Web開催)	
4(月)～6(水)		商業教育講習会(情報スキルを伸ばす講義と実習)(大阪ビジネスフロンティア高等学校)		8(日)	全国商業経済教育研究協議会(Web開催)		
5(火)～7(木)		第73回全国商業教育研究大会(東京・日本大学商学部)		〃	全国情報処理教育研究協議会(Web開催)		
6(水)～8(金)		商業教育講習会(Webシステム開発入門)(全商会館)		14(土)	第6回理事会		
8(金)		商業教育講習会(Webアプリ制作入門)(Web)	下旬	検定試験関係書類集・ポスター発行			
18(月)～23(土)		海外研修事業(マレーシア) ※18日は事前研修	31(火)	令和7年度助成事業報告締切			
下旬	全国商業高等学校プログラミングコンテスト	C B Tによる検定試験日 (下記の期間内で試験場校が定める最大16日間)					
			6月7日(土)～7月27日(日)		ビジネスコミュニケーション検定試験		
			11月1日(土)～12月21日(日)				
			1月5日(月)～2月1日(日)		第101回簿記実務検定試験 3 級		

令和7年度 各種検定試験受験料一覧

公益財団法人 全国商業高等学校協会
単位:円 受験料は消費税込

検定試験名	1 級	2 級	3 級	備 考
ビジネス計算実検定試験	普通 1,300	普通 1,300	普通 1,300	2部門 (普通計算・ビジネス計算) 合格で級合格
	ビジ 1,300	ビジ 1,300	ビジ 1,300	
簿記実務検定試験	会計 1,600	1,600	1,600	1級は、2部門 (会計・原計) 合格で級合格
	原計 1,600			
ビジネス文書実検定試験	ビジ 1,500	ビジ 1,400	ビジ 1,200	2部門 (ビジネス文書・速度) 合格で級合格
	速度 1,100	速度 1,100	速度 1,100	
英語検定試験	1,600	1,600	1,500	
情報処理検定試験	ビ情 2,100	ビ情 1,800	1,600	
	プロ 2,100	プロ 1,800		
商業経済検定試験		1,600	1,600	2級の科目2科目以上合格で1級
財務諸表分析・財務会計・管理会計検定試験			2,100	
ビジネスコミュニケーション検定試験			1,600	

※第3回理事会(令和6年9月7日(土)実施)議決

令和9年度以降英語検定試験実施日の変更について

- 1 提案経緯 全国商業高等学校長協会大学入試対策委員会では、連絡理事連絡協議会及び検定委員会委員長会議での各都道府県から要望を受け、全商協会大学特別推薦の活用及び推薦枠に対する充足度を高め、会員生徒の進路選択をさらに広げるため、大学特別推薦手続きのスケジュールについて検討を重ねてきた。その中で、「本協会主催英語検定試験の実施時期について、9月実施から7月実施への変更が可能か」の議論がなされ、このことについて、公益財団法人全国商業高等学校協会へ検討の要請がなされた。

これを受け、公益財団法人全国商業高等学校協会では、課題検討委員会で検討を進め、各都道府県検定委員会委員長へのアンケート（アンケート実施概要参照）及び英語研究部への実施日変更の可否調査を実施し、協議の結果、以下のとおり実施日を変更することを理事会に提案し、理事会で決議された。

- 2 実施日 7月第3週日曜日とする。（変更前9月第2週日曜日）
- 3 開始年度 令和9年度から施行する。

<アンケート実施概要>

- ①対象 47 都道府県連絡理事
- ②方法 Google フォームによるインターネット調査
- ③期間 令和6年11月16日（土）から12月13日（金）
- ④結果 回答数 37 道府県
「賛成」70%（26 票）、「反対」27%（10 票）、
「どちらともいえない」3%（1 票）

賛成の主な理由

大学推薦入試の受験機会が拡大できる。全商協会大学特別推薦Bグループの日程が緩和される。7月実施の結果が全商推薦に反映できる。9月実施では資格取得を前提とした全商推薦の大学応募に間に合わない。9月と12月の検定実施では12月の受験準備期間が短い。

反対の主な理由

推薦入試でも利用しているため現行の9月実施でいい。申込時期が4月～5月になることが予想され、事務作業の時間に余裕がない。7月に海外研修旅行を計画している学校もあり、英語に興味がある生徒が受験できない。

令和7年度 商業教育講習会

1 主 催 公益財団法人全国商業高等学校協会

2 開催一覧

No.	講習会名	内 容	日 程	開催形態	会 場	定 員	資料費
1	ビジネス経済に関する講義	各種講義 グループワーク等	7/28(月)～7/29(火) <2日間>	参集	東京・全商会館	40名	2,000円
2	会計に関する 講義と実習	財務諸表分析 財務会計 管理会計	8/4(月)～8/6(水) <3日間>	Web	Cisco Webex ミーティング	50名	3,000円
3	情報スキルを伸ばす 講義と実習	マクロ言語 (Excel VBA)	8/4(月)～8/6(水) <3日間>	参集	大阪・大阪府立 ビジネスフロンティア 高等学校	40名	3,000円
4	Web システム開発入門 (ネットワーク活用)	HTML, PHP, MySQL による Web システムの 開発	8/6(水)～8/8(木) <3日間>	参集	東京・全商会館	32名	3,000円
5	Web アプリ制作入門	アプリ開発環境 Monaca でのアプリ制作 (全国商 業高校Web アプリコンテス トのアプリ制作に向けて)	8/8(金) <1日間>	Web	Zoom ウェビナー	80名	1,000円

全商協会の事業実施に伴う施設・事業活動賠償責任保険

- 取扱保険会社 東京海上日動火災保険 株式会社
- 取扱代理店 株式会社 SHISEIKAN (シセイカン)
- 保険期間 令和7年5月13日 から 令和8年5月13日 まで 1年間
- 被保険者 (公財) 全国商業高等学校協会
- 保険料 全額を全商協会が負担
- 補償額 賠償責任保険金 1事故 10億円、期間中 無制限
事故対応費用 1事故・期間中 1,000万円
被害者治療費用 1事故・期間中 1,000万円 等

保険が支払われる場合の主な具体例

【施設・事業活動遂行事故】:

- ・試験会場への案内板が風で飛び、付近の自動車を傷つけ賠償を請求された。
- ・試験監督者が受験者の私物を壊してしまった。
- ・試験監督者が試験中に受験者にケガを負わせてしまった。
- ・監督者が会場の門を閉める際に受験者が挟まれ大ケガを負った。
- ・火の不始末で火災が起こり、試験中借りた校舎を焼損し多くの受験者が入院し主催者が訴えられた。
- ・エレベーターの誘導を誤り、受験者がエレベーターに挟まれケガをした。
- ・イベントで借りた備品を誤って壊してしまった。
- ・検定試験会場で検定委員が誤って会場ガラスを割ってしまい、賠償を請求された。
- ・イベントで着ぐるみ(ぜんしゅうくん)を着たスタッフ(全商関係スタッフ)が誤って付近を通行した幼児に大ケガをさせてしまった。

【事故対応費用】: 事故が発生した場合、責任の有無が十分に判明しない初期の段階に協会が事故現場の保存・写真撮影、担当者への派遣、被害者へのお見舞い等社会通念上妥当な費用を補償
: 訴訟になった場合、応訴のために必要となる内部的費用事故原因の調査費用(意見書・鑑定書作成依頼のための費用、残業代、交通費、宿泊料、臨時雇用費用等)等を補償
・受験者が大ケガを負ったことにつき訴訟が提起された。事故原因の調査や裁判所に提出する文書の作成に費用がかかった。

【人格権侵害】: 日本国内において保険期間中に行った不当な行為により、他人の自由、名誉またはプライバシーを侵害した場合の賠償責任保険を補償

- ・受験者が不正行為をしたと思ひ、監督者が公衆の面前で数十分間詰問した後、無実と判明した。
- ・試験会場に入ろうとした不審な男を発見し、身体を押さえつけ近くの派出所へ突き出したところ、学校の取引先の従業員であることが判明した

補償項目	保険金が支払われる場合	支払われる保険金	保険金が支払われない主な場合
施設賠償責任保険 賠償責任 保険金	施設の使用・管理および事業活動の遂行(検定試験、イベント等)によって生じた対人・対物事故について、被保険者(試験監督者等)が第三者(受験者等)に対して法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償します。	①賠償責任保険金 ②求償権保全・行使費用 ③損害防止軽減費用 ④緊急措置費用 ⑤争訟費用 ⑥協力費用	①被保険者・保険契約者の故意に起因する賠償責任 ②戦争、変乱、暴動、騒擾、労働争議に起因する賠償責任 ③地震、噴火、洪水、津波等の天災に起因する賠償責任 ④他人との特別の約定によって加重された賠償責任 ⑤排水・排気に起因する賠償責任 ⑥他人から借りたり預かったりしている物など、被保険者の管理下にある財物の滅失、毀損、汚損に起因する賠償責任 ⑦石綿(アスベスト)、石綿を含む製品、石綿の代替物質、石綿の代替物質を含む製品の発ガン性その他の有害な特性に起因する賠償責任 ⑧核燃料物質、核原料物質、核汚染物質等による原子力危険に起因する事故

全商協会が実施する全ての事業の傷害保険

- 取扱保険会社 東京海上日動火災 保険株式会社
- 取扱代理店 株式会社 SHISEIKAN (シセイカン)
- 保険期間 令和7年5月13日 から 令和8年5月13日 まで 1年間
- 被保険者 全商協会の役員、理事、検定試験委員および監督者、研究協議会の参加者、合同審査会参加者
- 保険料 全額を全商協会が負担
- 補償額
 - 死亡・後遺障害 1,000万円
 - 傷害治療費用 200万円
 - ベッド等使用料日額 2万円

※下記の事故は傷害保険で補償となります。

- ・ケガ ・骨折 ・火傷 ・有毒ガスまたは有毒物質による急性中毒
- ・細菌性食物中毒 (0-157、サルモネラ菌、ブドウ球菌、病原性大腸菌等による食中毒)
- ・熱射病

補償項目		保険金が支払われる場合	支払われる保険金	保険金が支払われない主な場合
死亡保険金	被保険者 (保険の対象となる方をさします。以下同様とします) が被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、事故の日からその日を含めて 180 日以内に死亡された場合。(事故により直ちに死亡された場合を含みます。)	被保険者 (保険の対象となる方をさします。以下同様とします) が被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、事故の日からその日を含めて 180 日以内に死亡された場合。(事故により直ちに死亡された場合を含みます。)	死亡・後遺障害保険の全額をお支払いします。 ※既に支払われた後遺障害保険金がある場合は、死亡・後遺障害保険金から既に支払われた金額を控除した残額が支払われます。	① 保険契約者 (企業)、被保険者や保険金受取人の故意によるケガ。 ② けんかや自殺・犯罪行為を行うことによるケガ。 ③ 無免許運転、酒酔運転、麻薬等の使用しての運転によるケガ。 ④ 脳疾患、疾病、心神喪失によるケガ。 ⑤ 妊娠、出産、流産、外科的手術などの医療処置 (保険金が支払われるケガを治療する場合を除きます。) によるケガ。 ⑥ 戦争、内乱、暴動などによるケガ。(※) ⑦ 核燃料物質の有害な特性などによるケガ。 ⑧ ピッケル等の登山用具を使用する山岳登山、リュージュ、ボブスレー、ハンググライダーなどの危険な運動中のケガ。 ⑨ 自動車等の常用具による競技または試運転等を行っている間のケガ。 ⑩ 地震、噴火またはこれらによる津波によるケガ。 ⑪ 他覚症状のないむちうち症および腰痛。など (※) 条件付戦争危険等免責に関する一部修正特約が付帯されているため、テロ行為によるケガは除きます。
後遺障害保険金	被保険者が被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、その事故の日からその日を含めて 180 日以内に身体に後遺障害が生じた場合。	被保険者が被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、その事故の日からその日を含めて 180 日以内に身体に後遺障害が生じた場合。	後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害補償額の 3%~100%を支払われます。 ※保険期間 (保険のご契約期間) を通じ合算して死亡・後遺障害保険金が限度となります。	
傷害治療費用 保険金	被保険者が業務中に被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、その費用を負担した場合。	被保険者が業務中に被った偶然な事故 (通勤途上を含みます) によりケガをされ、その費用を負担した場合。	(1) 治療のために病院等に支払った費用 (2) 病院等の承認を得て使用された場合のベッドまたは病院の使用料 (3) 入院のために必要とした病院等までの交通費、医師等が必要と認められた入院のために必要とした交通費および退院のために必要とした病院等から居住までの交通費。 (4) 医師等の指示により行なった治療に關わる費用、医師等の指示により購入した治療に關わる薬剤、治療材料、医療器具の費用またはその他医師等が必要と認めた費用 次のいずれかの給付等がある場合は、その額を被保険者が負担した費用から除外します。 ① 公的医療保険制度を定める法令または労災保険法等の規定により補償対象者に対して行われる治療に關する給付 ② 被保険者が負担した費用について第三者より支払われた損害賠償金 ③ 被保険者が被った損害を補償するために行われたその他給付。 被保険者が身体障害を被った日からその日を含めて 365 日を経過した日の属する月の末日までの治療により負担した費用を補償します。	

被保険者の方への補償 (傷害保険)

全商協会マスコットキャラクターぜんしょうくん（着ぐるみ）の動産総合保険

- 取扱保険会社

東京海上日動火災保険 株式会社
- 取扱代理店

株式会社 SHISEIKAN（シセイカン）
- 保険期間

令和7年5月21日 から 令和8年5月21日 まで 1年間
- 被保険者

（公財）全国商業高等学校協会
- 保険料

全額を全商協会が負担
- 補償額

着ぐるみNO.1 85万円
着ぐるみNO.2 85万円

保険が支払われる場合の主な具体例

- 【損害保険金】：
- ・火災により、着ぐるみが焼損した。
 - ・イベントで使用するために現地に保管していた着ぐるみが盗難に遭った。
 - ・建物に保管中の着ぐるみが給排水管からの漏水により使用不能となった。
 - ・会場に輸送中の着ぐるみが交通事故で損壊した。
 - ・大会で使用中に転倒したために、着ぐるみが破損してしまった。
 - ・何者かによって着ぐるみが破損されていた。

補償項目	保険金が支払われる場合	支払われる保険金	保険金が支払われない主な場合
動産総合保険	動産の使用・管理によって不測かつ突発的に発生した事故により生じた損害 ・火災 ・落雷 ・破裂・爆発 ・風災・ひょう災・雪災 ・盗難 ・給排水管の事故による水漏れ ・輸送中の衝突・脱線・転覆などの事故 ・航空機の墜落、航空機からの落下物による事故 ・建物・構造物の倒壊 ・その他不測かつ突発的な事故 等	①損害保険金 ②残存物取り片づけ費用保険金 ③損害拡大防止費用 ④権利保全費用	①保険の対象が日本国外にある間に生じた損害 ②置き忘れ、紛失、万引きによって生じた損害 ③水災によって生じた損害 ④ご契約者、被保険者、保険金受取人またはこれらの法定代理人の故意または法令違反によって生じた損害 ⑤保険の対象の瑕疵によって生じた損害 ⑥詐欺または横領によって生じた損害 ⑦保険の対象に加工を施した場合、加工着後に生じた損害 ⑧保険の対象の修理、清掃、解体、据付、組立、検査、試験または調整等の作業中における作業上の過失または技術の拙劣によって生じた損害 （火災または破裂・爆発が発生した場合を除く。） ⑨汚れ、すり傷、かき傷、塗料のはがれ等単なる外觀の損傷であって保険の対象の機能に支障をきたさない損害 ⑩地震、噴火、洪水、津波等の天災に起因する賠償責任 ⑪保険の対象の自然の消耗もしくは劣化、ボイラスケール、保険の対象の性質による蒸れ、腐敗、変色、変質、さび、かび、腐食、キャビテーション、ひび割れ、はがれ、肌落ち、発酵または自然発熱、その他類似の事由またはねずみ食いもしくは虫食い等によってその部分に生じた損害

1. サイバー保険 制度の仕組み

- ◇保険契約者 : 公益財団法人公益法人協会
- ◇ご加入者 : 公益法人協会の会員法人
※退会された場合には、退会翌年度からは団体制度には加入できません。
- ◇記名被保険者 : ご加入法人およびご加入法人の使用人等※
※役員、使用人および労働者派遣を業として行う事業者から記名被保険者へ派遣された労働者をいい、その地位にあった者を含みます。
- ◇お支払限度額 (期間中限度額) : 『賠償5,000万円/費用5,000万円』『賠償5,000万円/費用500万円』『賠償1億円/費用1億円』『賠償1億円/費用1,000万円』『賠償3億円/費用3億円』『賠償3億円/費用3,000万円』の6パターンからご選択いただけます。
- ◇自己負担額 : なし
- ◇縮小支払割合 : 100%
- ◇セット特約 : 業務過誤賠償責任保険普通保険約款、サイバー保険特約条項、戦争等不担保追加条項 等
- ◇保険の適用地域 : 全世界

・告知内容、事業内容等によってはご加入いただけない場合や、別途個別の告知書等を頂戴することがございます。

2. 補償内容のご説明

サイバー保険は、ご加入法人が業務を遂行するために行うシステムの所有・使用・管理や情報の漏えいまたはそのおそれ等に起因する損害に対して次の保険金を支払うものです。

1 第三者への損害賠償に関する補償

以下記載の対象事由①～④の発生に起因して他人に損害を与えた場合の賠償責任・争訟費用の補償

法律上の損害賠償金

- サイバーリスクに起因して他人に損害を与えたことによって貴社が負担する損害賠償金
- 情報の漏えいにより生じた第三者の経済的な損失に対する損害賠償金等
(クレジットカード、キャッシュカードの情報が漏えいした場合、なりすまし等の不正使用による経済的損害も対象となります。)

弁護士費用等の争訟費用

- 弁護士着手金、成功報酬等
- サイバー保険の賠償リスクのカバーでは、以下の4つの事故に起因して発生する賠償責任を包括して補償します。

- | | |
|---------------------|--|
| ① 情報漏えい・おそれ (※) | 被保険者の業務における情報漏えいおよびそのおそれ |
| ② デジタルコンテンツ不当事由 (※) | デジタルコンテンツの使用の結果生じた名誉棄損や、プライバシー侵害、著作権または商標権侵害など |
| ③ サイバー攻撃 | 被保険者のコンピュータシステムに対する不正なアクセスや処理、操作、犯罪行為など |
| ④ ITユーザー業務 | 上記①～③以外の被保険者の業務の一環としてのシステムの所有・使用・管理に起因する偶然な事由 |

使用人等の犯罪行為・背任行為等に起因して生じた損害も補償します。
ただし、犯罪行為や背任行為等を行った使用人等自身の被る損害については補償しません。

2 事故発生時の各種対応費用

事故対応特別費用

原因調査から事態収拾まで、サイバー事故の対応にあたり必要となる諸費用を幅広く補償

調査/対応/事態収拾/復旧/再発防止

CHECK

対応例

- 調査：事故原因調査・影響調査
- 事態収拾：会見・マスコミ対応・コールセンター設置
- 復旧：データ復旧・情報機器復旧
- 再発防止：コンサルティング

サイバー攻撃対応費用

サイバー攻撃またはそのおそれに起因して被保険者が支出した諸費用を補償

初動/早期発見・早期復旧

CHECK

対応例

- サイバー攻撃発生の有無の確認のための外部委託費用
- ネットワークの遮断のための外部委託費用
- 弁護士等の外部の専門家への相談費用

情報漏えい対応費用

情報漏えいまたはそのおそれに起因して被保険者が支出した諸費用を補償

見舞金・見舞品/モニタリング

CHECK

対応例

- 上記の事故対応特別費用
- 被害者への見舞金・見舞品
- 情報漏えいのモニタリング

欧州GDPRおよび改正個人情報保護法に対応！！

法令等対応費用

情報漏えいまたはサイバー攻撃によって、公的機関から調査等が行われた場合に、被保険者が支出した諸費用を補償

相談・調査

CHECK

対応例

- 弁護士・コンサルタント等の専門家への相談費用
- 報告書等の文書作成費用、公的機関への報告にかかる費用
- 証拠収集費用・翻訳費用

令和7年度 主要行事予定

公益財団法人産業教育振興中央会

年 月 日	行 事 予 定
5月29日(木)	・第1回通常理事会 ・全国産業教育振興会連絡協議会(全産協)役員会、総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議
6月中旬 〃 下旬	・定時評議員会 ・臨時理事会 ・産業教育改善に関する特別研究 助成者決定 ・教員海外産業教育事情研修 派遣者決定 ・御下賜金記念産業教育功労者表彰 被表彰者の決定
7月中旬	・産業教育振興関係施策等の要望活動
10月上旬	・第2回通常理事会
10月25日(土) 26日(日)	・第35回全国産業教育フェア福島大会 ビッグパレットふくしま、郡山総合体育館、 郡山女子大学、聖光学院高等学校
10月25日(土)	・第67回全国産業教育振興大会福島大会 (郡山ビューホテルアネックス)
10月下旬	・専門高校生徒研究文・作文コンクール 入選作品決定 ・産業教育振興関係施策等の要望活動
11月中旬	・教員海外産業教育事情研修 派遣
12月中旬	・専門高校等御下賜金記念優良卒業生選奨 候補生徒決定
令和8年 1月下旬	・「翔第35集」及び「特別研究成果第62集」 刊行
2月中旬	・専門高校就職指導等研究協議会開催
2月下旬	・第3回通常理事会
3月中旬	・臨時評議員会

全国産業教育フェア参加県ローテーション

年度(回数)	開 催 地	意見体験発表	作品・研究発表
平成 29 年度(27)	秋 田 県	山 口 県	長 野 県
平成 30 年度(28)	山 口 県	新 潟 県	静 岡 県
令和元年度(29)	新 潟 県	大 分 県	埼 玉 県
令和 2 年度(30)	大 分 県	埼 玉 県	東 京 都
令和 3 年度(31)	埼 玉 県	青 森 県	関東ブロック
令和 4 年度(32)	青 森 県	福 井 県	東北ブロック
令和 5 年度(33)	福 井 県	栃 木 県	北信越ブロック
令和 6 年度(34)	栃 木 県	福 島 県	関東ブロック
令和 7 年度(35)	福 島 県	佐 賀 県	東北ブロック
令和 8 年度(36)	佐 賀 県	愛 媛 県	九州ブロック
令和 9 年度(37)	愛 媛 県	熊 本 県	四国ブロック
令和 10 年度(38)	熊 本 県	長 野 県	九州ブロック
令和 11 年度(39)	長 野 県	香 川 県	北信越ブロック
令和 12 年度(40)	香 川 県	山 梨 県	四国ブロック
令和 13 年度(41)	山 梨 県	高 知 県	関東ブロック
令和 14 年度(42)	高 知 県	長 崎 県	四国ブロック
令和 15 年度(43)	長 崎 県	兵 庫 県	九州ブロック
令和 16 年度(44)	兵 庫 県	滋 賀 県	近畿ブロック
令和 17 年度(45)	滋 賀 県	奈 良 県	近畿ブロック
令和 18 年度(46)	奈 良 県	宮 崎 県	近畿ブロック
令和 19 年度(47)	宮 崎 県	鳥 取 県	九州ブロック
令和 20 年度(48)	鳥 取 県	東 京 都	中国ブロック
令和 21 年度(49)	東 京 都	令和 22 年度開催県	関東ブロック

ローテーションの基準

- 意見体験発表は、全国産業教育フェアの次年度開催地が発表する。
- 作品・研究発表は、令和 2 年度までは、全国産業教育フェア開催年度に行われる生徒商業研究発表大会の開催地が発表する。
令和 3 年度以降については、全国産業教育フェアを開催する県のあるブロック(以下開催ブロック)から選出する。
- 作品展示参加は、全商 9 ブロックから各 2 点とする。ただし、開催ブロックについては 4 点とする。なお、特別な事情があるときは開催地と協議する。

※上記ローテーションの基準は、平成 7 年 1 月並びに令和元年 10 月の全商全国役員会で了承を得たものである。

※旅費等の費用については、各発表都道府県で負担する。



専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典
第35回全国産業教育フェア福島大会



大会マスコットキャラクター
キビタン©福島県

産業から変わる福島の未来 さんフェア福島 2025



ポスター原画デザイン: 福島県立福島工業高等学校 電気科 関根 龍生
キャッチコピー: 福島県立福島商業高等学校 経営ビジネス科 佐藤 律希

令和7年

10/25^土・26^日

会場

ビッグパレットふくしま (福島県産業交流館)
郡山総合体育館
学校法人 郡山開成学園 郡山女子大学
学校法人 聖光学院 聖光学院高等学校

主催

第35回全国産業教育フェア福島大会実行委員会、文部科学省、福島県、
福島県教育委員会、郡山市、郡山市教育委員会、公益財団法人産業教育振興中央会、
全国産業教育振興会連絡協議会、福島県産業教育振興会

問い合わせ先

第35回全国産業教育フェア福島大会実行委員会事務局 (福島県教育庁高校教育課内)
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号 (西庁舎5階)
TEL.024-521-8643 FAX.024-521-7973
URL <https://koukou-s.fcs.ed.jp>



大会HPはこちらから ▶ 93

さんフェア福島

令和7年 10/25 土

令和7年 10/26 日

※全国高校生フラワーアレンジメントコンテストの開閉会式はコンベンションホールBで行います。





第35回全国産業教育フェア福島大会



「キビタン©福島県」

全国高校生

観光ビジネスアイデアコンクール

決勝審査

令和7年10月26日(日)

9:00~14:30

ビッグパレットふくしま

1F:コンベンションホールA

一次審査

【申込期間】

令和7年8月1日(金)

～ 8月20日(水)

(書類審査・エントリーシート)

表彰

- ・最優秀賞
- ・優秀賞
- ・奨励賞

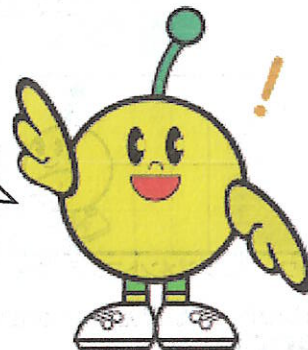
高校生の視点で
新たな観光(魅力)
を創造する

「観光ビジネスプラン部門」

&

「デジタルコンテンツ部門」

の2部門があります



「キビタン©福島県」

【主催】

第35回全国産業教育フェア福島大会実行委員会、文部科学省、福島県、福島県教育委員会、郡山市、郡山市教育委員会、公益財団法人産業教育振興中央会、全国産業教育振興会連絡協議会、福島県産業教育振興会

【問い合わせ】

〒963-8862

福島県郡山市菜根5-6-7

福島県立郡山商業高等学校

Tel:024-922-0724

✉:business2025-gr@fcs.ed.jp

最新情報は
さんフェアふくしま2025
HPをチェック

